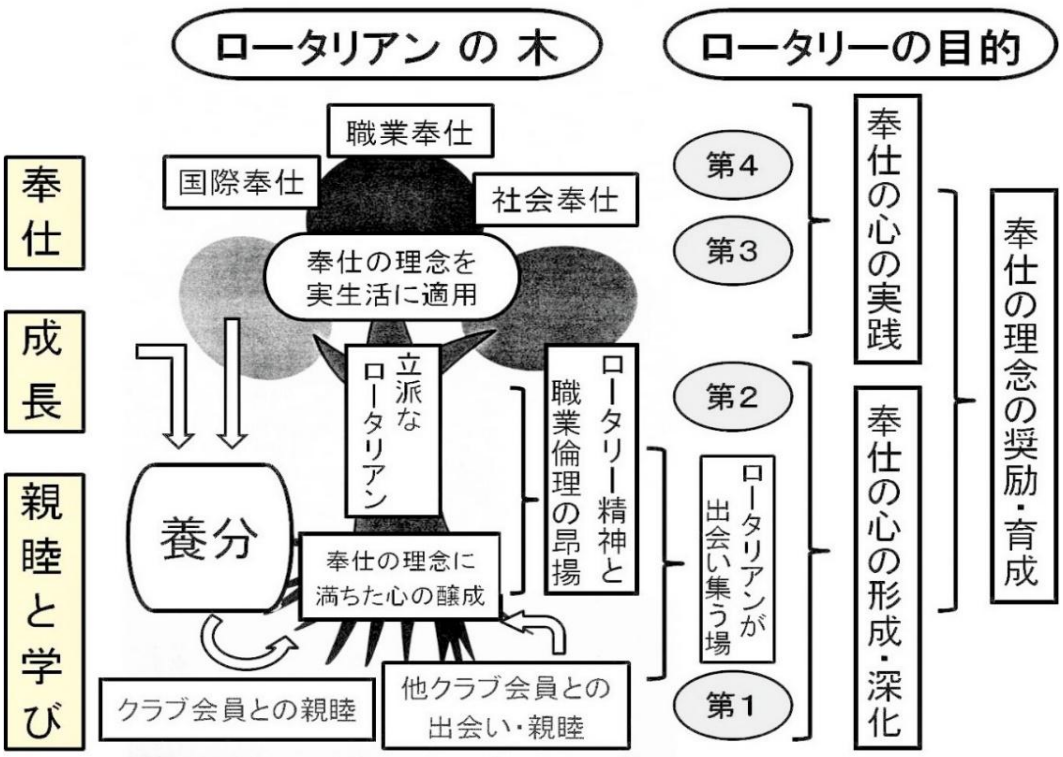
# What is Rotary？

## ～ Guy Gundaker から学ぶロータリー ～

（2025 年 4 月　増補改訂 13 版）




本冊子は、Guy Gundaker の著作『A Talking Knowledge of Rotary』（1916 年）の翻訳や解説ではなく、その内容を私なりに再整理して分かり易く紹介しながら、「What is Rotary？」の視点から見た“Guy Gundaker のロータリー観”についてまとめたものです。

本冊子を読んでくださったロータリアンは、“Guy Gundaker のロータリー観”が、その後のロータリー発展に大きく貢献したことにお気づきになるでしょう。さらに、後半の「6. Gundaker の今日的意義」では、「Grow Rotary」を目指す現代のロータリーにおいても大いに活かすべき考え方であることを強調しています。

本冊子は、日本語版と英語版で発行しました。世界中のロータリアンが Guy Gundaker の大ファンとなり、ロータリーを今まで以上に大好きになってくだされば、私にとって望外の喜びです。

鈴木 一作

本冊子は、第 2800 地区ＨＰの「ロータリーを学ぶ」
https://rid2800.jp/learn-rotary/learn-with-text/
または右記のＱＲコードで、「03. What is Rotary？」からダウンロード（日本語版と英語版）が可能です。

# ＜目 次＞


はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

1．Guy Gundaker の基本的なロータリー観・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
【1】ロータリークラブの特徴
【2】ロータリーの親睦
【3】ロータリークラブの構成と目的
【4】ロータリーの基本と応用
1）ロータリーの基本：会員一人一人の向上
2）ロータリーの基本：会員の事業の向上
3）ロータリーの応用：会員の業界全体の向上
4）ロータリーの応用：会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上
【5】ロータリーの奉仕
【6】ロータリーの中立性
【7】ロータリアンの利益（ロータリーの魅力と価値）
【8】ロータリーの徽章

2．ロータリークラブの責務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
【1】クラブ運営
1）クラブ会長
2）クラブの「役員会」と「理事会」
3）ロータリーの新入会員
4）クラブの「問題点の発見」と「改善」
【2】例会運営
1）例会欠席者
2）会長挨拶（会長スピーチ）
3）魅力的で価値ある例会プログラム
① 会員の未知の能力を引き出し、かつ会員同士が理解を深め合う例会
② 会員の事業に助力を与える例会
③ 奉仕の意欲が沸き上がる例会
④ 夕刻の例会

3．ロータリアンの義務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
【1】クラブ会員してのロータリアンの務め
【2】職業人としてのロータリアンの務め
1）事業経営者としてのロータリアンの務め
2）業界人としてのロータリアンの務め
【3】地域住民としてのロータリアンの務め

4．ロータリークラブの一体感と居心地の良さ・・・・・・・・・・・・・・・・・43

５．Guy Gundaker が考える「ロータリーの理想」 ・・・・・・・・・・・・・・・45
【1】「ロータリーの理想（The ideals of Rotary）」の意味
【2】「ロータリーの理想」と「ロータリーの目的」
1）ロータリーの目的（第1）
2）ロータリーの目的（第2）
3）「奉仕の理想（理念）」とロータリーの目的（第3）

６．Guy Gundaker の今日的意義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
【1】「クラブ奉仕」とGuy Gundaker
【2】「職業奉仕」とGuy Gundaker
【3】「会員増強」とGuy Gundaker
【4】「現代のロータリー」とGuy Gundaker

７．What is Rotary？ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

附記（第2800地区ホームページ日本語ＰＤＦ版のみ掲載） ・・・62
附記1 ロータリーのクラブ運営（総論：心得と役割）
① 役員と理事
② 委員会
③ クラブ会長
④ クラブ幹事
附記2 ロータリーのクラブ運営（寒河江ＲＣでの実践）

おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70

参考コラム
参考1：奉仕の分類と定義について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
参考2：「奉仕の理想（理念）」の説明で引用されてきた2つの文書・・・・・19
参考3：ロータリーの2つの標語（Motto）とGuy Gundaker ・・・・・・23
参考4：クラブの問題点の具体例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
参考5：会長挨拶（会長スピーチ）の心得・・・・・・・・・・・・・・・・31
参考6：ローターアクトクラブの課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
参考7：ＤＥＩとToleration ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
参考8：職業奉仕の森（職業人としてのロータリアンの務め）・・・・・・・54

Courtesy of the Library of Congress, Prints & Photographs Division, photograph by Harris & Ewing

ROTARY, ROTARIAN, SERVICE ABOVE SELF, MASTERBRAND SIGNATURE and MARK OF EXCELLENCE are registered trademarks of Rotary International. Rotary International was not involved with the publication of this book and the views expressed in this book do not reflect the views and opinions of Rotary International.

# はじめに

21 世紀に入って、アナログからデジタルへの移行、人工知能技術の飛躍的発展など、世界はグローバル化と高度な情報社会がますます進んできました。その一方、テロや紛争に加え、自然災害、環境破壊、ポピュリズム、格差社会などの問題も噴出してきました。そこに新型コロナウイルス禍が世界規模で起こり、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ紛争が今も続いています。まさに、世界は分断と対立の時代を迎えたかのような状況です。それだけに、今こそ人類は叡智と努力を結集し、危機意識を持ちながら、持続可能な社会と平和な世界を本気で目指さなくてはなりません。

そうした中、ロータリーの方向性や役割についても、時代の状況に応じた新たな変革が求められています。しかし、拙速で見通しが甘い、安易な変革に走ってしまえば自滅の道を辿るでしょう。実際、新たな変革を追い求めるあまり、起業時の設立理念を忘れ、社是や社訓などを疎かにし、事業の価値やモラルより目先の利益を優先した経営に転じたために、社員からも顧客からも見放され、結局は消滅していった老舗名門店や有名企業は数知れないのです。

それだけに我々ロータリアンは、100 年以上経過した今でも燦然と輝き続ける「ロータリーの価値や魅力」と「ロータリアンの在るべき姿」を忘れてはなりません。その上で、変革の内容をはじめ、準備やスピードについても、各国の国民性や伝統文化などの違いを踏まえた調査と検討を十分に重ねながら、正しい選択と決断をするべきです。

1916 年に発行され、当時のロータリーにおけるクラブ運営の教科書となった Guy Gundaker の著作『A Talking Knowledge of Rotary』は、その後のロータリー発展の礎になったと言ってもよいでしょう。実際、今でも世界中のクラブの例会運営は、Guy の考え方が基本です。決議 23−34 の内容、1927 年の『目標設定計画』で採択されたクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕の定義、さらに現在の『ロータリーの目的』の冒頭の文および第１～第3の内容にしても、“Guy Gundaker のロータリー観”が強く影響しています。もちろん、様々な書物や講演で述べられてきたロータリーの解説にしても、大部分は Guy のロータリー観に準じた内容ばかりです。

しかし、最近では Guy Gundaker の功績はおろか、名前すら知らないロータリアンが世界中に大勢います。それは、ロータリーの歴史、伝統、価値や奉仕理念を学び合う機会が少なくなってきたからではないでしょうか。だからこそ稽古照今、私は今こそ敢えて「What is Rotary ? 」をロータリアン一人一人に問いたいのです。それは、100 年を超えるロータリーの価値ある歴史を踏まえ、かつ 21 世紀におけるロータリーの変革と発展を見据えた上での「What is Rotary ?」でなければなりません。なぜなら、この問いに対する回答をロータリアン一人一人が持たなければ、我々は変革の道しるべを見失った「迷えるロータリアン」となってしまうからです。

『A Talking Knowledge of Rotary』の邦訳本は、私が敬愛してやまない３人のロータリアン（小堀憲助、田中毅、三木明）が既に世に出しています。どれも名著ですが、以前から私は「邦訳本だけでなく、解説書も必要ではないか」と思っていました。すなわち、Guy Gundaker を知らない、そしてロータリーの歴史や伝統にあまり詳しくないロータリアンにも理解しやすい『A Talking Knowledge of Rotary』の解説書です。

その解説書として、2020 年7月、『Guy Gundaker から学ぶロータリー　～ A Talking Knowledge of Rotary の世界～』を編集発行したところ、嬉しいことに、その内容を『ロータリーの友』の「ガイ散策」（2021 年７月号～2022 年６月号）に執筆連載する機会をいただきました。そのおかげで、全国の諸先輩から賛辞のお言葉や珠玉のご意見を多数いただいております。

そこで今回は、『A Talking Knowledge of Rotary』の解説書ではなく、“Guy Gundaker のロータリー観”の解説書として編集し直した内容を、新たに日本語版と英語版で発行いたしました。特に、世界中のロータリアンに“Guy Gundaker のロータリー観”を知ってもらうとともに、それを 21 世紀のロータリー発展のために「どう活かすべきか、どう活かせるか」ということを主眼に置いて解説することに努めました。もちろん、あなたにとっての「What is Rotary ?」のヒントを見つけることもできるでしょう。

ここからは、本解説書を読むにあたり知っておいて欲しいこと、すなわち『A Talking Knowledge of Rotary』の概略、そしてGuy Gundakerの人物像について紹介いたします。

## ● A Talking Knowledge of Rotaryの編集発行

Guy Gundaker

『A Talking Knowledge of Rotary』は、ロータリー誌「The Rotarian」の1916年4月号、5月号、6月号、7月号に連載されたGuy Gundakerの記事「Educational Pamphlets for Rotarians（pamphlets No１－No４）」に基づいて、国際ロータリークラブ連合会のCommittee on Philosophy and Education（理論・教育委員会＜委員長：Guy Gundaker＞）によって編集発行された小冊子です。

その内容は、

**当時の「ロータリーの奉仕概念、ロータリークラブの責務（クラブ運営の在り方）、ロータリアンの義務」を体系化したもので、史上初めてのロータリーの教科書**

だったのです。

また、その小冊子には、1915年7月の米国カルフォルニア州サンフランシスコ国際大会で採択された

**全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓：通称『道徳律（職業論理訓）』**

（The Rotary Code of Ethics for Business Men of All Lines）

の全文も掲載されており、『道徳律（職業倫理訓）』の普及にも大いに貢献したと言えるでしょう。

さらに、その小冊子は1916年７月の米国オハイオ州シンシナティ国際大会で、

**ロータリーのクラブ運営のテキスト**

として採択され、その後の普及にも弾みがつきました。

驚いたことに、以上の出来事は、なんと第一次世界大戦（1914～1918年）の最中に起きているのです。

## ● Guy Gundakerの経歴

Guy Gundaker（1873～1960）は米国フィラデルフィア・クラブの創立会員の一人で、職業分類はレストラン経営。出身はペンシルバニア州で、コーネル大学、ペンシルバニア州立大学法学部を卒業し、1902年に弁護士登録をしています。その後、Guyはレストラン経営に身を転じ、全米レストラン協会を結成して「レストラン協会の道徳律（職業倫理訓）」を作ったことでも知られています。また、ロータリーの創立者Paul Percy Harris（1868～1947）の親しい友人でもありました。

実は、Guy Gundakerは1923-24年度の国際ロータリー（Rotary International：ＲＩ）会長で、日本のロータリアンが重要視している『決議23-34』の採択時（1923年６月）は、ＲＩ会長エレクトでした。しかも、その決議の内容は、“Guy Gundakerのロータリー観”が色濃く反映されているのです。

## ● Guy Gundakerと日本との関わり

1923年９月１日に日本で起きた関東大震災では、ＲＩからGuy Gundaker会長の見舞い電報とともに２万５千ドル、さらに世界中のロータリークラブからも多額の義援金が送られてきました。当時、日本はロータリークラブができたばかりで、東京ＲＣ（1920年創立）と大阪ＲＣ（1922年創立）の２つしかありませんでした。それだけに、当時の日本のロータリアンは驚きと感謝の気持ちでいっぱいだったことでしょう。東京ＲＣは、その義援金を罹災者救護、小学校再建、孤児院の新築寄贈（ロータリー・ホーム）などに使いました。まさにロータリーのインパクトを高め、公共イメージ向上にも役立ったのです。そして1925年、東京ＲＣは感謝報恩の気持ちを込めて、米国で起きた竜巻被害者へ２万５千ドルの援助金を送っています。

こうしたことで、日本ではロータリークラブ拡大に弾みがつきました。1924 年以降の数年間で、神戸、名古屋、京都、横浜、京城（ソウル）にもクラブができて、1928 年には７つのクラブで第 70 区になりました。その後、満州の大連や奉天にもクラブができて、1929 年、京都で最初の地区大会が開催されたのです。

もう一つ忘れてならないのは、日本のロータリアンの Guy Gundaker に対する尊敬と感謝の念でしょう。それは、日本でロータリーを学ぶための教科書として使われた本が『A Talking Knowledge of Rotary』であったことにも表れています。“Guy Gundaker のロータリー観”が日本のロータリアンの心に根づき、かつ受け継がれてきたのは、その内容の素晴らしさに加えて、以上のような事情もあったのです。それだけに、日本のロータリーにとっては、とても縁の深い人物と言えるでしょう。

1930 年、Guy Gundaker は夫妻で来日しています。東京 RC をはじめ、日本中のロータリアンから温かく迎えられたことは言うまでもありません。

## ● Guy Gundaker が考えるロータリー

“Guy Gundaker のロータリー観”は多岐にわたりますが、重要なポイントは以下の通りです。

**Guy Gundaker が考える「ロータリーの姿」**

ロータリーとは、
ロータリークラブにおいては**「親睦と学びの場」**であり、
ロータリアンにおいては**「人間性の向上」**をもたらすものであり、
仕事においては**「事業と業界の発展向上」**に繋げるべきものであり、
世間においては**「世の中を良くしていく向上運動」**であり、
究極の目的は**「素晴らしい真のロータリアン」**を育て、支援し、増やすこと
（Evolution of Members of Rotary Clubs into Real Rotarians）
である。

**Guy Gundaker が考える「ロータリーのクラブ運営」**

ロータリークラブは、
選ばれた多様なリーダーが集い、**「親睦、学び、成長、奉仕」**を主体とした
魅力的で価値あるクラブ運営が行われなくてはならない（**Grow Rotarians & Enjoy Rotary**）。
そうやって、ロータリークラブが**“素晴らしい真のロータリアン”**を育て、支援し、増やしていけばこそ、世の中は良くなり、ロータリーが発展していくのである（**Grow Rotary**）。

本書では、上記の内容を詳しく解説していきます。言うまでもなく、それらは現代においても「ロータリーの価値と魅力」および「ロータリーの在るべき姿」として重要であり、今後も強調していかなくてはならないことばかりです。

“ 世界中のロータリアンに、
21 世紀のロータリーの在り方を考える
ヒントになればという願いを込めて ”

2025 年 3 月 31 日（40 回目の結婚記念日に）
鈴木 一作

# １．Guy Gundaker の基本的なロータリー観

## 【１】ロータリークラブの特徴 〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ロータリークラブが他のクラブと異なる特徴として、Guy Gundaker は次の４つを挙げています。

① 限定会員制度
② 「会員自身」と「会員の事業」の双方に関わる向上活動
③ 会員に対し、職業上の高い倫理基準を保つ義務を課すこと
④ 教育的性格

『A Talking Knowledge of Rotary』が発行された1916年当時、上記①の「限定会員制度」の内容は

**「一業種・一会員制度」**

でした。その後、その内容は何度か変更されてきましたが、現在（2024年時点）は

「善良さ、高潔さ、リーダーシップを身をもって示し、事業、専門職務、および／または
地域社会でよい評判を受けており、地域社会および／または世界において奉仕する意欲のある
成人によって構成される」（→『**標準ロータリークラブ定款（第８条の１）**』参照）

という規定になっています。簡潔に言い換えれば、

**「職業人や社会人のリーダーで、周囲からの評判も良く、奉仕する意欲がある成人」**

です。いずれにしても、ロータリークラブは、現在も「限定会員制度」であることに変わりはないでしょう。

上記②は、ロータリークラブは様々な学びの機会を会員に提供しながら、会員の個人的な成長および事業の向上に貢献しているという意味です。もちろん、現代でも通じる特徴と言ってよいでしょう。
上記③は、『ロータリーの目的（第２）』に記されているように、今でもロータリーの重要な特徴です。

要するに、内容に多少の違いはあるものの、他のクラブと異なる「ロータリーの特徴」として

**「Guy Gundaker が100年以上前に挙げた上記の①②③は、現代のロータリーにも当てはまる」**

のです。では、上記④の「教育的性格」はどうでしょう。

### ● ロータリークラブの教育的性格

Guy Gundaker は、ロータリー入会後の会員には、

**・訓練（training）／学び（learning）／教育（education）**

が必要であることを強調しています。そして、それらの目的は会員、クラブ、事業、業界、地域、社会の

**・向上（betterment）／成長（growth）／発展（development）**

であるとした上で、

“ロータリーに入会した者は、ロータリーの原則と慣例に基づく教育を受け、その教育成果を
「個人の向上の分野」および「他人のための活動の分野」の両方で示すことが強く期待されている。”

と述べています。

これが Guy Gundaker の指摘した

**「ロータリークラブの教育的性格」**

（Rotary has a distinct field of its own and it is mainly <u>educational in character</u>.）

です。Guy Gundaker は、

**“素晴らしい真のロータリアン” が増えれば、彼らの活躍（奉仕）によって世の中は良くなる。”**

と考えていたのです。言い換えれば、

**“人間性の向上というロータリーでの成長によって、日常のあらゆる場面や状況で奉仕する
ロータリアンを育てること。すなわち、「人作り」こそがロータリーの使命である。”**

ということです。（→ P45参照）

ちなみに、Guy Gundaker が述べた「ロータリークラブの教育的性格」は、以下のような言葉とともに、その後のロータリーに綿々と受け継がれていきました。

**「ロータリークラブの教育的性格」を表す言葉**

- **Enter to learn, go forth to serve.**（入りて 学び、出でて奉仕せよ）
  1947-48年度ＲＩ会長 Samuel Kendrick Guernsey の言葉
- **Rotary is a maker of friendships and a builder of men.**（ロータリーは友情を作り、人を作る）
  1954-55年度ＲＩ会長 Herbert John Taylor（四つのテストの創始者）の言葉
- **Rotary's first job is to build men.**（ロータリーの第一の仕事は、人作り である）
  1974-75年度ＲＩ会長 William R Robbins の言葉

ここで、私は皆様に考えて欲しいのです。（→ P55-56参照）

**「職業人や社会人のリーダーで、周囲からの評判も良く、奉仕する意欲がある成人」**（→ P6参照）**なら、**

- **ロータリークラブに入会しただけで、誰もが“素晴らしい真のロータリアン”と言えるのか？**
- **ロータリークラブに入会後、ロータリーの様々な奉仕プロジェクトにお金と汗を出してさえいれば、誰もが“素晴らしい真のロータリアン”と言えるのか？**

もちろん、そうではありません。Guy Gundaker が考える“素晴らしい真のロータリアン”となるためには、クラブ入会後、次のような行動が必要です。

**素晴らしい真のロータリアン（高潔、寛容、親睦、学び、成長、奉仕）**

“素晴らしい真のロータリアン”とは、**「ロータリーの理想」**に励む人である。（→ P45 参照）

そのためには、

親睦と学びの場である例会に必ず出席し、
寛容な心でロータリーの志を共にする者同士の仲間意識の醸成に努め、
ロータリーの歴史や伝統、価値や奉仕理念を学び、職業観や人生観を深めるとともに、
奉仕の意欲を高め、奉仕の心を磨き、自己と仲間の成長に励みながら、
クラブ、事業、業界、地域、社会の向上発展に貢献する高潔なロータリアンを目指すための覚悟と情熱を持たなければならない。

つまり、ロータリーは“奉仕の奨励と実践”が目的のクラブではなく、“素晴らしい真のロータリアン”を育て、支援し、増やすことが目的のクラブだということです。もちろん、これは現代でも大切な考えです。

最近のロータリーでは、「教育的性格」は少し軽視されているような気がします。しかし、“素晴らしい真のロータリアン”を育てることを疎かにすれば、ロータリーは「地域のリーダーを集めただけの単なる奉仕団体」に過ぎなくなり、ロータリーの成長発展（Grow Rotary）は望めないのではないでしょうか。それだけに、

**現代のロータリーにおいても、「教育的性格」は重要な特徴**

でなくてはなりません。

**ロータリークラブの教育的性格【まとめ】**

＊ ロータリーの究極の目的は、“素晴らしい真のロータリアン”を育て、支援し、増やすことである。
＊“素晴らしい真のロータリアン”が増えれば、彼らの活躍（奉仕）によって世の中は良くなる。
＊“素晴らしい真のロータリアン”を育てることを疎かにすれば、「Grow Rotary」は望めない。
＊“素晴らしい真のロータリアン”とは、「ロータリーの理想」に励む人である。（→ P45 参照）

## 【2】ロータリーの親睦 ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

“Guy Gundaker のロータリー観”を学ぶには、「親睦（fellowship）」に対する理解が重要です。Guy は、

**“ロータリアンは、「親睦」と「学び」と「奉仕」に邁進しよう。”**

と強調しています。「親睦」は、「学び」と「奉仕」と同列に扱われるほど重要視されているのです。

その一方、Guy Gundaker は、クラブや会員の現状における問題点として、この「親睦」を挙げています。すなわち、会員同士の親睦を重視するあまり、「ロータリーの良き親睦こそがロータリーの全てである」という間違った考えを持つロータリアンが少なくないことを問題視したのです。

### ● ロータリーの親睦（fellowship）の『意味』

Guy Gundaker の「親睦（fellowship）」に対する考え方は、

**“ロータリーという苗木が成長するために、その根に栄養を与えてくれる土壌が「ロータリーの親睦」である。”**

というものです。

言い換えれば、

**“ロータリーでは、「親睦」は必要で重要だが、目的ではない。”**

ということです。なぜなら、あくまで「ロータリーという苗木の成長（Grow Rotary）」が目的だからです。

「ロータリーの親睦」を正しく理解するためには、もう１つ留意すべきことがあります。すなわち、日本語の「親睦」は、通常、英語の「friendship」という意味で使われていますが、

**ロータリーにおける「親睦」は、英語の「fellowship」の訳語である**

ということです。つまり、ロータリーの「親睦」は「friendship」ではなく、「fellowship」なのです。

その上で、我々ロータリアンは、交友の度合いや内容を示す３つの言葉、

“acquaintance”と“friendship”と“fellowship”

の違いを知っておかなくてはなりません。

- **“acquaintance”＝「知り合い程度の交友」**（slight friendship with someone）
- **“friendship”＝「親しい者同士の交友（友情）」**
  （目的や理念には関係なく、親しい友人の間柄で使われる言葉）
- **“fellowship”＝「志が同じ者同士の交友（仲間意識）」**
  （チームや組織、団体など、目的や理念が同じ者同士の間柄で使われる言葉）

上記を読めば分かるように、ロータリークラブは「同じ目的と理念を持つ組織」ですから、その会員であるロータリアン同士の間柄は、“acquaintance”や“friendship”ではなく、“fellowship”であることは明白です。すなわち、

**「ロータリーの親睦（fellowship）とは、ロータリーの志を共にする者同士の仲間意識」**

なのです。

したがって、Guy Gundaker の「ロータリーの親睦」に対する考え方は、

**“ロータリーという苗木が立派に成長していくためには、ロータリーの志を共にする者同士の仲間意識を高め合う「親睦」という土壌が必要である。”**

というように理解すればよいでしょう。

## ● ロータリーの親睦（fellowship）を育む『場』

ロータリーの親睦を育む『場』とは、クラブの例会、委員会活動、懇親会、地区の研修会など、

**ロータリアンが出会い集う『場』の全て**

です。言い換えれば、ロータリアンが出会い集う『場』の全てにおいて、ロータリーの志を共にする仲間意識を高め合うことが、我々ロータリアンに求められているのです。

大切なのは、そういう『親睦の場』を通して、ロータリアン同士が

**「acquaintance」から「friendship」へ、「friendship」から「fellowship」へ**

と、親交の度合いを深めていくことです。そして、「fellowship」をますます高め合っていくことで「親睦」という土壌が豊かに醸成され、ロータリーという苗木がさらに成長していくのです。

実際、当時の『推奨ロータリークラブ第8条の2（d)』（1922年採択）にも、クラブの親睦委員会の役割として、「会員間の acquaintance と friendship の推進」が明記されています。

（This committee shall promote acquaintance and friendship among the members.）

以上は、「親睦によってロータリアン同士の仲間意識を互いに高め合い、それを今後の奉仕活動に繋げ、活かしていく」という、現在の『ロータリーの目的（第１）』にも通じる内容です。（→ P38, 45 参照）

## ● 『ロータリーの基盤』：ロータリーの「親睦」と「学び」は一体である

Guy Gundaker は、1914 年に著した「５つの課題への協力」の中で、親睦の芽生えについて

「新旧の会員が親しく知り合い、交友を深めながら、ロータリーの精神や理念を語り合い、学び合い、深め合っていくことによって、心から打ち解けたロータリアン同士の親密な関係ができていく」

と述べています。すなわち、親睦における「ロータリーの学び」の重要性です。なぜなら、彼は

**“「ロータリーの親睦」が栄養に満ちた土壌になるためには「ロータリーの学び」が必要である。したがって、ロータリアンが出会い集う場の全て（特に例会）は、「ロータリーの親睦」を育む場であると同時に、「ロータリーの学び」を深める場でなければならない。”**

と考えていたからです。

それだけに、Guy Gundaker は、

**「親睦の中で学びを深め、学びを通して親睦を育むという相互作用こそ、“素晴らしい真のロータリアン”を育てるための最良の方法である」**

と強調しています。そして、これこそが『ロータリーの基盤』となるのです。（→ P38参照）

> **ロータリーの基盤（The Base of Rotary）**
> ロータリーの「親睦」と「学び」とは、ロータリーの志を共にし、それを強め高め合いながら、“素晴らしい真のロータリアン”になるために精進し合うことである。すなわち、ロータリーの「親睦」と「学び」は一体であり、それこそが**『ロータリーの基盤』**である。

同様な内容は、その後も多くの著名ロータリアンが語っていますが、私が特に好きなのは次の言葉です。

**“ロータリーは世界的な教育センターであり、人生の大学である。そこでは、誰もが先生であり、生徒でもあるのだ。”**（1977-79 年度ＲＩ理事 Jorge H. Aletta de Sylvas の言葉）

## ● ロータリーの親睦に欠かせない『Toleration』

Guy Gundaker 自身は述べていませんが、ロータリーの創始者 Paul Percy Harris は、

**親睦における Toleration（寛容、尊重、受容、我慢）の大切さ**

を強調しています。しかも、この「Toleration の大切さ」は、現在のＲＩが推奨している

**ＤＥＩ（Diversity, Equity, Inclusion：多様性、公平性、包摂性）**

にも通じるものです。これについては、後述します。（→ P49 参照）

## ● ロータリーの良き親睦を作り出すもの

Guy Gundaker は、良き親睦を作り出すものとして、以下の内容を記しています。

1．心のこもった握手
2．姓ではなく、名前で呼び合うこと
3．歌の合唱を行うこと
4．気の利いたウィットやユーモアに富む言動
5．会員間の思いやり、親切な行為
6．司会者、クラブ会員、ゲストなどに対する礼儀正しさ
7．成熟した実業家たるロータリアンに相応しい紳士的な振舞いと思慮深さ
　・ロータリーの例会では、決して酒の勢いを借りて議論してはならない。
　・ロータリーの例会では、発言者は無意味な冗談を言ってはならない。

上記の１～４は米国らしさを感じさせますが、５～７は万国共通の必須事項と言ってもよいでしょう。
私としては、上記５～７で言及されている内容に関連して、

**「ロータリアンは、他人の悪口や陰口を言ってはならない」**

ということを追加して、強調しておきたいと思います。

もちろん、意見を言うのは結構です。しかし、他人の悪口や陰口を言っては駄目です。そういう人は、ロータリーでは例外なく嫌われ、疎んじられ、やがては軽蔑されていくからです。例えば、それが社会的に地位や役職の高い人だったら、周囲には「面従腹背」の者しかいなくなります。しかも、それがロータリアンだったら、ロータリーの「親睦」を台無しにする人物と言ってもよいでしょう。当然、上記５～７の精神に違反しますし、周囲から信頼され、尊敬される“素晴らしい真のロータリアン”になれるはずがありません。

これまで私は、信頼と尊敬に値する“素晴らしい真のロータリアン”にたくさん出会いました。もちろん、経歴や考え方、性格などは人それぞれです。しかし、共通点が１つだけあります。それは、

**「意見は言っても、他人の悪口や陰口は決して言わないロータリアン」**

です。これは、現在の『ロータリアンの行動規範』の４）に記されている
「ロータリーやほかのロータリー会員の評判を落とすような言動は避ける」
にも通じることです。

### ロータリーの親睦【まとめ】

ロータリーでは、ロータリアンが出会い集う全ての場を通じて
ロータリーを学び合いながら、ロータリアン同士の交友を
**“acquaintance”「知り合い程度の交友」**
→ **“friendship”「親しい者同士の交友（友情）」**
→ **“fellowship”「ロータリーの志を共にする者同士の交友（仲間意識）」**
へと深めていくことによって、“親睦”という土壌が醸成されていく。
要するに、ロータリーの親睦と学びが一体であればこそ栄養に満ちた土壌となり、
その土壌の栄養のおかげで、ロータリーの苗木が立派に成長していくのです。
具体的には、**ロータリー精神を学び、共有し、高め合いながら、仲間意識を深めていくこと**です。
その場合、ロータリアンの誰もが**“Toleration（寛容、尊重、受容、我慢）”**の精神を
持っていなければなりません。

## 【3】ロータリークラブの構成と目的 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

『A Talking Knowledge of Rotary』の最初のページには、以下のように記されています。

● ロータリークラブの構成と目的

ロータリークラブは、異なった事業または専門職務から選ばれた者を以て構成され、次に掲げる目的を達成するために組織されたものである。

第1．会員一人一人の **向上**
第2．会員の事業の **向上**（現実と理想の双方において **向上**）
第3．会員の同業者・業界全体の **向上**
第4．会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の **向上**

*A Rotary club consists of men **selected** from each distinct Business or Profession, and is organized to accomplish:*

*First: The **Betterment** of the Individual Member.*
*Second: The **Betterment** of the Member's Business, both in a practical way and in an ideal way.*
*Third: The **Betterment** of the Member's Craft or Profession as a Whole.*
*Fourth: The **Betterment** of the Member's Home, Town, State and Country, and of Society as a Whole.*

先ず注目して欲しい点は、冒頭の

**「ロータリークラブは、異なった事業または専門職務から選ばれた（selected）者を以て構成」**

という表現です。これは当時の「一業種・一会員制度」という規定であると同時に、ロータリアンに

**「ロータリーから各々の業界に送られた代表者（大使）としての認識や義務を求める」**

という規定でもあるのです。（→ P15, 33, 40 参照）

2つ目の注目すべき点は、上記の第1～第4の全てに『**向上（Betterment）**』という言葉が使われており、

**「ロータリーは、自分自身を、家庭を、事業を、業界を、地域を、そして社会全体を向上させる運動である」**

という“Guy Gundaker のロータリー観”の核心が示されていることです。（→ P42, 45 参照）
言い換えれば、「自分も良くなり、みんなも良くなることを目指す運動」ですね。（→ P16 参照）

3つ目の注目すべき点は、上記の文章には、ロータリー創立当初の目的の1つであった「実業互恵」、すなわち「会員同士の取引義務」を示唆する表現がないことです。後述するように、Guy Gundaker は

**「実業互恵は、クラブ会員の義務ではない」**（→ P14 参照）

と考えていたのです。

4つ目の注目すべき点は、上記の文章には、ロータリー創立当初のもう1つの目的であった「親睦」を示唆する表現もないことです。すなわち、Guy Gundaker は、

**「ロータリーでは、親睦は（前述したように必要で重要だが）目的ではない」**（→ P8 参照）

と考えていたのです。

5つ目の注目すべき点は、

**「こうした Guy Gundaker の考え方は、1923 年に採択された『決議 23-34』の内容、1927 年に採択された『目標設定計画』におけるクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕の定義、そして現在の『ロータリーの目的』に受け継がれてきた」**

ことです。つまり、その後のロータリーの思想や発展の礎にもなったのです。（→ P17, 45-58 参照）

## 【4】ロータリーの基本と応用 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

Guy Gundaker は、前頁の『ロータリークラブの構成と目的』について、次のような説明をしています。すなわち、

“「第1．会員一人一人の向上」と「第2．会員の事業の向上」は、ロータリークラブがクラブ会員に対して果たすべき責務であり、クラブ運営の目的でもある。”（→ P25-36 参照）

とした上で、

**“第1と第2は、ロータリーの基本（Fundamental Rotary）である。”**

と述べています。

その一方、 Guy Gundaker は

“「第3．会員の業界全体の向上」と「第4．会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上」については、ロータリークラブで十分な教育と訓練を受けたロータリアンが自然と始めてしまいたくなるものである。”

とした上で、

**“第3と第4は、ロータリーの応用（Applied Rotary）であり、**
**クラブ会員が行なうべき義務（奉仕活動：Rotary - at - Work）である。”**

と述べるとともに、

**“ロータリーの応用こそ、ロータリーの真髄（The essence of Rotary）である。”**
（The essence of Rotary put - to - service becomes “Rotary applied”.）

と強調しているのです。

以上をまとめると、次のようになります。

● ロータリーの基本と応用
- ＊ロータリーの基本：クラブ運営の目的（クラブの責務）
  - 第1．会員一人一人の向上
  - 第2．会員の事業の向上（現実と理想の双方において向上）
- ＊ロータリーの応用：ロータリーの真髄（クラブ会員の義務：Rotary - at - Work）
  - 第3．会員の同業者・業界全体の向上
  - 第4．会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上

但し、上記「ロータリーの応用（ロータリーの真髄）：Rotary - at – Work」の第3と第4以外にも、クラブ会員が行なうべき重要な奉仕活動として、Guy Gundaker は「クラブ会員としてのロータリアンの務め」や「事業経営者としてのロータリアンの務め」にも触れています。これらについては一括して、「3．ロータリアンの義務」の項目で解説します。（→ P37-42 参照）

いずれにしても、Guy Gundakerは

**“ロータリーのクラブ・リーダーが「ロータリーの基本」という責務を果たしさえすれば、クラブ会員は親睦と学びの中で“素晴らしい真のロータリアン”に成長し、「ロータリーの応用」という奉仕活動を十分に果たすようになる。”**

と考えていたのです。

＊ロータリーの基本：ロータリークラブは、“素晴らしい真のロータリアン”を育てる（Grow Rotarians）
＊ロータリーの応用：“素晴らしい真のロータリアン”は、世の中を良くしていく

さて、ここからは、上記『ロータリーの基本』の第１、第２、そして『ロータリーの応用』の第３、第４の順に解説していきます。

## １）ロータリーの基本：会員一人一人の向上

最初の「会員一人一人の向上」についてGuy Gundakerが自ら説明した内容は、以下の１）～５）の５項目しかありません。この５項目だけで、全てが言い尽くされているということですね。

**● ロータリーの基本と応用**

＊ロータリーの基本：クラブ運営の目的（クラブの責務）

**第１．会員一人一人の向上**

**１）会員同士が事業経営上の経験を交換し合い、見識が広がるようにしてあげること**

**２）会員の思考の幅を広げ、向上心を喚起させること**

**３）奉仕の心を涵養せしめること**

**４）自己発展の最大の可能性が得られるように支援すること**

**５）優れた社会的指導者に育てること**

第２．会員の事業の向上（現実と理想の双方において向上）

＊ロータリーの応用：ロータリーの真髄（クラブ会員の義務：Rotary - at - Work）

第３．会員の同業者・業界全体の向上

第４．会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上

上記の１）～５）の５項目の内容は、「Grow Rotarians & Enjoy Rotary」の根幹そのものであり、親睦、学び、成長、奉仕を主体とした例会の充実にかかっていると言ってよいでしょう。（→ P25-26, 29 参照）

なお、上記５項目は少し古典的な表現なので、現代流に言い換えておきます。

**現代における「クラブ会員の向上を目指す例会」**

① 会員同士の「交流の時間」（懇談、情報交換、意見交換、討論）および
　会員やゲストの「感動的な卓話」（事業経営、職業観、生き方など、会員の見識が広がる卓話）
② 会員の「多様な学びと意欲喚起」
③ 会員の「奉仕の心の醸成」
④ 会員の「人間性の向上」
⑤ 会員の「リーダーシップの育成」

これら①～⑤の５項目が疎かな例会を続けていれば、ロータリーは魅力を失い、会員も減少し、存在価値すら危うくなるのは当然です。だからこそ、

**「クラブ会長の最大の責務は、魅力的で価値ある例会の開催」**（→ P27, 29, 37 参照）

なのです。要するに、「Grow Rotarians & Enjoy Rotary」に満ちた例会の開催です。

それだけに私は、以下の内容をクラブ会長の皆さんに確認しておきたいのです。

＊この５項目は、クラブ会長が会員に対して果たすべき責務であることを自覚していますか?
＊この５項目が十分に意識され、かつ満たされている例会を心がけていますか？
＊会員の誰もが、「例会に来てよかった」と思ってくれていますか？
＊新入会員は、「さすがは、ロータリーの例会だ」と言って、例会の内容に満足していますか？

これらに何ら問題がなければ、ロータリーに失望して退会していく会員は減るのではないでしょうか。

## 2）ロータリーの基本：会員の事業の向上

Guy Gundaker は、このテーマを ＜現実面＞ と ＜理想面＞ の２つに分けて説明しています。

● **ロータリーの基本と応用**

＊ロータリーの基本：クラブ運営の目的（クラブの責務）

第１．会員一人一人の向上

**第２．会員の事業の向上（現実と理想の双方において向上）**

**＜現実面＞**

**ロータリー活動を通して会員間に友情に満ちた信頼が生まれ、**
**取引増加の機会が与えられる。**
**（但し、与えられるものは、取引増加の「機会」だけである）**

**＜理想面＞**

**個人生活、事業生活、社会生活など、全ての場で実践すべき原則であり、かつ職業倫理や正しい事業経営にも通じる「ロータリーの理想（the ideals of Rotary）」をクラブ例会やロータリー活動を通して学び合い、それを事業生活の場で実践することで、事業は向上発展する。**

＊ロータリーの応用：ロータリーの真髄（クラブ会員の義務：Rotary - at - Work）

第３．会員の同業者・業界全体の向上

第４．会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上

前半の **＜現実面＞** に書かれている内容は、

“ロータリークラブに入会しても、すぐに商取引が増えることはない。しかし、入会後、普段のロータリー活動を通じて「信頼や人柄」が他の会員から認められるようになれば、やがて商取引の増加の機会に恵まれたロータリーを活かせるようになり、自己の事業の向上発展に繋がるだろう。”

というように理解すればよいでしょう。（→ P32 参照）

また、 **＜現実面＞** の最後に記されている

**“但し、与えられるものは、商取引増加の「機会」だけである”**

について、Guy Gundaker は

“ロータリアン同士の商取引は、ロータリーの義務ではない。ロータリーの本質でもない。ロータリーの存在理由でもない。あくまで商取引増加の「機会」があるというだけで、ロータリーにおいては、ロータリアン同士の商取引は単なる付随的な要素に過ぎない。”

と説明しています。要するに、Guy は

**ロータリー創立当初の目的の１つであった「実業互恵（会員同士の取引義務）」からの脱却**

を求めているということです。（→ P11 参照）

一方、後半の **＜理想面＞** については、「事業経営者としてのロータリアンの務め」として、

**ロータリークラブで「職業上の高い倫理基準」と「奉仕の諸原則」を学び、それらを事業生活で実践しながら自己の職業の高潔性を高めていけば、事業は向上発展する**（→ P33, 39, 45参照）

という意味であり、そうなるようなクラブ運営を Guy Gundaker は求めているのです。

ここで留意して欲しいのは、事業の向上発展のためには、

**「職業上の高い倫理基準」だけではなく、「奉仕の諸原則」も学び、実践することによって、「ロータリーの理想」に相応しい “素晴らしい真のロータリアン” になること**

も求められているということです。（→ P7, 39, 45 参照）

いずれにしても、ロータリーにおける「会員の事業の向上」を<現実面>と<理想面>に分けて述べた Guy Gundaker の見識には脱帽です。こうした考え方は、ロータリー創立後100 年以上たった今でも生きているように思います。
しかも、日本人が得意とする「本音と建前」にも通じる内容です。
なお、これについては。多少の私見とともに後述します。（→ P33 参照）

## 3）ロータリーの応用：会員の業界全体の向上

ここからは、〖ロータリーの応用〗について解説します。

● ロータリーの基本と応用
＊ロータリーの基本：クラブ運営の目的（クラブの責務）
第1．会員一人一人の向上
第2．会員の事業の向上（現実と理想の双方において向上）
＊ロータリーの応用：ロータリーの真髄（クラブ会員の義務：Rotary - at - Work）
**第3．会員の同業者・業界全体の向上**
**ロータリアンは、ロータリークラブから選ばれて、各々の業界に派遣された代表である。したがって、ロータリアンは、職業倫理と奉仕の諸原則を各々の業界で普及させる義務があり、それによって業界全体が向上発展していく。**
第4．会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上

Guy Gundaker は、
**「ロータリアンは、ロータリーから各々の業界に派遣された代表者（大使）である以上、他の同業者に働きかけながら、業界におけるロータリーの職業倫理と奉仕の諸原則の普及に努めるべきである」**（→ P11, 33参照）
と述べた上で、
**「ロータリアンは、業界全体を向上発展させていくという認識と義務と行動を忘れてはならない」**
と強調しています。すなわち、「業界人としてのロータリアンの務め」です。（→ P40参照）
もちろん、これも自己の職業の高潔性を高めていくことに繋がるのです。

ちなみに、この「ロータリーから各々の業界に派遣された代表者（大使）」という表現は、以前ならクラブのベテラン会員がよく口にされていた言葉ですから、多少の経験年数のあるロータリアンなら聞いたことがあるでしょう。

実は、この「第3．会員の同業者・業界全体の向上」について、Guy Gundaker は
**「会員の同業者および業界全体の向上をもたらすことは、ロータリーにとって最大の奉仕の機会である」**
（This is Rotary's greatest opportunity for service.）
と述べているのです。（→ P40参照）

同業者・業界全体の向上は社会の向上発展に繋がりますから、職業人たるロータリアンなら、当然の奉仕と言ってよいでしょう。
社会貢献という意味でも、実に重要な奉仕であるということですね。

このように、会員の同業者・業界全体の向上を重視していたのは、当時のロータリーの大きな特徴と言ってよいでしょう。もちろん、現代においても重要なことだと思います。（→ P40参照）

## 4）ロータリーの応用：会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上

次に、もう一つの〖ロータリーの応用〗である上記の内容について解説します。

> **● ロータリーの基本と応用**
>
> ＊ロータリーの基本：クラブ運営の目的（クラブの責務）
>
> 第1．会員一人一人の向上
>
> 第2．会員の事業の向上（現実と理想の双方において向上）
>
> ＊ロータリーの応用：ロータリーの真髄（クラブ会員の義務：Rotary - at - Work）
>
> 第3．会員の同業者・業界全体の向上
>
> **第4．会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上**
>
> **ロータリーの世界は、会員をより良いロータリアン、より良い市民、**
> **より良い国民となるように 訓練する ものである。それによって、**
> **会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体が向上していく。**

この「会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上」については、

“ロータリーでより良い人間に成長すれば（＝ 訓練）、より心のこもった交流や奉仕ができるようになる。
そうすれば、家庭生活や市民生活が実りあるものとなり、地域はもちろん、社会全体も良くなる。”

という理解でよいでしょう。すなわち、「地域住民としてのロータリアンの務め」です。（→ P37, 41参照）

Guy Gundaker は、

**・家庭での家族愛を実業の世界、そして町、州、国へと及ぼし広げていくことが、皆の幸せに繋がる。**

**・良き家庭人たれ！　良き職業人たれ！　良き市民たれ！　そして、良きロータリアンたれ！**

と考えていたのです。（→ P41参照）

Guy Gundaker は、上記の「良き市民たれ！　良きロータリアンたれ！」に関連して、市民生活が実りあるものとなる活動について、次のような説明をしています。

> ① 市民生活に対するロータリアンの関心は、ロータリークラブとしての活動より、
> むしろ個人として、または商工会議所の会員としての活動に結びつけるべきである。
>
> ② 社会奉仕のためにロータリークラブが団体行動をするのは、特別な場合ならよい。
> 但し、事前に慎重な配慮が必要である。特に、ロータリークラブとしての活動が、
> どの町にもあるような専門事業団体の活動と重複するものであってはならない。

①と②をまとめれば、

**“市民生活に関わる社会奉仕事業については、他の団体の活動と重複しないように配慮しながら、必要ならロータリークラブとして団体行動をしてもよい。しかし、本来は、ロータリアン個人としての奉仕活動として行うべきである。それが、「良き市民たれ！　良きロータリアンたれ」の意味である。”**

ということです。つまり、保護司、児童委員、ボーイスカウトのリーダー、地域の様々なボランティアなど、ロータリアンだからこそ大いに活躍できる「個人としての地域貢献」を重視しているのです。

ところで、上記の①と②の内容は、1923年に採択された『決議23-34』（現在の「社会奉仕に関する1923年の声明」）の 第6項、すなわち「クラブが団体的な社会奉仕活動を行う場合の指針」と類似していることにお気づきでしょうか。

『決議 23-34』は、「職業奉仕・個人奉仕の推進派」と「社会奉仕・団体奉仕の推進派」との妥協の産物だったとも言われています。妥協の産物とは、特に『決議 23-34』の 6）を指しているのですが、実際には、それより7年も前の 1916 年に、Guy Gundaker が『A Talking Knowledge of Rotary』の中で既に提示していた内容だったのです。彼の見識の高さには、本当に脱帽です。

参考までに、現在の「社会奉仕に関する1923年の声明（決議23-34）第6項」を記しておきます。

**● 社会奉仕に関する1923年の声明（決議23-34）第6項**
**～ クラブが団体的な社会奉仕活動を行う場合の指針 ～**

6. 個々のロータリークラブの社会奉仕活動の選択を律する規定は別に設けられていないが、これに関する指針として以下の準則が推奨されている。

a. ロータリーの会員の数には限りがあるので、ロータリークラブは、市民全体の積極的な支持なくしては成功しえないような広範囲の社会奉仕活動は、他に地域社会全体のために発言し、行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、これを行うこととすべきであり、商工会議所のある土地では、ロータリークラブはその仕事の邪魔をしたり、横取りをしたりすることのないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となって活動すべきであり、また、その土地の市民として、他の善良な市民と一緒に、広くすべての社会奉仕活動に関与し、その能力の許す限り、金銭や仕事の上でその分を果たすべきである。

b. 一般的に言って、ロータリークラブは、どんな立派な事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援をしてはならない。

c. ロータリークラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならないが、ロータリーの影響力を拡大する一つの方法として、クラブが立派に遂行した有益な事業については正しい広報が行われるべきである。

d. ロータリークラブは、仕事の重複を避けるようにする必要があり、総じて、他に機関があり、それによって既に立派に行われている事業に乗り出すようなことをしてはならない。

e. ロータリークラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行うことが望ましいが、現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じ、新たに機関を設けることにしても差し支えない。ロータリークラブとしては、新たに重複した機関をつくるよりも、現存の機関を活用することのほうが望ましい。

f. ロータリークラブはそのすべての活動において、宣伝者として優れた働きをし、多大の成功を収めている。ロータリークラブは地域社会に存在する問題を見つけ出すことはしても、それがその地域社会全体の責任にかかわるものである場合には、単独でそれに手を下すようなことはしないで、他の人々にその解決の必要を悟らせる努力をし、地域社会全体にその責任を自覚させて、この仕事がロータリーだけの責任にならないで、本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにしている。また、ロータリーは、事業を始めたり、指導したりするが、一方、当然それに関心をもっていると考えられるほかのすべての団体の協力を得るように努力すべきであり、そして、当然ロータリークラブに帰すべき功績であっても、それに対する自分のほうの力を最小限度に評価して、そのすべてを協力者の手柄にするようにしなければならない。

g. クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するもののほうがロータリーの精神によりかなっていると言える。それは、ロータリークラブでの社会奉仕活動は、ロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである。

（**下線部が Guy Gundaker の考え方と類似する内容**）

実は、『決議 23-34』の採択当時（1923 年６月）、Guy Gundaker は ＲＩ会長エレクトでした。もちろん、翌７月からはＲＩ会長です。それを考えれば、“Guy Gundaker のロータリー観”が『決議 23-34』に色濃く反映されていたことは、不思議ではないでしょう。（→ P11, 45-46 参照）

## 【5】ロータリーの奉仕 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

ここでは、“Guy Gundakerのロータリー観”における「奉仕」について解説します。注意すべきは、

**Guy Gundaker が述べる「奉仕」と現代のロータリーにおける「奉仕」との違い**

を理解しておかなくてはならないということです。

### 1）Guy Gundaker が考える「奉仕という言葉が意味する『分野』」

実は、1916 年に『A Talking Knowledge of Rotary』が発行された当時、ロータリーでは

**奉仕 ＝ 家庭、クラブ、職場、業界、地域社会、州、国など、様々な場面や状況での奉仕**

**（これらを総称して、「社会奉仕（Social Service、Service to Society）」とも表現する）**

という考え方が一般的でした。

しかし、1927 年のベルギーのオステンド国際大会で採択された「目標設定計画（The Aims and Objects Plan）」により、それまでのロータリーの一般奉仕概念が「クラブ奉仕（Club Service）」、「職業奉仕（Vocational Service）」、「社会奉仕（Community Service)」の３つに分類されました。理由は、奉仕をクラブにおける具体的な実践（委員会活動）に対応させるためだったと言ってよいでしょう。

その後、1928 年の米国ミネアポリス大会で「国際奉仕（International Service)」が追加され、さらに 2010 年の規定審議会で「青少年奉仕（Youth Service)」が加わり、現在の五大奉仕となりました。

それだけに、1927 年以前の「社会奉仕（Social Service ＝ 社会全体の様々な場面や状況での奉仕）」と 1927 年以降の「社会奉仕（Community Service ＝ 地域社会奉仕）」とは、明確な区別が必要です。

> 本解説書における「奉仕」＝1927 年以前の「社会奉仕（Social Service、Service to Society)」
> ＝ 社会全体の様々な場面や状況での奉仕の“総称”
> ＝ 現在のクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕（Community Service ＝ 地域社会奉仕)、国際奉仕、青少年奉仕、その他の奉仕の“総称”

### 参考１：奉仕の分類と定義について

五大奉仕は、クラブの委員会構成を奉仕活動の分野毎に分かり易く整理したものと言ってよいでしょう。それだけに、ロータリーの奉仕活動を、この五大奉仕のどれかに振り分けないと気が済まないロータリアンが少なからずいます。すなわち、奉仕の分類（色分け）にこだわるロータリアンです。そんな人は、

**「ロータリアンの医師らが開発途上国に行って子供たちの無料診療をする奉仕活動の場合、**
**これは職業奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、社会奉仕のどれに相当するのですか？」**

という質問に対して、どういう回答をするのでしょう。

もし、Guy Gundaker が生きていれば、

**“愚問だね。なぜ、奉仕を色分け（分類）するの？　奉仕に色はありませんよ。どの委員会が担当するかという問題ですか？　どの委員会でも構わないでしょう。ロータリアンは、様々な場面や状況で奉仕（向上）に徹するだけです。我々は、いつでもどこでもロータリアンですよ。”**

と回答するのではないでしょうか。（→ P52参照）

もう一つ気になるのは、五大奉仕の中でも、特にクラブ奉仕と職業奉仕の内容を正しく理解できていないロータリアンが少なくないことです。その主たる理由は、次の通りです。（→ P47-54 参照）

＊目標設定計画 (1927 年) に基づいた「クラブ奉仕」と「職業奉仕」の本来の定義を知らないから。
＊20 世紀後半以降、クラブ運営が強調されて、「クラブ奉仕 ＝ クラブ運営」という誤解があるから。
＊20 世紀後半以降、「職業奉仕」の定義に追加されてきた内容が十分に理解されていないから。

## 2）Guy Gundaker が考える「奉仕という言葉が意味する『内容』」

Guy Gundaker は、『A Talking Knowledge of Rotary』の中で「Service（奉仕）」という言葉は使っていますが、不思議なことに、その具体的な意味については説明をしていません。

しかし、本解説書を熟読してくださった方は、「Service（奉仕）」の同義語として、Guy が状況に応じて使い分けていた言葉が2つあることに気づいたのではないでしょうか。それは、

**「向上（Betterment）」と「務め（Duty／Responsibility）」**

です。具体的には、「奉仕とは、向上をもたらす行動」とか「奉仕は、ロータリアンの務め」などの使い方をしています。少なくとも、“親切”や“思いやり”という意味で使ってはいないのです。

要するに、Guy Gundaker は

**“奉仕とは、日常のあらゆる場面や状況で実践すべき「向上や発展をもたらす行動」であり、それはロータリアンの「務め」である。”**

と考えていたのです。言い換えれば、

**“「向上や発展をもたらす行動」は“親切”や“思いやり”からではなく、ロータリアンの「務め」、すなわち高潔な「使命」である。”**（→ P45 参照）

ということです。なお、この考え方を「高貴なる者の義務：ノブレス・オブリージュ（noblesse oblige）」と解釈する人もいるようです。但し、Guy Gundaker 自身は、そのような解釈については言及していません。

### 参考２：「奉仕の理想（理念）」の説明で引用されてきた２つの文書

これまで著名なロータリアンが「奉仕の理想（理念）：the ideal of Service」について説明する際、しばしば引用されてきた文書が２つあることをご存じでしょうか。参考までに、以下に紹介いたします。

１つは、1931 年にＲＩが発行した「The Aims and Objects Plan（Pamphlet No.３）」に記載されているものです。これは、「the ideal of Service」に関する最初のＲＩ公式声明と言ってもよいでしょう。

> 奉仕の理想（理念）は、以下の内容を包含したものである.
> 1．「Service Above Self」
> 2．「He Profits Most Who Serves Best」
> 3．「thoughtfulness of others」（他人への思いやり）
> 4．「most of all treating others as one would like to be treated」
> （人からしてもらいたいことなら、何でも人にするのです）

もう１つは、かつて毎年発刊されていた「Official Directory（全世界のロータリークラブの所在地・連絡先が記された公式名簿）」の背表紙の裏に（確認できた範囲では 1948 年以降）書かれていた内容です。これは、ＲＩ初代事務総長 Chesley Raynolds Perry が 1954 年３月に米国 Tulsa RC で述べた内容としても有名です。

> 世界中どこのロータリークラブでも、他人を思いやり、他人のために尽くすという「奉仕の理想（理念）」を大切にしています。
> （Rotary clubs everywhere have one basic ideal the “Ideal of Service", which is thoughtfulness of and helpfulness to others. ）

留意して欲しいのは、Guy Gundaker が考えていた『Service（奉仕）』は、「向上や発展をもたらす行動」であり、ロータリアンの「務め」であるという点で、上記２つの文書の内容とは異なるということです。

## 【6】ロータリーの中立性 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

ここで述べる「ロータリーの中立性」に関する内容の多くは、ロータリーの伝統として、今でも生き続けているものばかりです。Guy Gundaker の偉大さを、しみじみと感じますね。

Guy Gundaker は、ロータリーの社会的影響力を考えた場合、
**“ロータリークラブは、地元の問題や公共問題については慎重な態度で臨み、**
**軽々しく決議してはならない。また、政治問題を採り上げることも、あってはならない。”**
と戒めています。特に政治問題は、感情的な言い争いに発展しやすく、時にはロータリアン同士の友情や仲間意識を壊す場合もあるので、ロータリーで採り上げるべきではないと強調しています。

また、むやみに不適切な問題がクラブ例会で話し合われることがないよう、Guy Gundaker は、
**「会員がクラブに提案したい案件は、先ず担当委員会と理事会に提出して十分に審議された後、**
**クラブ提案に相応しいと理事会が決定した場合のみ、理事会が次の例会で会員に提案する」**
という手続きが必要であることを明記しています。

なお、会員から理事会に提案された案件については、
「理事会では、その案件がロータリーに相応しい内容と言えるのか、そして国際ロータリーや
他のロータリークラブにどのような影響を及ぼすかなどについて、十分な検討が必要である」
と述べた上で、
「特に、地元の問題、党派的な問題、国家的な問題などを採り上げる場合は、
地区内で影響が及ぶ他の全てのクラブから、適宜、事前に了解を得るべきである」
と力説しています。

事前了解というのは少し大袈裟のように思われるかも知れませんが、当時、クラブの計画や例会で採り上げるテーマは、ロータリー本来の姿に相応しくなかったり、配慮が足らなかったり、慎重さに欠けていたり、時にはロータリアン同士の友情を台無しにしたりなど、問題のある場合が少なくなかったからでしょう。Guy Gundaker はそれらを指摘し、反省を求めたのだと思います。

また、国際ロータリークラブ連合会（現在の国際ロータリー（ＲＩ）に相当）については、
**＊国家的、地域的または党派的な問題に関わってはならない。**
**＊ロータリークラブの設立や援助、運営の標準化を担うべきである。**
と考えていました。

最近のＲＩは、会員資格、例会出席、例会頻度などのクラブ運営の要を緩和し、各々のクラブがクラブ運営に多様性や柔軟性を導入して、クラブの発展に繋げることを推奨しています。時代の流れとはいえ、会員資格や例会出席に厳しかった Guy Gundaker が生きていれば驚くことでしょう。（→ P27,29,37 参照）

Guy Gundaker は、次のような珠玉の言葉を残しています。巨大組織と言えるほどに発展した現在のロータリーですが、それでも心に留めておきたい言葉です。

ロータリーの小さな義務をきちんと果たせばいいだけだ。
そうすれば、ロータリーの歯車は正しく滑らかに回るのだから。
（Only the small duties of Rotary can render
our Rotary wheel perfect and symmetrical.）

# 【7】ロータリアンの利益（ロータリーの魅力と価値）～～～～～～～～～～～～～～

さて、“素晴らしい真のロータリアン”（→ P7, 45 参照）は、どのような『利益』を得るのでしょう？

この問いに対して、Guy Gundaker は

**「それは、商品の生産原価と販売価格との差額から生ずる利益のような、ちっぽけな物ではない」**

と述べ、事業経営上の利益を一蹴しています。その上で、

**「ロータリアンの『利益』とは、より立派で、より心の大きな人間となって、**
**周囲の人間に対しても、そして社会全体に対しても、**
**より素晴らしい奉仕を提供する機会が与えられることである」**

と明記しているのです。

言い換えれば、

**＊ロータリアンとしての人間性が向上するという『利益』**

**＊より素晴らしい奉仕を提供できるようになり、皆が幸せになっていくという『利益』**

であり、要するに「人間性の 向上」と「社会の向上」という『利益』と言ってよいでしょう。

Guy Gundaker は、そのロータリアンの「人間性の向上」について、米国の作家 Nathaniel Hawthorne（1804～1864）による「The Great Stone Face」という物語を、ロータリアンの成長過程の例え話として紹介しています。

その内容については割愛しますが、Guy は物語の結論として、

「我々がロータリアンとして深い思索、研究、奉仕の実践、差別なき友愛に満ちた交友に
明け暮れれば、“人としての成長は、必ず顔に現れる”という言葉の如く、やがて
“素晴らしい真のロータリアン”の顔になっていくのだ。」

と述べています。その上で、

**「ロータリーは、人間の内面の体質を改善する。すなわち、ロータリーに入会した会員は、**
**ロータリーの親睦の中で学び、体験を積み、奉仕の心を磨き、自己のさらなる成長と人格の向上に**
**努めるようになり、奉仕に邁進する“素晴らしい真のロータリアン”になっていくのだ。」**

と力説しているのです。

また、Guy Gundaker は

“真のロータリアンになろうとする人達は、The Rotarian 誌、各クラブの出版物、
国際ロータリー定款、ロータリーの目的（綱領）、道徳律（職業倫理訓）などを
真摯に熟読しなければならない。そして、差別なき友愛に満ちた交友に没頭し、
事業経営理論を身につけるために、成長（向上）という名の努力を惜しんではならない。”

と述べ、ロータリアンが怠惰に陥らないように戒めています。要するに、ロータリアンとしての『利益』を得るためには、こうした会員自身の努力が必要だということです。（→ P7 参照）

以上、Guy Gundaker が考える「ロータリアンの利益」をまとめれば、次の通りです。

＊ロータリアンの『利益』とは、人間性の向上というロータリーでの成長を通じて、クラブ、事業、業界、地域、ならびに社会全体の向上により奉仕できる“素晴らしい真のロータリアン”になれること。
（Evolution of Members of Rotary Clubs into Real Rotarians.）
＊ロータリーの究極の目的は、“素晴らしい真のロータリアン”を育て、支援し、増やすこと。

Guy Gundaker は、

**“ロータリアンは、親睦と学びと奉仕に邁進しよう！”**

と強調しています。そうすれば、

**“見よ、あの素晴らしきロータリアンを！”**

と世間は称賛してくれるであろうと述べています。もちろん、こうした称賛を受けることも、ロータリアンの『利益』と言ってよいでしょう。

## ● ロータリーの魅力と価値

ところで、Guy Gundaker が述べた「ロータリアンの『利益』」ですが、私自身は、“ロータリアンの人生を豊かにするという『利益』”と言い換えてもよいのではないかと思っています。そして、それこそが「ロータリーの魅力と価値」なのでないでしょうか。

以下に記した内容は、新入会員との懇親の席などで、私がしばしば語っているものです。

**ロータリーは、人生を豊かにする**

仕事や経営に緊張と多忙の日々を過ごす中、私はロータリーに入会したおかげで、本来なら出会うことすらなかったであろう素晴らしいロータリアンと知り合い、気を許し合い、奉仕を語り合い、人生を語り合うことができるようになりました。

そのおかげで、多くのロータリアンの職業観や人生観、真摯で誠実な生き方、そして立派な人柄に触れながら、事業上の手続きや成功の道筋、職員管理、自己管理、円満な人間関係の在り方などを学び、それらを自分の事業や人生に活かすことができました。そして、仲間やクラブや地域住民のために、知恵と汗と時間と多少のお金を出し合いながら、様々な価値ある奉仕活動に夢中で取り組んできたのです。

なにより、それらは楽しくて心が満たされた時間であり、安心と安息と自己肯定感に満たされた時間でもありました。さらに、本来なら経験できなかったであろう成功や飛躍のチャンス、素晴らしい感動にも恵まれました。そうした中、いつしか自分も、価値ある立派な生き方に精進する人間となっていたのです。それは、世間からの評価や称賛にも繋がりました。

私は、ロータリーのおかげで人間的にも成長させてもらい、人生も豊かにしてもらいました。そういうロータリーだからこそ、ロータリーは成長し、発展してきたのではないでしょうか。

これらの内容は、“Guy Gundakerのロータリー観”に合致するものです。それだけに、Guy Gundaker が生きていれば、ロータリアンの『利益』とは、

**ロータリアンの人生を豊かにしてくれるという『利益』＝ロータリーの魅力と価値**

と言い換えてもよいことに、彼はきっと賛同してくれるでしょう。

すなわち、ロータリークラブに入会し、充実した例会に参加し、ロータリアンとして精進すればこそ、以下のような喜びを得ることができるのです。

**ロータリーの魅力と価値（まとめ）**

- **信頼と敬愛と志に満ちたロータリアンと仲間になれる喜び**
- **ロータリアン同士で親睦と学びの時間を共有できる喜び**
- **事業発展の喜び**（職業上の価値ある啓発と発展）
- **奉仕する喜び**（奉仕の心の醸成と高揚、奉仕の実践と社会の発展）
- **安心、安息、自己肯定感に満たされる喜び**（クラブの一体感と居心地の良さ）
- **感動、成功、飛躍、称賛のチャンスを得る喜び**
- **価値ある生き方を学び、自分自身が成長する喜び**

（“素晴らしい真のロータリアン”に成長する喜び：高潔、寛容、親睦、学び、成長、奉仕）

## 参考３：ロータリーの２つの標語（Motto）とGuy Gundaker

Guy Gundaker は「ロータリアンの利益」に関する説明の最後で、

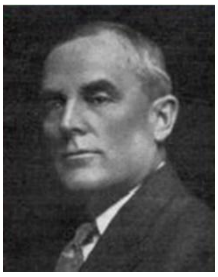
＊Service, Not Self

＊He Profits Most Who Serves Best

という、ロータリーの２つの標語（Motto）を掲げています。どちらも「利益」に関係する内容なので、そこで言及したのでしょう。

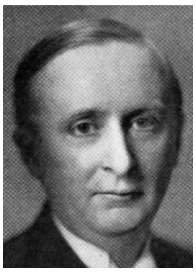
（なお、現在のロータリーの標語は、前者については「Service Above Self」に、後者については「One Profits Most Who Serves Best」に変更されています。）

ところが、この２つの標語について、Guy Gundaker は説明や意見を述べてはいないのです。ここでは、それらの標語と Guy Gundaker の考え方について説明します。



先ず**「Service, Not Self」**ですが、これは 1911 年のポートランド国際大会で、ミネアポリス RC 会長だった Benjamin Frank Collins が述べた言葉です。その解釈については、かつては「自己の利益を度外視した奉仕（無私の奉仕、自己滅却の奉仕）」とか「奉仕の真髄を指す言葉」とか言われていました。しかし、実際には「自分達だけ（ロータリアン同士）で商取引するのではなく、ロータリアン以外の人とも積極的に商取引をした方が、クラブも地域も繁栄する」というのが正しい意味です。（出典：The National Rotarian 1911 年 11 月号「How It is Done in Minneapolis」An Impromptu Adress Given at the Portland Convention）

一方、Guy Gundaker は、ロータリアンとしての活動から得られる『利益』は、ロータリアン自身に属するもの（Self）であることを強調しています。すなわち、ロータリアンの『利益』とは「より立派で、より心の大きな人間となること」であり、かつ「より素晴らしい奉仕を提供できる人間となること」であるとして、Guy は「人間性の向上」（Self）という『利益』を謳っているのです。いずれにしても、“Guy Gundaker のロータリー観”には、Collins の「Service, Not Self」という考え方は含まれていないのです。



次に**「He Profits Most Who Serves Best」**ですが、これはシカゴ RC の Arthur Frederick Sheldon の言葉です。邦訳は「最も多く奉仕する者、最も多く報われる」です。そもそも、Sheldon の奉仕理論は「自らの事業を継続的に発展させるための学問的な企業経営の理念と実践方法」であって、あくまで「事業経営上の利益」を重視しています。なお、彼は実生活上の利益についても述べてはいるものの、それらは事業の発展がもたらす成功、他者からの尊敬、自尊心に関連するものでした。

一方、Guy Gundaker は、上述したように「人間性の向上」（Self）という『利益』を強く謳っています。しかも、ロータリアンの利益は「商品の生産原価と販売価格との差額から生ずる利益のような、ちっぽけな物ではない」とまで言っているのです。Guy は、事業の成功や発展はロータリアンの務めであって、それを利益とは考えていなかったのです。

いずれにしても、“Guy Gundaker のロータリー観”はロータリーの２つの標語（Motto）とは合致していない、あるいは相容れないように思います。Guy Gundaker は２つの標語を掲げたものの、説明や意見を述べていない理由は、この辺りにあるのかも知れません。

## 【8】ロータリーの徽章 ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

我々ロータリアンは、常にロータリーの徽章（Emblem）を着用します。これは、ロータリアンの証として着用するロータリーマークの襟章のことですが、日本ではロータリー・バッジと呼ばれています。
（正式には、例会場で使う名札がロータリー・バッジです）

Guy Gundaker は、

“ロータリアンは、ロータリーに入会が許可されたというだけで、「会員個人とその事業内容に絶大な信用がある」という幸せ（特権）を得たも同然である。実際、クラブ会員や世間との付き合い、仕事上の取引なども順調に進むであろう。したがって、ロータリアンたる者、その「信用」を汚すようなことは絶対にしてはならない。”

と述べています。

その上で、ロータリーの徽章について、

**“ロータリアンは、事業社会における最良の代表者である。それだけに、その名に恥じないような価値ある生き方を心がけなくてはならない。その証として、全てのロータリアンは、常にロータリーの徽章を着用するのである。”**

と述べているのです。

要するに、Guy Gundaker は、ロータリアンの「信用」をとても重要視していたのです。（→ P39参照）

**● ロータリーの徽章を着用する理由**

ロータリークラブの会員は、日頃から信用に応えるだけの事業経営に励む“素晴らしい真のロータリアン”であることを世間に表明（保証）するべきである。
さらに、業界や社会に対する貢献など、ロータリアンとして価値ある活動を行うことを世間に約束（保証）するべきである。

それらを表明・約束した証として、かつ高潔と信頼と奉仕の象徴として、全てのロータリアンは、常にロータリーの徽章を着用しなければならない。

上記の文章は、

**“我々は、いつでもどこでもロータリアン！”**

であることを忘れることなく、高潔と信頼と奉仕の心に満ちたロータリアンに相応しい言葉、振る舞い、活動の証として、ロータリーの徽章を着用するということです。

それだけに、ロータリアンは他人や仲間の悪口や陰口を言ってはなりません。
まして、仲間の排除、破廉恥で不道徳な振る舞いなどは、もってのほかです。
もちろん、汚職や談合、贈収賄、虚偽、改竄などの悪事に手を染めてはなりません。
なにより、自分のためより他者のために働く姿を、市民に見せなくてはなりません。
なぜなら、我々は高潔と信頼と奉仕の心に満ちたロータリアンだからです。

最近、「ロータリーの徽章が泣いている」と言いたくなるようなロータリアンの恥ずかしい振る舞いを、しばしば新聞やテレビで見聞きすることがあります。そんな時、私は本当に悲しくなります。

# 2．ロータリークラブの責務

Guy Gundaker が考えていた「ロータリークラブの責務」は、クラブ・リーダーが

**「魅力的で価値あるクラブ運営」＝「親睦、学び、成長、奉仕を主体としたクラブ運営」**

を行うことです。もちろん、そうしたクラブ運営には、会長を中心としたクラブ・リーダーらの覚悟と情熱とリーダーシップが欠かせません。ここでは、そのための覚悟の内容、効率的な努力の仕方などについて解説します。

## 【１】クラブ運営 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

### １）クラブ会長

クラブ・リーダーとはクラブ役員のことですが、クラブ運営という点では、特にクラブ会長の責任が大きいことを、Guy Gundaker は強調しています。すなわち、

**“魅力的で価値あるクラブ運営、特に例会の充実こそが、「ロータリーと社会の発展」に繋がる。**
**そして、その責任者はクラブ会長である。”**

とした上で、

**「クラブレベルを国際的水準に保つことはもちろん、クラブ会員の成長を通して**
**ロータリーの目的を実現することは、クラブ会長の双肩にかかっている」**

とまで述べているのです。

それだけに、魅力的で価値あるクラブ運営の要である

**例会、役員会、理事会、委員会活動**

の内容について、クラブ会長は明確な方針と戦略を持っていなくてはなりません。
そのためには、クラブ会長の方針や戦略の「根幹」には、次の３つの信念が必要です。（→ P6-7, 13, 22 参照）

| |
|---|
| ＊ ロータリーは、素晴らしい真のロータリアンを育て、支援し、増やす団体である。【使命】<br>＊「Grow Rotarians」と「Enjoy Rotary」が、「Grow Rotary」に繋がる。【戦略】<br>＊「ロータリーの魅力と価値」に溢れたクラブでなければならない。【目標】 |

その上で、

**「親睦、学び、成長、奉仕」を主体としたクラブ運営**

を行うために、魅力的で価値ある「例会と奉仕プロジェクト」をどのように具体化するか、それを会員増強にどう繋げていくかなどについて、ＲＩや地区の方針や戦略、クラブの伝統、そして本解説書も参考にしながら、十分に検討して欲しいと思います。

そもそも、ロータリークラブの役職任期は１年です。それだけにクラブ会長は、他の役員、理事、委員長らの知恵と協力を得ながら、新年度に相応しいクラブ方針や戦略を新たに考え、実行して欲しいのです。
（もちろん、前年度からの継続案件やクラブの中長期計画などは尊重しなければなりません。）

会長に最も必要なのは、「覚悟、情熱、リーダーシップ」、そして「役員、理事、委員長に対する信頼、寛容、励まし、感謝の気持ち」です。そうした凛とした思いを、毎回の例会の心洗われる会長挨拶で吐露しましょう。

もう一つ、忘れてならないのはクラブ幹事との絆です。クラブ会長が最も頼りにすべきは、心通じ合うクラブ幹事だからです。言うまでもなく、クラブの会長と幹事は一蓮托生です。

会長の心意気や頑張りは、誰もが見ています。会員からはもちろん、他のクラブ・リーダーからも

**「あなたの会長年度は、本当に充実していて、とても楽しかった」**

と言われるような、魅力的で価値ある１年にして欲しいのです。

そのための努力は、間違いなく会長自身の仕事や人生にも良い影響をもたらします。何より、クラブ内で多くの“素晴らしい真のロータリアン”が育ち、より良い社会に繋がるはずです。

## 2）クラブの「役員会」と「理事会」

ロータリークラブにおける「役員」とは、クラブ運営の指導的役割を担うクラブ・リーダーです。一方、「理事」はクラブ運営について話し合い、その議決（多数決）に参加する人のことです。

「役員会」（役員ミーティング）は、クラブの執行機関です。したがって、「理事会」に諮る議案（各委員会の活動計画、予算、決算、新たな提案など）を事前に検討することが役割です。そして、それらの議案を役員会でまとめ、必要な資料と一緒に「理事会」へ提出するのがクラブ幹事の仕事です。なお、役員会には会長と幹事の参加は必須で、他の役員（特に直前会長と会長エレクト）も毎回参加すべきです。

一方、「理事会」はクラブの決議機関（意思決定機関）で、クラブ運営に関する全ての管理責任を担います。主たる役割は、「役員会」から提出された議案を検討し、決議（承認・不承認・各種決定）を行うことです。もちろん、検討の場では活発な議論が必要です。そうした心がけや切磋琢磨が、ロータリーに対する見識を互いに深め合うことにも繋がります。

年度開始前（特にPELS終了直後）の「役員会」と「理事会」は、例会プログラムの年間スケジュールを計画する上で極めて重要です。なぜなら、

**例会プログラムの年間スケジュールは、**

**①ＲＩの方針、地区のテーマ、クラブの目標などに沿った内容となっているか？**

**②「Grow Rotarians、Enjoy Rotary、Grow Rotary」に繋がる内容になっているか？**

**（親睦、学び、成長、奉仕を主体とした“魅力的で価値ある例会”内容になっているか？）**

について、十分な検討が必要だからです。その上で、前年度同様の例会プログラムは見直しましょう。それ以外にも、必要に応じて会費や例会場の変更、例会の回数や時間帯の変更、理事会指定休会や同週祝日の振替休会の是非などについても検討すべきです。但し、休会日を増やせば、会員が「ロータリーの魅力と価値」を味わう機会は減るのです。新入会員のためにも、慎重であるべきです。

例会プログラムを実施するにあたっては、当該例会の前々月および前月の「役員会」と「理事会」が大切です。プログラムの予算や準備、役割分担など、具体的な内容について詳細に審議し、前月までに決定しておかなくてはならないからです。もちろん、必要に応じて、例会での事前報告もしなければなりません。

さらに、その例会プログラムの担当理事（委員長）は、事前に、会長と幹事と入念な打ち合わせが必要です。この事前打ち合わせが不十分だと、「理事会」の審議がスムーズに進まず、時には紛糾したりするからです。

Guy Gundaker は、こうした「役員会」や「理事会」の審議では、

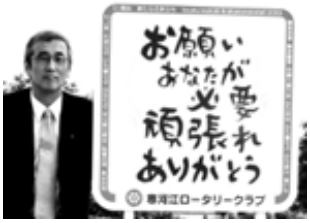
**「クラブ会長は、強力な覚悟と情熱とリーダーシップを大いに発揮する責任がある」**

と強調しています。それだけに、Guy は

「役員や理事が無関心であるからとか、委員が積極的でないからとかを理由に、
クラブ会長はこの責任から免れることはできない」

とまで述べているのです。

なお、Guy Gundaker 自身は言及していませんが、私は、こうした会議でのクラブ幹事の役割も重要だと思います。クラブの実務責任者である幹事のひたむきな努力と心配りこそ、クラブ運営の要と言ってよいでしょう。



## 3）ロータリーの新入会員

クラブ運営という点では、新入会員の選考もクラブ理事会の重要な仕事です。Guy Gundaker は、ロータリークラブへの入会を許可する条件として次の6つを挙げています。

**● ロータリークラブ入会を許可する条件**

① 事業の管理者である人物
② 管理経営する事業所が、その業界において指導的立場にある人物
③ 人柄が高潔で、誰からも信頼・信用されていて、社交性がある人物
④ 入会後、ロータリーの会合に出席を欠かさないであろう人物
⑤ 入会後、ロータリアンとしての実践活動を怠らないであろう人物
⑥ 入会後、ロータリーの魅力と価値に共感し、ロータリアンとしての熱意を持ち続ける人物

Guy Gundaker は、特に④の「ロータリーの会合に出席を欠かさないであろう人物」を強調しています。それだけに、例会欠席者の対応について、

“ロータリー入会後、例会欠席が多い会員に対しては、罷免など、厳しい断固とした措置をとるべきである。それは、欠勤が多い社員を解雇するのと同じことである。”

と述べており、Guy Gundaker のロータリーに対する強い思い入れを感じさせる言葉です。その上で、

**“出席率が高く、退会しない会員こそ、クラブの大きな財産である。しかし、例会に欠席し、やがて（転勤や退職以外の理由で）退会していく会員が多いクラブは、衰退する運命にある。”**

と強調しています。

私が所属するＲＩ第2800地区の伊藤巳規男パストガバナー（故人）は、

**「“素晴らしい真のロータリアン”になれる人にだけ、ロータリーへの入会を勧めなさい。要は、会員候補者が“ロータリアンに相応しい高潔な人”であるかどうかを見極めることです。」**

が口癖でした。それは、

「ロータリーへ入会する以上、①②は必須です。その上で、③④⑤も確かな人が「Grow Rotarians」と「Enjoy Rotary」を満喫できるようになり、⑥も確かな人が“素晴らしい真のロータリアン”になれるのです。“素晴らしい真のロータリアン”はロータリーを愛し、「Grow Rotary」に貢献し、ロータリーを退会したいとは決して思いません。」

という意味だそうです。もちろん、私も全く同感です。しかし、そのためには。

**魅力的で価値ある例会が常に開催されていて、一体感と居心地の良さがあるクラブ**（→ P13, 43-44 参照）

であることが必要です。言い換えれば、充実したクラブ奉仕が行われているクラブであることが大前提だということです。（→ P22, 29, 37, 47-49, 56 参照）

現在のロータリークラブ入会資格は、前述の通り、以前よりも緩和されています。（→ P6 参照）しかも、最近のＲＩは、

**多様性で元気なクラブを！：地域社会の多様な人たちが入会することで、クラブに新鮮な視点とアイデアがもたらされ、クラブの存在感が高まっていく**（→ P55 参照）

をスローガンに掲げ、様々な背景を持つ人たちにロータリーを体験してもらうことを推奨しています。

しかし、せっかく入会しても、すぐに退会してしまう会員ばかりでは困ります。それだけにＲＩは、

**ＤＥＩ（Diversity, Equity, Inclusion：多様性、公平性、包摂性）**

を、日頃のクラブ運営において十分に活かすことを強調しているのです。但し、ＤＥＩが効果を発揮するためには、クラブに「Toleration（寛容、尊重、受容、我慢）」の文化がないと上手くいきません。すなわち、多様であること（各々の独自性）に寛容な文化です。少なくとも、ロータリーに“排除の論理”があってはならないのです。これについては、後述します。（→ P49 参照）

## 4）クラブの「問題点の発見」と「改善」

Guy Gundaker は、

**“ロータリークラブは、クラブや会員の現状を省察し、**
**どうすれば理想的なクラブに発展するかを考えなければならない。”**

と述べています。もちろん、「理想的なクラブ」とは、ロータリーの理想（→ P45 参照）を達成するために必要な「親睦、学び、成長、奉仕」を主体とした「魅力的で価値あるクラブ運営」を行うクラブのことです。

そのためには、

“現状に満足せず、むしろ現状の問題点を見つけ出し、それらを改善していくことは、会員に対するロータリークラブの責務である。ロータリーが掲げる理想を達成するには、こうした不断の努力がクラブ・リーダーに必要である。”

というのが、Guy Gundaker の考えです。

21 世紀に入って、クラブ戦略委員会などの重要性が話題になっていますが、

**“クラブの「問題点の発見」と「改善」は、クラブ・リーダーの責務である。”**

ことを、既に 100 年以上前に、Guy Gundaker は強調していたのです。あらためて、Guy Gundaker の偉大さを感じますね。

### 参考４：クラブの問題点の具体例

私は、次のような状況が見られた場合、クラブ・リーダーは改善に向けて対応すべきだと思います。クラブでアンケート調査（○△×）をしてみるのも良い方法です。問題となるような状況があれば、ぜひクラブの理事会や例会で対応策を話し合ってください。

＊例会に欠席者が多い。特に、無断欠席者が多い。
＊例会場にいても、温かな雰囲気が感じられない。居心地がよくない。
＊スマイルをする会員が少ない。特に、来訪者やゲスト・スピーチを歓迎するスマイルが少ない。
＊例会開始前、新入会員や来訪者をもてなすために話しかけたり、助言したりする会員が少ない。
＊会長挨拶（会長スピーチ）が、会員の心に響かない。
＊会員が意見を述べる機会が少ない。特に、会員スピーチやクラブ・フォーラムが少ない。
＊例会中、マナーを守らない会員がいる。（私語、携帯電話の使用など）
＊他人（特に、クラブ内の会員）の悪口や陰口を言う会員がいる。
＊『ロータリーの目的』を正しく理解できていない会員が多い。（ロータリー研修の機会が少ない）
＊例会の開始・進行・終了などの時間が守られていない。
＊例会が楽しくない、マンネリ化して退屈である。例会に来てよかったとは思えない。
＊他クラブの例会運営を知らない会員が多い。（他クラブへメーク・アップする会員が少ない）
＊自分のクラブの長所や特徴が、会員の間で共有されていない。
（自クラブの特長を語らせると、「親睦」と「伝統」としか言えない会員が多い）
＊ロータリー財団や米山記念奨学会に寄付する会員が少なく、寄付への気運そのものが足らない。
＊クラブへの入会者が少ない。会員増強の気運が足らない。高齢会員が大切にされていない。
＊ロータリアンとしての喜びや誇りを感じることができないまま、退会していく会員がいる。
（「ロータリーの魅力と価値」に溢れたクラブ運営ができていない）

個人的には、「ロータリーの魅力と価値」（→ P22 参照）や「クラブ奉仕の正しい内容」（→ P47-49 参照）を会員間で共有できていない場合に、上記のような事例が起こりやすいように思います。

## 【2】例会運営 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

ロータリーのクラブ運営の要は、何と言っても例会です。ここでは、例会の在り方について説明します。

> 最近、「ロータリークラブは奉仕団体である」と考える人が増えてきたようですが、
> **「ロータリークラブの例会は、通常の奉仕団体が実施している会議とは全く異なる内容である」**
> ということを、先ず強調しておきたいと思います。
>
> 実際、世界中の大小様々な「奉仕団体」は、奉仕活動、資金、人材調達、広告・啓発などの実務について話し合う会議を繰り返し行います。私自身、地域の「奉仕団体」の幾つかに所属していますが、やはり、そのような会議ばかりです。
> しかし、ロータリークラブの例会がそのような会議内容ばかりだとしたら、あなたはロータリアンを続けますか？

Guy Gundaker は、

**“ロータリークラブの例会は、クラブ会員の人間性の向上、事業や業界の向上、そして『ロータリーの目的』実現のために、最大限に活用する「親睦と学びの場」である。”**

と力説しています。その上で、

**「ロータリーの限りある少ない時間（例会や行事）を、魅力的で価値あるものにする」**

ことを強く求めているのです。

だからこそ、

**「クラブ会長は、親睦、学び、成長、奉仕を主体とした“魅力的で価値ある例会”を開催する責務がある」**

のです。すなわち、<u>「Grow Rotarians」と「Enjoy Rotary」に満ちた例会</u>の開催です。（→ P13,25-26 参照）

**● 魅力的で価値ある例会**

**（親睦、学び、成長、奉仕を主体とした、「Grow Rotarians」と「Enjoy Rotary」に満ちた例会）**

＊会員同士が交流し、経験を語り合い、誠実な人柄に触れ、敬愛の念を深め合っていく例会
＊会員の事業、生活、生き方に有益な情報や方法を提供する例会
＊奉仕の心を学び、理解し、実践の意欲が湧き上がる例会

これらが充実したものとなるためには、次の３つが大切です。

＊心が洗われる会長挨拶
＊魅力的で価値ある例会プログラム
＊クラブの一体感と居心地の良さ（→ P43-44 参照）

要するに、会員の誰もが **“例会に来てよかった！”** と思えることです。

上記のような例会が開催されていればこそ、

**「ロータリーは、地域のリーダーを集めただけの単なる奉仕団体ではない」**

と言えるのではないでしょうか。（→ P7,70 参照）

Guy Gundaker は

**「ロータリーの高邁な理想を実現させていくには、与えられた（例会や行事の）時間は如何に少ないかを考慮すべきである」**

と述べています。

最近、クラブ運営の多様性と柔軟性という観点から、「ロータリーの例会は毎週ではなく、月２回の開催でもよい」というクラブ規定が可能になりました。時代の流れとはいえ、これを Guy Gundaker が知ったら、恐らく驚き嘆くことでしょう。（→ P20,26 参照）

## 1）例会欠席者

私自身、せっかくロータリーへ入会したのに１～２年で退会してしまった人に対しては、

「ロータリーの素晴らしさを正しく理解できないうちに辞めてしまい、本当に残念だ」

という気持ちでいっぱいになります。しかも、その退会理由が転勤・転居以外のものだった場合、

**＊退会者に、「acquaintance（知り合い程度の交友）→ friendship（親しい者同士の友情）**
**→ fellowship（ロータリーの志を共にする者同士の仲間意識）という流れ」を、**
**クラブとして上手く作ってあげられなかったのではないか？**（→ P8-10 参照）

**＊退会者には居心地が悪く、魅力や価値が感じられない例会が多かったのではないか？**（→ P29 参照）

と思ってしまいますし、自分自身の配慮不足を反省することもあります。

実際、そういう人は仕事の多忙を理由に、普段から例会に欠席することが多かったのではないでしょうか。言うまでもなく、ロータリーの親睦を育むのに最も重要な『場』は例会です。その大事な例会に欠席ばかりしていては、親睦どころか、疎外感すら感じるようになるでしょう。当然、ロータリーの会費も無駄な出費と考えるようになり、結局はクラブ退会に繋がってしまうのも無理はないと思います。

クラブの会員は、誰もが多忙な中、時間を自己管理できる経営者であるからこそ、どうにか仕事をやりくりして例会に出席します。それは、食事のためではなく、例会に身を置きたいと思う『何か』があるからです。だからこそクラブ会長には、その『何か』について、きちんと提供しているという認識と自負が必要です。その『何か』が十分でない例会であれば、当然、例会の欠席者は増えていくでしょう。

Guy Gundaker は、例会欠席が多い会員には罷免など、厳しい対応を求めています。（→ P27 参照）
しかし、私は退会勧告より、退会防止の方策を考えるべきだと思います。先ずはクラブ会長が

**「例会に欠席者が多いのは、例会に魅力や価値がないからではないか」**

と考え、普段の例会を省みて欲しいのです。そして、欠席の多い会員と懇談の場を設けることはもちろん、次項以降の内容も踏まえながら、クラブ理事会で実効性のある対策を検討すべきでしょう。（→ P49, 56 参照）

## 2）会長挨拶（会長スピーチ）

クラブ会長にとって最も大きな仕事は、

**「会員の誰もが、“今日も来てよかった”と思うような例会を提供すること」**

と言ってよいでしょう。そのためには、

**「心が洗われる会長挨拶、魅力的で価値ある例会プログラム、クラブの一体感と居心地の良さ」**

の３つが重要です。会長は、この３つに半ば命をかける覚悟と使命感を持って欲しいと思います。
特に重要なのは、「心が洗われる会長挨拶」です。

会長挨拶は会長の特権であると同時に、会長が唯一の実行者であり、かつ唯一の責任者であることを銘記して欲しいのです。その上で、会長にとって

- 会員のロータリアンとしての士気を高めるために、
- 会長に対する信頼と敬愛の念を会員の心に醸成していくために、
- クラブの活性化と一体感をもたらすために、

最大の武器となるのは「心が洗われる会長挨拶」だと思います。クラブ活性化の鍵は、会長挨拶にかける「会長自身の覚悟と情熱、そして準備」ではないでしょうか。

それだけに、例会に欠席者が多い場合、会長が自分自身に問いかけて欲しいのは、

**「私は毎回の例会で、心が洗われる会長挨拶をしているだろうか？」**

という言葉です。

## 参考５：会長挨拶（会長スピーチ）の心得

① 心が洗われるスピーチとなるように、テーマ、内容の構成や展開などを、事前に十分考える。
② 話すスピード（1分300字を推奨）、抑揚、間、目線、表情、ジェスチャー、マイクの角度、マイクまでの距離などに気を配る。
③ 文の最初で「えー」と言わず、前後の文の繋がりが分かる適切な「接続語」を多用する。
④ 落ち着いて、心をこめて話す。
「伝えた（話した）」ではなく、「伝わった（理解され、感動をもたらした）」が大切。
⑤ Zoomなどを活用したオンライン・スピーチでは、表情、視線、カメラまでの距離に気を配る。
⑥ 事前の練習は必須。

### 3）魅力的で価値ある例会プログラム

#### ① 会員の未知の能力を引き出し、かつ会員同士が理解を深め合う例会

Guy Gundakerは、

**「限りある少ない例会時間を有意義なものにするには、会員の未知の能力を引き出し、かつ会員同士が理解を深め合う例会であることが重要である」**

と述べ、卓話プログラムを行うのは効果的であることを強調しています。

#### ● クラブ会員や特別ゲストによる卓話プログラム

Guy Gundakerは、クラブ会員や特別ゲストが自分の仕事や業界の状況などを語る卓話について、

**“特別ゲストによるスピーチは、会員にとって有益であることは言うまでもない。しかし、それ以上に会員スピーチは有益であり、それを聴ける機会はクラブ会員の特権の１つである。”**

と述べた上で、スピーチを任せられた会員の専門分野や体験談などの話しは、

- **スピーチする会員にとっては、プレゼンテーション能力を磨く機会となる**
- **聴いている会員にとっては、事業や生活に新たな情報や示唆、意欲喚起の機会となる**
- **会員同士の信頼と敬愛の念、仲間意識などを深め合う機会となる**

という点で重要であると強調しています。まさに、「ロータリーの基盤（親睦と学びの一体化）」そのものですね。（→ P9参照）

実は、私自身のクラブ会長時代、「我が半生と仕事、ロータリーを語る」というテーマで、毎回２名ずつ（１人15分間）の会員スピーチ例会を年間９回行いました。また、同じテーマで、近隣クラブとの会長交換スピーチも行いました。どれもがロータリアンとしての矜持を語った内容で、信頼と敬愛の念を深め合っただけではなく、仕事やロータリー・ライフにも役立つ感動的なスピーチばかりでした。皆さんのクラブでも、試みては如何でしょう。

#### ● ロータリーを学ぶための卓話プログラム（ロータリー研修）

Guy Gundakerは、ロータリーの理解を深めることを目的とした特別昼食会の重要性も強調しています。すなわち、そうした特別昼食会を少なくとも６週間に１回は開き、ロータリー情報委員会の担当のもと、ロータリーの原理について検討し、かつ深め合う卓話プログラムを求めているのです。

最近、「トレーニング・リーダーからファシリテーターへ」という言葉をよく耳にします。それは、ロータリーの哲学や伝統を語れる優秀なトレーニング・リーダーが少なくなってきたことも、理由の１つかも知れません。それだけに、ロータリーを正しく分かり易く、しかも深く、かつ興味深く話せる卓話者の人選は重要です。また。卓話後にクラブ・フォーラム（テーブル・ディスカッション）を行い、各テーブルの司会や発表者を若い会員に任せるのも良い方法でしょう。（→ P36参照）

ロータリーの研修テーマ

**＊ロータリーの目的**（→ P45-46, 60 参照）

最近、『ロータリーの目的』の内容を正しく理解しているロータリアンが少なくなってきたような気がします。それは、例会や地区セミナーなどで、『ロータリーの目的』の解説の機会が減ってきたからではないでしょうか。今のままでは、解説できる人がいなくなるかも知れません。我々ロータリアンが最も重視すべきは、『ロータリーの目的』です。その内容や意義、歴史的変遷などが十分に理解されていない現状について、地区リーダーやクラブ会長は危機意識を持ち、ぜひとも対処して欲しいと思います。

**＊クラブ奉仕**（→ P47-49 参照）

クラブ奉仕は、クラブ・リーダーによるクラブ運営だけでなく、クラブ会員の様々な義務、例えば、自らの成長に励み、他の会員の成長や支援のために貢献することなども含まれます。「クラブ奉仕 ＝ クラブ運営」と誤解しているロータリアンが多いのは、実に困ったことです。

**＊職業奉仕**（→ P50-54 参照）

職業奉仕の内容は広くて深いことは確かですが、「職業人としてのロータリアンの務め」と認識できていれば、学びにしても実践にしても、難しいことではありません。

**＊四つのテスト**

『四つのテスト』については、その成り立ちや正しい意味を知らないロータリアンが増えてきたような気がします。もちろん、邦訳そのものは名訳だと思いますが、２番目の“公平”の「FAIR」については、equity、equality、impartiality などとの違いを理解しておくことは必要でしょう。また、３番目の“好意”の「GOODWILL」は、むしろビジネス用語としての「信用」に近い意味ではないでしょうか。さらに、２番目と４番目の“みんな”は「to all concerned（すべての関係者）」であって、「everybody」ではないことに留意すべきです。なお、『四つのテスト』は 1943 年１月のＲＩ理事会で、職業奉仕プログラムの１つの構成要素と決定されたことも有名です。現在は、ロータリーの基本理念の１つであり、五大奉仕部門の全てに共通するロータリーに不可欠の要素とされています。

**＊社会奉仕**（→ P16, 41 参照）　**＊ロータリーの親睦**（→ P8-10 参照）

**＊ロータリアンの利益**（→ P21-22 参照）　**＊ロータリーの２つの標語**（→ P23 参照）

**＊ＤＥＩと寛容**（→ P49 参照）　**＊What is Rotary？**（→ P59-60 参照）

**＊ロータリーの創立者 Paul Percy Harris の生涯と言行録**

## ② 会員の事業に助力を与える例会

Guy Gundaker は、

「どんなクラブ（娯楽、教育、社交など）でも、同じ組織に属する者同士、商取引の機会はあるだろう」と述べる一方、

**「ロータリーでは、会員であるという理由だけで、商取引が増えるなどと考えてはいけない」**

と戒めた上で、ロータリーにおける「会員の事業の向上」について、以下のように、現実面と理想面に分けて説明しています。（→ P14 参照）

### ● 現実面：「親睦」がもたらす事業の向上

現実面の説明は、

**“例会は、親しみと友情の種が蒔かれ、それが育つ場である。その種は、食事を共にする例会ではすくすくと育ちやすい。それだけに、例会出席に励み、会員同士の交流を通じて、信頼と誠実に満ちた友情や仲間意識が芽生えれば、商取引が増えるのは当然である。”**

という内容です。すなわち、「親睦」がもたらす事業の向上ですね。

## ● 理想面：「学び」がもたらす事業の向上

一方、理想面の説明としては、

**“クラブ例会やロータリー活動を通して「職業上の高い倫理基準」と「奉仕の諸原則」を学び、それらを事業生活で実践しながら自己の職業の高潔性を高めていけば、事業は向上発展する。”**（→ P14, 39, 45参照）

という内容です。すなわち、「学び」がもたらす事業の向上ですね。

さらにGuy Gundaker は、日常生活や事業生活での実践だけではなく、業界での実践として、

**「ロータリーからの代表（大使）として、業界に高い職業倫理基準と奉仕理念を広め、その業界をより良くしていく義務がある」**（→ P11, 15, 40 参照）

ことも強調しています。会員の事業向上のためには、その業界の発展も必要だということです。

なお。Guy Gundaker は、事業推進に必要な倫理基準や具体的な経営方法を学ぶには、

＊ クラブ会員や特別ゲストによる卓話プログラム

＊『道徳律（職業倫理訓）』の唱和や解説

が有用で、このような機会を例会で多く設けるように推奨しています。

前者の卓話プログラムについては、会員の事業や生活に新たな情報や示唆、意欲喚起などをもたらすために、現代においても大切であることは言うまでもありません。（→ P31 参照）

一方、後者の『道徳律（職業倫理訓）』の唱和や解説については、現代で言えば、

『ロータリーの目的』、『四つのテスト』、『ロータリアンの行動規範』などの唱和や解説

に相当すると考えればよいでしょう。

残念なことに、最近のロータリーでは、こうした「学び」がもたらす事業の向上があまり強調されなくなった、または疎かになってきたような気がします。

### 現実面と理想面の一体化：「親睦」と「学び」の一体化がもたらす事業の向上

いずれにしても、ロータリーにおける「会員の事業の向上」を、現実面と理想面に分けて述べたGuy Gundaker の見識には脱帽です。

しかし、Guy Gundaker には申し訳ないのですが、私自身は

“「会員の事業の向上」は、現実面と理想面に分けて考える必要はない。

ロータリーの例会は「親睦」を育む場であると同時に、「学び」を深める場でもある。

「親睦」と「学び」は一体である以上、現実面と理想面も一体のはずだ。”

と思っています。

言い換えれば、 クラブ会員が事業や人生に有用な知識や考え方を学び、ロータリーの理想を学び、ロータリーの志を共にする仲間意識（親睦）を強め高め合うような例会であれば、自然と「会員の事業に助力を与える例会」となるのではないでしょうか。むしろ、それこそが自然な成り行きであって、 そこには、現実面とか理想面とかの考え方は必要ないのではないでしょうか。

強調しておきたいのは、

**ロータリーの親睦と学びは一体であり、それは「ロータリーの基盤」である**（→ P9参照）

ということです。それが確実なクラブなら、「会員の事業に助力を与える例会」となるはずです。

## ③ 奉仕の意欲が沸き上がる例会

Guy Gundaker は、

「ロータリアンは、奉仕能力の涵養を切望し、かつ奉仕に専念する人である」

と述べています。もちろん、そのためには

**「クラブ会員が奉仕の心を学び、理解し、磨き上げ、**

**価値ある実践に繋げていけるよう、奉仕の意欲が湧き上がっていく例会」**（→ P29 参照）

が必要です。

**● 奉仕の意欲が湧き上がる例会とするために**

＊クラブ会長の覚悟と情熱とリーダーシップ
＊心が洗われる会長挨拶（会長スピーチ）
＊会員スピーチ、ゲスト・スピーチ（→ P31 参照）
＊ロータリー研修、クラブ・フォーラム（→ P31, 36 参照）
＊ロータリー財団や米山記念奨学会の意義、歴史、実績などの研修
＊地域のニーズ調査の発表と検討
＊地域住民（特に子供たち）とロータリアンとが協力し合う奉仕プログラムの検討
＊地域貢献（保護司、児童委員、ボランティア等）をしているクラブ会員や住民の講話・表彰
＊「ロータリーの友」や「ガバナー月信」からの有益な記事紹介

上記の中で特に重要なのは、言うまでもなく「クラブ会長の覚悟と情熱とリーダーシップ」です。それだけに、会長の心意気をクラブ会員に示し、奉仕の意欲を湧き立てる「心が洗われる会長挨拶」を心がけて欲しいと思います。（→ P30-31 参照）

奉仕の実践のためには、意欲だけではなく知識も必要です。Guy Gundaker は、地域社会への奉仕のために、以下のような知識を会員に提供する例会プログラムを推奨しています。

＊町の地理や産業活動
＊町や地域の歴史と文化
＊地域社会の生活
＊公園や街路の状況
＊総合的な都市計画
＊町の港湾地区と外国との交易
＊交通機関の状況と課題
＊消防、警察、厚生、福祉などの自治体行政
＊青少年の奉仕活動

現代においては、上記に加えて、

＊ローターアクトクラブ
＊インターアクトクラブ
＊ＲＹＬＡ
＊青少年交換事業
＊米山記念奨学会
＊ロータリー財団事業
＊ポリオ根絶
＊ロータリー平和センター
＊ロータリー特別月間

などの知識や意義、体験報告についても、クラブ会員に提供すべきでしょう。特に、新しくロータリー・ファミリーとなった「ローターアクトクラブ」について学ぶことは大切です。（→ P35 参照）

上記のテーマについては、適切なゲスト・スピーチを招くことも考えるべきでしょう。言うまでもなく、ゲスト・スピーチは、地区の委員会に相談するなどして、卓話テーマを正しく分かり易く、しかも深く、かつ興味深く話せる人を選ばなくてはなりません。（→ P31 参照）

できることなら、卓話後にクラブ・フォーラムを行い、さらに理解を深め合いましょう。（→ P36 参照）

## 参考６：ローターアクトクラブの課題

2019年の規定審議会で、ローターアクトクラブ（ＲＡＣ）もＲＩ加盟クラブに含まれることが決まりました。これに伴い、ＲＡＣに対して新たな目標設定や整備などの変革が行われてきましたが、世界の国と地域によってＲＡＣの基盤、自立度、ロータリー理解度、活動内容は様々で、変革についていけないクラブもあるようです。

今後のロータリーの発展にもかかわってくるだけに、我々ロータリアンもＲＡＣに対する新たな認識と理解が必要です。その際のキーワードは、ＲＡＣの自立と自律、そして地区やスポンサークラブとの連携協力でしょう。

2024年3月、全国ローターアクト研究会（山形大会）の基調講演を依頼された際、日本全国のＲＡＣにアンケート調査を実施しました。その結果から見えてきたＲＡＣの課題の一部を、参考までに提示します。

- 標準ローターアクトクラブ定款の理解と実践に努めること
  （特に、年次報告、全会合の議事録作成、会費とプロジェクト資金の別管理、財務の年次監査などの遵守）
- 推奨ローターアクトクラブ細則の加筆変更を実施すること
  （特に、会員の入会方法と年齢上限、会費、理事会の会合規定、役職任期、選挙の方法、年間最低出席率）
- スポンサークラブのアドバイザーが役割（支援）をきちんと果たすこと**【最重要】**
  （ＲＡＣ定款細則を熟知した上で、ＲＡＣ細則変更、年次計画・年次報告・年間例会スケジュール作成、
  魅力的で価値ある例会と奉仕事業、ロータリー研修、資金計画、決算、会員増強などについての支援）
- その他：地区やガバナーとの連携協力、次年度役職者への研修、RYLA への協力、IAC との連携、
  米山記念奨学生との交流、最新のローターアクト・ハンドブックの活用、My Rotary の活用など

### ④ 夕刻の例会

Guy Gundaker は、
「夕刻の例会は、昼食例会よりも長い時間がとれるので、
個々の会員の成長と事業の向上へ繋げていくには、
なおさら良い機会である」
と述べた上で、時間と気持ちに余裕のある夕刻のプログラムは、より精選された特別な内容で構成することを推奨しています。

それだけに、ロータリアンは次の言葉を肝に銘じて欲しいと思います。

**“夕刻の例会で、行事や議事、プログラムなどをなおざりにして、早めに夕食会へ**
**移行しようというような不埒な考えを、ロータリアンたる者、決して抱いてはなりません。**
**なぜなら、「夕刻の例会 ＝ 懇親会」ではないからです。”**

Guy Gundaker は夕刻の例会に相応しいプログラムとして、旅行会、演奏会、家族会などの娯楽的行事があってもよいが、それらの内容は、あくまでロータリークラブの行事として妥当なものでなければならないと述べています。

いずれにしても、ロータリークラブの全ての例会は、出席者が貴重な時間を割くに値する魅力的で価値ある内容でなければなりません。特に夕刻の例会は、

**“会員がロータリーの高い理想と意欲に燃えて、**
**「自分の家庭、自分のクラブ、自分の仕事、自分の業界、自分の町や州や国 に対して**
**優れた奉仕をしよう」という決意を新たにする場であって欲しい。”**

と、Guy Gundaker は強調していることを忘れないでください。

繰り返しになりますが、ロータリーでは「夕刻の例会 ＝ 懇親会」ではありません。

ここでは、Guy の主旨を踏まえながら、現代にも通じる「夕刻の例会プログラム」の具体例を提示します。

**●ロータリアン同士の討論会（クラブ・フォーラム）**

クラブ・フォーラムは、ぜひ夕刻の例会で実施して欲しいプログラムです。例えば、ロータリーの魅力と価値、クラブの長期計画、クラブ奉仕の目的と手法、新たな地域貢献、クラブの職業奉仕プログラム、会員増強や新会員教育の進め方、クラブ細則の変更などをテーマに、

**「基調講演 → テーブル・ディスカッション → 各テーブルからの発表」（合計 60 ～ 90 分）**

という方式で検討し合うのが一般的です。多様で優れた仲間の意見を聞き合い、自己の見識を高め、会員間の敬愛と友情を育む良い機会でしょう。親睦と学びの一体化という意味でも、最高の例会プログラムだと思います。なお、皆の意見をまとめる必要はありません。むしろ、そうした会員の多様な意見を今後のクラブ運営の参考にすることこそ、クラブ・リーダーの務めです。

**●新入会員の歓迎プログラム**

Guy Gundaker は、新入会員の歓迎プログラムについて

“クラブ会長は、「ロータリーの在るべき姿」の話をするべきである。これは、例会に参加している全会員に対して、ロータリーの理想を喚起する意味でも重要である。”

と述べています。

**●ロータリー創立記念例会**

ロータリー創立当時の歴史、ロータリーの創立者 Paul Percy Harris の人物像や言行録、あるいは自クラブの創立時代の思い出などをベテラン会員から紹介してもらうなど、ロータリー創立記念例会に相応しい企画を考えましょう。また、ロータリーの奉仕理念やクラブ細則について話し合うのもよいでしょう。

**●近隣クラブ訪問（合同例会）、家族例会、慈善活動事業の一部となっているクリスマス例会など**

**ロータリークラブの責務　～ 魅力的で価値あるクラブ運営 ～【まとめ】**

**（親睦、学び、成長、奉仕を主体とした、「Grow Rotarians」と「Enjoy Rotary」に満ちたクラブ運営）**

＊クラブ会長に特に必要なもの

① 覚悟、情熱、リーダーシップ
② 役員、理事、委員長に対する信頼、寛容、励まし、感謝
③ クラブ幹事との絆
④ 例会、役員会、理事会、委員会活動に対する明確な方針と戦略

＊多様な分野から、ロータリアンに相応しい高潔な人の入会勧誘

＊ＤＥＩ（多様性、公平性、包摂性）と Toleration（寛容、尊重、受容、我慢）

＊クラブの「問題点の発見」と「改善」
（クラブ奉仕の正しい内容を会員間で共有できていることが大前提）

＊魅力的で価値ある奉仕プロジェクト
（会員の誰もが“奉仕プロジェクトに、参加してよかった！”）

＊魅力的で価値ある例会
（会員の誰もが“例会に、来てよかった！”）

① 心が洗われる会長挨拶
② 魅力的で価値ある例会プログラム（特に、夕刻の例会が充実した内容であること）
- 会員同士が交流し、経験を語り合い、誠実な人柄に触れ、敬愛の念を深め合っていく例会
- 会員の事業、生活、生き方に有益な情報や方法を提供する例会
- 奉仕の心を学び、理解し、実践の意欲が湧き上がる例会

③ クラブの一体感と居心地の良さ（→ p43-44参照）

# 3．ロータリアンの義務

Guy Gundaker は、

“ロータリークラブに入会した者は、ロータリーの原則と慣例に基づく教育を受ける。その教育の成果は、ロータリアンの「個人の向上の分野」と「他人のための分野」で活かすことが期待されている。しかも、ロータリークラブで学べば学ぶほど、その期待に応えるために活動するようになる。”

と述べた上で、「ロータリアンの活動」を強調しています。

**● ロータリアンの活動 ＝ ロータリアンの義務**

【1】クラブ会員としてのロータリアンの務め

【2】職業人としてのロータリアンの務め

1）事業経営者としてのロータリアンの務め

2）業界人としてのロータリアンの務め

【3】地域住民としてのロータリアンの務め

Guy Gundaker は、

**“「ロータリアンの活動」の意義や内容をロータリーで学び、身につけ、実践することは、ロータリアンの義務である。そして、それらの義務を十分に果たすことが「ロータリーの理想（the ideals of Rotary）」の実現に繋がるのだ。”**

と考えていたのです。（→ P45 参照）

## 【1】クラブ会員としてのロータリアンの務め ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

「クラブ会員としてのロータリアンの務め」とは、クラブ内における各会員の親睦と高潔と寛容に満ちた積極的な行動のことであり、その行動の主たる場は、言うまでもなく「クラブ例会」です。

**「クラブ会員としてのロータリアンの務め」**
**＝ クラブ内における各会員の親睦と高潔と寛容に満ちた積極的な行動**
**＝ 例会出席、自分磨き、仲間磨き、クラブ磨き**

### 1）ロータリアンの例会出席

Guy Gundaker は

**「ロータリー運動におけるクラブの価値は、ロータリアンの積極的な例会出席にかかっている」**

と述べた上で、ロータリアンに例会欠席は有り得ないと強調しています。それは、

**「例会出席は“素晴らしい真のロータリアン”になるための必要条件であるから、名誉あるロータリアンという地位を引き受けた者は、ロータリーの全ての例会へ出席する義務を負う」**

という意味です。Guy は、このことを新入会員に必ず告げなければならないと述べています。

しかし、上記の内容には大前提があることを忘れてはなりません。

**●「ロータリアンの例会出席」における大前提**

ロータリアンは、仕事で忙しい人ばかりです。それでも多忙な時間をやりくりし、しかも会費まで払って、クラブの例会に出席しています。それなのに、Grow Rotarians や Enjoy Rotary に繋がらない、退屈で価値のない例会に出席義務を課されては、退会していくに決まっています。

だからこそ、クラブ会長は、**「魅力的で価値ある例会を準備し、クラブ会員に提供する」**という絶対的な責務があるのです。（→ P13, 22, 27, 29, 47-49, 56 参照）

その責務が果たされている大前提の上で、クラブ会員は、例会出席という絶対的な義務を負うのです。

## 2）例会におけるロータリアンの務め

Guy Gundaker は、

“ロータリアンは例会に出席し、会員同士で懇談をしなくてはならない。例え、昼食や晩餐の場であっても、意見の交換を行うべきである。そして、自らの事業または専門職務について互いに語り合い、例会で提起された全ての問題についても積極的に討論しなくてはならない。なぜなら、ロータリーの例会では、職業を異にする他のロータリアンから有用な情報が得られたり、困難な問題に対しても別な角度から解決の糸口がもたらされたりするからである。”

と述べた上で、

**「例会に出席し、会員同士が胸襟を開いて積極的に交流すること（懇談、情報交換、意見交換、討論）」**

の重要性を強調しています。もちろん、そうした交流の場では、

**「クラブの一体感、特に居心地の良さを育むためのロータリアン同士の気配りや親交、協力、寛容」**

が大切です。（→ P43-44, 49 参照）

Guy Gundaker が活躍した 100 年前のロータリー草創期に比べれば、高度情報社会と言われる現代社会では、クラブの例会で「自分の仕事に役立つ意見や情報を得やすい」というメリットは少ないかも知れません。

しかし、地域を代表する様々な組織のリーダーで、かつ奉仕の精神に満ちたロータリアンが集う例会では、互いの話を通して自分の生活信条、職業観、人生観に良い影響をもたらす「学び」の機会は多いはずです。時には、交流を通して成功や飛躍のチャンス、素晴らしい感動に恵まれることもあるでしょう。少なくとも私は、こうした信頼に満ちたロータリアン同士の交流のおかげで、人間的にも成長できましたし、時には未知の世界を教えてもらい、素晴らしい体験も数多くさせていただきました。

まさに、「Grow Rotarians」と「Enjoy Rotary」です。だからこそ私は、**「ロータリーは、人生を豊かにする」**と確信しているのです。（→ P22 参照）

以上を簡潔な表現でまとめると、次のようになるでしょう。

**「例会におけるロータリアンの務めとは、自分磨き、仲間磨き、クラブ磨きに精進することである」**

Guy Gundaker は

**“会員同士の交流は、ロータリーの志を共にする者同士の仲間意識を強め高め合う。”**（→ P8-10参照）

という考えを持っていました。すなわち、例会での親睦の深まりです。

さらに、彼は

**“例会で、ロータリーが説く「職業上の高いそして倫理基準」と「奉仕の諸原則」を学び続けることが、会員自身の成長、クラブ、事業、社会の発展に繋がる。”**（→ P14, 33, 45 参照）

という考えも持っていました。すなわち、例会での学びの重要性です。

要するに、Guy Gundaker の考えは

“親睦と学びは、ロータリーの基盤である。すなわち、親睦の中で学びを深め合い、学びの中で親睦を深め合っていくこと（Grow Rotarians & Enjoy Rotary）が、「会員自身の互いの成長と豊かな人生」、「クラブ、事業、地域、社会の発展」、そして「Grow Rotary」に繋がっていく。”

ということです。まさに、現在の『ロータリーの目的（第１）』にも通じる内容ですね。（→ P9, 45 参照）

私は、この Guy Gundaker の考えこそ、「ロータリーの魅力と価値」に繋がるものだと思っています。ロータリークラブに入会し、例会に出席し、ロータリアンとして精進するという務めを果たせば、

**ロータリアンの人生を豊かにしてくれるという『利益』（＝ロータリーの魅力と価値）**

が得られるのです。（→ P22 参照）

このロータリーの醍醐味は、現代のロータリーでも、もっと強調されるべきではないでしょうか。

# 【2】職業人としてのロータリアンの務め ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

我々、職業人としてのロータリアンは、事業経営者であり、業界人でもあります。Guy Gundaker は、「職業人としてのロータリアンの務め」を、この２つに分けて考えていました。（→ P14-15 参照）

## 1）事業経営者としてのロータリアンの務め

**「事業経営者としてのロータリアンの務め」**
**＝ ロータリーが説く「職業上の高い倫理基準」と「奉仕の諸原則」を学び、事業において実践すること**
（職務や商取引上の倫理高揚、顧客や取引業者への配慮、従業員の幸福、事業と社会の向上発展）

上記の内容は、まさに“Guy Gundaker のロータリー観”の根幹の１つであり、

**「ロータリアンは、ロータリーで学んだ職業倫理に基づく経営原理を事業生活で実践するだけでなく、ロータリーが説く奉仕の諸原則も実践し、自己の職業の高潔性を高めながら事業の向上発展に努めるとともに、“ロータリーの理想”に相応しい“素晴らしい真のロータリアン”にならなければならない」**

という意味です。言い換えれば、「職業上の高い倫理基準」と「奉仕の諸原則」の学びと実践は、“ロータリーの理想”や“素晴らしい真のロータリアン”と一体であるということです。（→ P14, 45 参照）

これは、20世紀後半まで、多くのロータリアンが信奉していた

**職業奉仕の学びと実践 ＝ ロータリー精神（ロータリアンの在るべき姿）を身につけること**

という考えにも通じるものです。（→ P50 参照）

実際、Guy Gundaker は、

“自らの日常生活で「ロータリーの理想」を実践に移さないロータリアンは、ロータリーの倫理を力強く推し進める主導者（a forceful teacher of Rotary ethics）にはなれない。”

と述べています。

### ● 信用の大切さ

Guy Gundaker は、

＊事業の向上発展のために強調しても強調し足りない重要なことは、事業主本人および事業内容に対する「信用」である

＊ロータリーの会員に選ばれるということは、会員個人および会員の事業内容に絶大な「信用」があるという証である

と述べて、ロータリアンであるがゆえの「信用」を強調しています。（← P24参照）

実際、Guy Gundaker は

**「ロータリアンは、安心して取引ができる人物である」**

ことの理由として、

“それは、迅速で確実な取引を行うということで評判が良いからではなく、
価格や性能の表示に偽りがない製品を提供することで評判が良いからではなく、
公正で適切な取引を行うということで評判が良いからでもなく、
既にロータリアン（会員個人とその事業内容に絶大な信用がある人）だからだ。”

と述べています。これこそ、我々がロータリーの徽章を着用する所以ですね。（← P24参照）

いつの時代も、事業主には「信用」が大切ですが、ロータリーに入会しただけで「信用」という幸せ（特権）が得られるのは大きな魅力でしょう。実際、我々ロータリアンは、クラブ理事会が入会を承認した新入会員を「信用できる人物」とみなし、疑念の目で見ることはありません。

この大切な魅力が汚されることのないよう、そして、なくなることがないようにしたいものです。

**● 職場における職員教育**

Guy Gundaker は、事業経営者としてのロータリアンの務めにおいて、職員教育の重要性についても述べています。特に、多くの職員を雇用する企業主に対しては、専門職務（医師、歯科医師、弁護士など）に従事する者に比べて、職員教育は大変であることを次のように述べた上で鼓舞しています。

“専門職務に従事するロータリアンは、個人差はあっても、普段から奉仕の実践をしています。それだけに、周囲の職員も自然と感化されていくでしょう。しかし、同じロータリアンでも、従業員を多くかかえる企業主は、全ての従業員に奉仕の心を植え付けなければ、奉仕の実践をしているとは言えません。それこそ何度も繰り返し、植え付けていくしかないのです。”

現代のロータリーでは、職員教育の重要性はあまり強調されていないような気がします。しかし、事業の向上、地域の人材育成、地域の発展という点でも、職員教育はロータリアンにとってとても大切な奉仕の実践であることを、私は忘れてはならないと思います。

## 2）業界人としてのロータリアンの務め

**「業界人としてのロータリアンの務め」**
**＝ ロータリーからの代表者（大使）として、「職業上の高い倫理基準」と「奉仕の諸原則」を業界に広め、業界と社会をより良くしていくこと**

Guy Gundaker は、

**“ロータリアンは、業界の代表者ではない。ロータリーから各々の業界に派遣された、ロータリークラブの代表者（大使）である。”**

と考えていました。（→ P11, 15, 33 参照）

この考え方に基づいて、

“ロータリアンは、自己の職業の高潔性を高めるためにも、他の同業者にロータリーの原理と理想を説き、「職業倫理の価値」と「奉仕の諸原則」を広めていく**義務** がある。さらに。業界における低次元の考え方や悪しき商習慣を終わらせ、業界の向上発展に努める **義務** がある。”（→ P11, 15, 33 参照）

とした上で、これらの義務こそ、ロータリアンにとって最も大切な「奉仕の機会」であると述べています。（This is Rotary’s greatest opportunity for service.）

**● 現代におけるロータリアンの業界活動**

20 世紀初頭のロータリー草創期に比べれば、現代社会は法律、規制、監視なども整備され、そうそう悪いことはできなくなっています。それでも、汚職や談合、贈収賄、虚偽、改竄の類はなくなりません。さらに現代社会では、ガバナンス、コンプライアンス、リスク・マネジメント、CSR（企業の社会的責任）などの重要性も叫ばれています。

それだけに、ロータリーが育てた「素晴らしい真のロータリアン」を業界に派遣し、その業界でリーダーシップを発揮してもらうという Guy Gundaker の考え方は、現代でも大切なのではないでしょうか。

すなわち、業界をより良くしていくことは、昔も今も変わらないロータリアンの務めであり、社会の発展に繋がる大切な「奉仕の機会」でもあると言いたいのです。

## 【3】地域住民としてのロータリアンの務め ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

Guy Gundaker は、

**“ロータリーは、会員をより良き市民に成長させるための訓練の場である。”**

と述べています。だからこそ、訓練を積んだロータリアンは、積極的な価値ある奉仕を通じて地域社会に貢献しなければならないのです。（→ P16参照）

> **「地域住民としてのロータリアンの務め」**
> **＝ ロータリーで成長した良き市民として、地域社会の発展に貢献すること**
> **＝ 現代のロータリーにおける「社会奉仕」**

言い換えれば、「ロータリーの理想」に相応しい生き方を地域社会で実践するということですね。

Guy Gundaker は

“ロータリアンにとって、「他人のために何かしよう」という奉仕の心を実践する最良の場は、家庭である。そこには家族愛があるからこそ、心のこもった態度で家族に奉仕ができる。”

という考えを持っていました。それだけに、

**「家庭での家族愛を、実業の世界、そして町、州、国、ならびに社会全体へ及ぼし広げていくこと」**

が重要であると述べているのです。（→ P16 参照）

要するに、

**“良き家庭人たれ！　良き職業人たれ！　良き市民たれ！　そして、良きロータリアンたれ！”**

ということです。この言葉も、“Guy Gundaker のロータリー観”の特徴の１つです。

言うまでもなく、良き市民となるには、「自分が住んでいる地域の様々な知識や情報」が必要です。それらの知識や情報は、もちろん個人としても収集するべきですが、クラブ例会でも提供されるべきであると、Guy Gundaker は述べています。（→ P34 参照）

その上で、Guy は

“ロータリアンは、自分が住んでいる地域に対する正しい知識、強い関心、そして愛着を持ち、一人の市民として慈善的、博愛的、公共的な団体の会員として活動するべきである。ロータリアンなら、その団体の中で積極的、かつ効果的な活動をすることができるし、必要なことに対しては金払いもよい会員となるだろう。”

と述べ、

**「ロータリアンが一人の市民として行う“地域貢献”にこそ、大きな価値がある」**

と強調しています。実際、保護司、児童委員、ボーイスカウトのリーダー、様々なボランティアなど、ロータリアンだからこそ大いに活躍できる地域活動も少なくありません。

要するに、Guy Gundaker は

**“ロータリーは、クラブとしての団体活動よりも、ロータリアン個人としての地域活動、または ロータリアンが所属する業界団体や公共的な慈善団体の会員としての地域活動を通して、 地域社会へ積極的に貢献するべきである。”**（→ P16参照）

と考えていたのです。

なお、この考え方は、既に指摘したように、1923年に採択された『決議23-34』の６)、いわゆる「クラブが団体的な社会奉仕活動を行う場合の指針」にも色濃く反映されているのです。（→ P16-17参照）

ロータリアンの活動 ＝ ロータリアンの義務【まとめ】

1）クラブ会員としてのロータリアンの務め

～クラブ内での親睦と高潔と寛容に満ちた積極的な行動～

例会に出席し、会員同士の積極的な交流（懇談、情報交換、意見交換、討論）を通して
親睦と学びを深め合い、会員の誰もが“素晴らしい真のロータリアン”に成長するように
気配り、親交、協力、寛容を心がけながら、クラブ、事業、地域、社会の発展に繋げていくこと。
（例会出席、自分磨き、仲間磨き、クラブ磨き）

2）職業人としてのロータリアンの務め

～ 職務や商取引上の倫理高揚、顧客や取引業者への配慮、従業員の幸福、事業・業界・社会の向上発展 ～

● 事業経営者としてのロータリアンの務め

ロータリーが説く「職業上の高い倫理基準」と「奉仕の諸原則」を学び、事業生活で実践する。
＊高潔と信頼と奉仕の心に満ちたロータリアンの証が、ロータリーの徽章の着用である。
＊事業主として、全従業員に奉仕の心を育成する。

● 業界人としてのロータリアンの務め

ロータリーからの代表者（大使）として、「職業上の高い倫理基準」と「奉仕の諸原則」を
業界に広め、業界と社会をより良くしていく。
＊自分の業界の向上発展に貢献することは、最も大切な「奉仕の機会」である。
＊業界各社のガバナンス、コンプライアンス、リスク・マネジメント、CSR の強化向上。

3）地域住民としてのロータリアンの務め（現代のロータリーにおける「社会奉仕」）

～ ロータリーで成長した良き市民として、地域社会の発展に貢献すること ～

自分が住んでいる地域に対する正しい知識、強い関心、そして深い愛着を持ち、
一人の市民として、または業界団体や市民組織の会員としての活動を通して、
地域社会へ積極的に価値ある貢献をすること。
＊家庭での家族愛を、町、州、国ならびに社会全体へと及ぼし広げていく。
＊ロータリアンが一人の市民として行う奉仕活動にこそ、大きな価値がある。
＊良き市民たれ！　良きロータリアンたれ！

以上を要約すれば、

**ロータリーは、自分自身を、事業を、業界を、そして社会全体を向上させる運動である**（→ P11 参照）

ということです。だからこそ、

「**ロータリアンは、社会全体の様々な場面や状況において、**
**価値ある奉仕（向上や発展をもたらす行動）に徹する使命がある**」（→ P19 参照）

ということになるのではないでしょうか。

Gundaker は、

“**ロータリアンとしての活動（義務）をロータリーで学び、**
**個人生活、事業生活、社会生活など、日常のあらゆる場面や分野で**
**実践することこそ、「ロータリーの理想（the ideals of Rotary）」である。**”

と考えていたのです。（→ P45参照）

それだけに、Guy Gundaker は

“**全てのロータリアンは、高潔と信頼と奉仕の象徴である**
**ロータリーの徽章を常に着用しなければならない。**”（→ P24参照）

と強調しています。要するに、

“我々は、いつでもどこでもロータリアン！”

# 4. ロータリークラブの一体感と居心地の良さ

クラブの一体感を醸成していくには、クラブ会長の覚悟と情熱とリーダーシップのもと、

**＊心が洗われる会長挨拶（会長スピーチ）**

**＊親睦、学び、成長、奉仕に満ちた、魅力的で価値ある例会**

が行われていることが大切です。

前者については、会員のロータリアンとしての士気を高め、会長への信頼と尊敬を育み、クラブに活力と一体感をもたらすという点で重要です。（→ P30 参照）

後者については、例会における会員間の交流（懇談、情報交換、意見交換、討論）はもちろんですが、

**「親睦と学びの場に相応しい例会プログラム」**

も不可欠です。特に、例会で会員が自らのロータリー観を語る機会となる

**＊会員スピーチ**（→ P31参照）　　**＊クラブ・フォーラム**（→ P36参照）

の２つは、会員同士の信頼、敬愛の念、仲間意識などを深め合うプログラムとして重要です。

Guy Gundaker は、クラブの一体感を醸成していく他の企画や行事として、

＊ロータリー・ソングの合唱

＊会員の表彰やお祝い（出席年数、誕生祝い、結婚記念日など）

＊ゲストによる有意義な卓話

＊分かり易いロータリーの研修と討論会

などを重視すべきであると述べています。

現代のロータリークラブなら、上記に加えて、以下の企画や行事も好ましいと言えるでしょう。

＊「ロータリーの目的」、「四つのテスト」、「ロータリアンの行動規範」などの唱和と解説

＊「スマイル」の内容紹介　　＊「ロータリーの友」や「ガバナー月信」の記事紹介

＊ＲＩ理事会議事録の要点解説

また、ロータリアンは多忙な人が多いので、例会の企画や行事の順序、時間配分などにも配慮した上で、定刻通りに始まり、定刻通りに終わるような例会を心がけることも必要です。そのためには、例会が順調に進行するよう、会場監督（ＳＡＡ）の気配りと会員の協力が欠かせません。

もちろん、例会の遵守事項を守ることも大切です。Guy Gundaker は、米国ならではのことでしょうが、

＊ロータリーの例会では、決して酒の勢いを借りて議論してはならない。

＊ロータリーの例会では、発言者は無意味な冗談を言ってはならない。

の２つを厳守事項として挙げた上で、会員の誰もが例会の品位を保つことを強調しています。（→ P10参照）

もう一つ重要なことは、新入会員や来訪者（メイク・アップ、特別ゲストなど）に、例会場で疎外感を感じさせない心配りです。例えば、

**① 新入会員や来訪者に対する声がけや助言を、会員の誰もが心がける**

**② 来訪者に対しては、ＳＡＡはもちろん、気づいた会員は所定のテーブルに案内し、接待に心がける**

**③ 来訪者に対しては、歓迎のスマイル・ボックス入金で応える**

ことは大切です。これらは、特にクラブ・リーダーやベテラン会員が率先して手本を示すべきでしょう。

Guy Gundaker は、会員同士の交流こそが「ロータリークラブ本来の姿」と考えていました。現代においても、例会プログラムだけではなく、会員同士の親交や気遣いを促す工夫や配慮など、友情が育まれるようなクラブ運営が必要であることは言うまでもないでしょう。（→ P38, 49 参照）

なお、Guy Gundaker自身は言及していませんが、クラブの一体感という点では、

**「ロータリーの例会は、ホッとする場、憩いの場、気持ちが落ちつく場、明るく楽しい場」**

であることも重要でしょう。これらは、特に例会開始前の会場の雰囲気に現われます。言い換えれば、

**「会員の誰にとっても居心地の良いクラブ」**

です。そういうクラブであれば、

**「会員同士の交流（懇談、情報交換、意見交換、討論）の中で、ロータリーを語り合う」**

ことも、自然と行われているのではないでしょうか。（→ P13, 29, 38参照）

もちろん、時には飲食を伴う楽しい懇親会も大切でしょう。

以上、ここまで述べてきた内容は、「クラブ（クラブ・リーダー）の責務」だけではなく、「クラブ会員としてのロータリアンの務め」にも関わるものです。これらは、歴代の会長が会員に何度も意識を喚起し、かつベテランの会員が手本を示しながら、皆様のクラブでは既に「クラブの文化」になっていることを、私は信じています。

### ● クラブ奉仕の正しい理解と実践 （→ P47-49 参照）

クラブの一体感を育むには、会員の全員がクラブ奉仕を正しく理解し、実践していることが重要です。

クラブ奉仕は、クラブ（クラブ・リーダー）とクラブ会員による、次のような協同作業です。

**＊クラブの責務：クラブ・リーダーとしてのロータリアンの務め**

クラブ会長は、魅力的で価値あるクラブ運営（特に例会運営）を行う。

→「来てよかったと、会員の誰もが思う例会の開催」

**＊クラブ会員としてのロータリアンの務め**

一般会員は、例会に出席し、親睦と高潔と寛容に満ちた積極的な行動を心がける。

（クラブ運営に協力しながら仲間意識を高め合うように心がけ、互いに助け合い、成長していく）

→「例会出席、自分磨き、仲間磨き、クラブ磨き」

**クラブの一体感と居心地の良さ【まとめ】**

**～ 親睦、学び、成長、奉仕を育むクラブ運営 ～**

＊クラブ会長の覚悟と情熱とリーダーシップ

＊心が洗われる会長挨拶（会長スピーチ）

＊親睦、学び、成長、奉仕に満ちた、魅力的で価値ある例会

（例会はホッとする場、憩いの場、気持ちが落ちつく場、明るく楽しい場）

- 会員同士の交流（懇談、意見交換、情報交換、討論）
- 会員同士の信頼、敬愛の念、仲間意識を深め合う例会プログラム
  会員スピーチ、クラブ・フォーマル
- 例会における企画や行事の工夫や配慮
  合唱、唱和、会員の表彰やお祝い、有意義なゲスト卓話、
  分かり易いロータリーの研修と討論会、「スマイル」の内容紹介、
  「ロータリーの友」や「ガバナー月信」の記事紹介、RI理事会議事録の要点解説
- 例会スケジュールの時間配分と時間厳守
- 会員の誰もが例会の遵守事項を守り、品位を落とすような言動を慎む
- 新入会員や来訪者に疎外感を感じさせない工夫や配慮
- 飲食を伴う楽しい懇親会

＊クラブ奉仕の正しい理解と実践（→ P47-49 参照）

- クラブ会長は、魅力的で価値あるクラブ運営（特に例会運営）を行う
- 一般会員は、例会に出席し、クラブ内で親睦と高潔と寛容に満ちた積極的な行動を心がける

# 5．Guy Gundaker が考える「ロータリーの理想」

## 【1】「ロータリーの理想（The ideals of Rotary）」の意味 ～～～～～～～～～～～～

Guy Gundaker が述べた「ロータリーの理想」は、次のように理解すればよいでしょう。（→ P14, 33, 39 参照）

**ロータリーの理想（The ideals of Rotary）**

Guy Gundakerの「ロータリーの理想」とは、親睦と学びの場である例会で「職業上の高い倫理基準」と「奉仕の諸原則」を学び続け、それらを個人生活、事業生活、社会生活など、日常のあらゆる場面で実践していく「ロータリアンの高潔な生き方（奉仕という生き方）」のことである。それが、

- **会員のクラブ、事業、業界全体の向上**
- **会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上**

に繋がるのです。要するに、「ロータリーの理想」とは“素晴らしい真のロータリアン”の使命です。

上記の「奉仕の諸原則」の内容は、“Guy Gundaker のロータリー観”そのものと言ってよいでしょう。もちろん、その中核は、以下に示した「ロータリアンの活動（ロータリアンの義務）」です。（→ P37参照）

- **＊クラブ会員としてのロータリアンの務め**（→ P37-38参照）
- **＊職業人としてのロータリアンの務め**（→ P39-40参照）
- **＊地域住民としてのロータリアンの務め**（→ P41-42参照）

## 【2】「ロータリーの理想」と「ロータリーの目的」～～～～～～～～～～～～～～～～

### 1）ロータリーの目的（第1）

現在の『ロータリーの目的（第1）』は、前述したように、Guy Gundaker の「ロータリーの理想」にある「クラブ会員としてのロータリアンの務め」の1つであることは言うまでもないでしょう。（→ P9, 38参照）

**● 現在：ロータリーの目的（第1）**

第1　知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；

### 2）ロータリーの目的（第2）

1912 年に米国ミネソタ州ダルース国際大会で採択された『ロータリークラブの目的*』は、「奉仕」、「職業倫理」、「公共の福祉（the public welfare）」などの言葉が初めて使われたという点で、画期的な内容と言ってよいでしょう。だからこそ、その4年後の 1916 年に発行された Guy Gundaker の『A Talking Knowledge of Rotary』では、それらの内容が大いに反映されているのです。

例えば、Guy Gundaker が「ロータリーの理想」の中で述べた「職業人としてのロータリアンの務め」については、「職業上の高い倫理基準と高潔性」が強調されています。（→ P14, 33, 39 参照）

実は、これは 1912 年の『ロータリークラブの目的*』の第1と第2に由来するものです。しかも、その2つこそ、現在の『ロータリーの目的』（第2）の原形でもあるのです。

**● 1912 年採択：ロータリークラブの目的*（第1と第2）**

第1　すべての合法的職業は価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会として会員各自の職業を高潔なものにすること。

第2　職業上の高い倫理基準を保つこと。

**● 現在：ロータリーの目的（第2）**

第2　職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；

（*1912年に採択された『ロータリークラブ定款』に収載されている）

## 3）「奉仕の理想（理念）」とロータリーの目的（第3）

ロータリーの公式文書に「奉仕の理想（理念）：the ideal of service 」という言葉が最初に出てきたのは『A Talking Knowledge of Rotary』発行の2年後で、1918 年に改定された「国際ロータリークラブ連合会の目的（第3の（b））」にある次の表現です。

**「奉仕の理想（理念）は、すべての価値ある事業の基礎である」**

（The ideal of SERVICE as the basis of all worthy enterprise）

これは、ご存じのように、現在の『ロータリーの目的』の冒頭でも使われている表現です。

1918 年に唐突に出てきた「奉仕の理想（理念）：the ideal of service 」という表現は、もちろん

**“ロータリアンが「ロータリーの理想」を学び、個人生活、事業生活、社会生活など、日常のあらゆる場面や分野で実践すれば、クラブ、事業、業界全体の向上に繋がるだけでなく、会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上にも繋がる。”**（→ P45参照）

という、Guy Gundaker の崇高な考え方から由来したものと言ってよいでしょう。

その証拠に、この考え方は、1926 年に改定された決議 23-34（採択自体は 1923 年）の序文にも反映されているのです。

● 決議 23-34：序文（1926 年の改定版）

ロータリーにおいて **社会奉仕** とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に **奉仕の理想（the ideal of service）** を適用することを奨励、育成することである。

なお、上記は1927年以前の採択ですから、ここでの**『社会奉仕』**は、社会全体の様々な場面や状況での「奉仕」という意味であり、現代の「社会奉仕（＝ 地域社会奉仕）」とは意味が異なります。（→ P18参照）

そして、上記の『決議 23-34』の序文（1926 年の改定版）から**『社会奉仕』**という言葉を除いた内容が、現在の『ロータリーの目的（第3）』なのです。

● 現在：ロータリーの目的（第3）

第3　ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、**奉仕の理念（the ideal of service）** を実践すること；

なお、現在の『ロータリーの目的（第3）』はロータリーの社会奉仕を説明したものと考える人がいますが、それは間違いです。なぜなら、現在のロータリーの社会奉仕は地域社会奉仕を指す言葉です。その地域社会奉仕に、“奉仕の理念を事業生活において実践する”という職業奉仕が混ざっているのは矛盾するからです。

ところで、Guy Gundaker の「ロータリーの理想」にある「3つのロータリアンの義務」（→ P45参照）に「世界市民としてのロータリアンの務め」を追加すればどうなるでしょう。まさしく、現在の『ロータリーの目的』そのものに合致するのではないでしょうか。

以上をまとめれば、次のようになります

**We shall remember Guy Gundaker**

＊ロータリーの「奉仕の理想（理念）」の起源 ＝ Guy Gundaker の「ロータリーの理想」

＊Guy Gundaker の「ロータリーの理想」＋「世界市民としてのロータリアンの務め」

＝ 現在の『ロータリーの目的』

# ６．Guy Gundaker の今日的意義

## 【１】「クラブ奉仕」と Guy Gundaker ～～～～～～～～～～～～～～～～～＝～～～～～

### １）目標設定計画で定められた「クラブ奉仕」（→ P18 参照）

ロータリーの歴史上、クラブ奉仕（Club Service）という名称が使われるようになったのは、1927 年、ベルギーのオステンド国際大会で『目標設定計画（The Aims and Objects Plan）』が採択された時からです。すなわち、それまでのロータリーの一般奉仕概念が、「クラブ奉仕」、「職業奉仕」、「社会奉仕」の３つに分類された時からです。

**「クラブ奉仕」の最初の定義**

1931 年、ＲＩが『目標設定計画』の解説書として正式に発行した『The Aims and Objects Plan（Pamphlet No.３）』には、クラブ奉仕の説明として、次のように２つの内容が明記されています。

**＊ロータリアン一人一人は、クラブに対して義務を負っている。**
**＊全てのクラブは、クラブ会員に対して責任を負っている。**

（Each individual Rotarian has a duty to the particular club of which he is a member；each club has a responsibility toward the men who compose its membership.）

（翌 1932 年発行の『手続要覧』の「クラブ奉仕」の項目にも同じ記載があります）

前者の「ロータリアン一人一人は、クラブに対して義務を負っている」とは、Guy Gundaker の言う

**① クラブ会員としてのロータリアンの務め**（→ P37-38 参照）

です。実際、1932 年発行の『手続要覧』の「クラブ奉仕」の項目でも、

**“クラブ会員は、誰もがクラブの中でロータリアンとして成長しなくてはならない。それは自分自身の向上のみならず、他の会員の向上、クラブの成長発展にも貢献するということである。”**

と説明されています。すなわち、会員によるクラブ内での親睦と高潔と寛容に満ちた積極的な行動という意味であり、具体的には「例会出席、自分磨き、仲間磨き、クラブ磨き」ということですね。（→ P38 参照）

一方、後者の「全てのクラブは、クラブ会員に対して責任を負っている」とは、Guy Gundaker の言う

**② クラブ運営を担うクラブ・リーダーの務め（クラブ管理運営）**（→ P25-36 参照）

です。1932 年発行の『手続要覧』の「クラブ奉仕」の項目には、

**“クラブは、会員の成長を奨励し、援助しなければならない。”**

と説明されています。そのためには、クラブ・リーダー（特にクラブ会長）による魅力的で価値あるクラブ運営が必要であり、具体的には

**“素晴らしい真のロータリアンを育成し、支援し、増やすために、「親睦、学び、成長、奉仕」を主体としたクラブ運営（特に例会運営）を行う。”**（Grow Rotarians & Enjoy Rotary）

ということです。そのためには、「来てよかったと、会員の誰もが思う例会」であることが必須です。

以上の内容は、“Guy Gundaker のロータリー観”そのものです。当時のクラブ運営テキストは Guy Gundaker の『A Talking Knowledge of Rotary』でしたから、むしろ当然と言ってよいでしょう。

**1927 年の目標設定計画で定められた「最初のクラブ奉仕」【まとめ】**

クラブ奉仕とは、クラブ会員の成長（素晴らしい真のロータリアンへの成長）のための全ての取り組みであり、クラブ会員とクラブ・リーダーの双方の務め（協同作業）である。（→ P44 参照）

＊クラブ会員 ＝「会員によるクラブ内での親睦と高潔と寛容に満ちた積極的な行動
（例会出席、自分磨き、仲間磨き、クラブ磨き）」

＊クラブ・リーダー ＝「クラブ・リーダーによる魅力的で価値あるクラブ運営
（来てよかったと、会員の誰もが思う例会）」

### ●「クラブ奉仕委員会」の任務および名称の変更

クラブ奉仕委員会の“任務”は、1927 年当時の『ロータリークラブ細則（第８条の2）』に、

**「この委員会は、（中略）クラブの機能を発展させるために任命した職業分類、会員選考、プログラム、親睦、広報、およびクラブ奉仕の特定分野を担当する他の小委員会を監督し、調整するものとする」**

と記されています。つまり、クラブ奉仕委員会の“任務”はクラブ管理運営です。その後、多少の変更はあったものの、内容的には 2006 年の『推奨ロータリークラブ細則』まで変わりありません。

クラブ奉仕委員会という“名称”は、CLP（Club Leadership Plan）の本格的導入に伴い、2007 年の『推奨ロータリークラブ細則』でクラブ管理運営委員会と変更され、その“任務”については

**「この委員会は、クラブの効果的運営に関連する活動を実施するものである」**

と定められました。考えてみれば、クラブ奉仕委員会という名称では、この委員会がクラブ奉仕の全てを担うかのような誤解を招きます。それだけに、クラブ管理運営委員会への名称変更は適切だったと思います。

なお、“任務”に関する具体的記載は、2013 年以降、ロータリークラブ定款細則からなくなっています。

## 2）2007 年改訂の『標準ロータリークラブ定款』に明文化された「クラブ奉仕」の解釈

クラブ管理運営委員会に名称が変更された 2007 年、『標準ロータリークラブ定款』に四大奉仕部門が初めて明文化され、「クラブ奉仕」が定義されました。以来、それは 2024 年の今日まで変わっていません。

> **● 現在：標準ロータリークラブ定款　第6条「五大奉仕」**
>
> 1．奉仕の第一部門であるクラブ奉仕は、本クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである。

しかし、上記の文中にある「本クラブの機能を充実させる」と「クラブ 内で会員が取るべき行動」については何ら説明がなく、具体的な内容が分かりません。少なくとも、新入会員には意味不明でしょう。

前者の「本クラブの機能を充実させる」についてですが、Guy Gundaker を信奉する私としては、

**クラブの機能とは、“素晴らしい真のロータリアン”を育成し、支援し、増やすこと**（← p25 参照）

という理解をしています。現代流に考えれば、『標準ロータリークラブ定款』の第３条「クラブの目的」に明記された以下の内容を、効果的に達成するという理解でもよいでしょう。

> **● 現在： 標準ロータリークラブ定款　第3条「クラブの目的」**
>
> 本クラブの目的は、次の通りである。
>
> ⑷ ロータリーの目的」の達成を目指すこと
>
> ⑹ 五大奉仕部門に基づいて成果あふれる奉仕プロジェクトを実施すること
>
> ⑹ 会員増強を通じてロータリーの発展に寄与すること
>
> ⑹ ロータリー財団を支援すること
>
> ⑹ クラブレベルを超えたリーダーを育成すること

一方、後者の「クラブ内で会員が取るべき行動」は、従来通り、次の2つに分けて考えるべきでしょう。

**① クラブ会員（＝ 一般会員）としてのロータリアンの務め**（→ P37-38, 44, 47 参照）

**＝「会員によるクラブ内での親睦と高潔と寛容に満ちた積極的な行動（例会出席、自分磨き、仲間磨き、クラブ磨き）」**

**② クラブ運営を担うクラブ・リーダーの務め（クラブ管理運営）**（→ P25-36, 44, 47 参照）

**＝「クラブ・リーダーによる魅力的で価値あるクラブ運営（来てよかったと、会員の誰もが思う例会）」**

したがって、現在の『標準ロータリークラブ定款』第6条1は、次のように理解すればよいでしょう。

**現代の「クラブ奉仕」の 解釈【まとめ】**

クラブ奉仕とは、“素晴らしい真のロータリアン”を育成し、支援し、増やすための
（or 本クラブの目的（標準ロータリークラブ定款の第３条）を達成するための）
「クラブ会員によるクラブ内での親睦と高潔と寛容に満ちた積極的な行動
（例会出席、自分磨き、仲間磨き、クラブ磨き）」および
「クラブ・リーダーによる魅力的で価値あるクラブ運営（来てよかったと、会員の誰もが思う例会運営）」
のことである。

最近、「クラブ奉仕 ＝ クラブ運営」と考えているロータリアンが少なくないようです。（→ P18 参照）
しかし、1927 年に「クラブ奉仕」という言葉が生まれて以来、

**「クラブ奉仕は、クラブ会員とクラブ・リーダーの双方の務め（協同作業）」**（→ P44. 47 参照）

です。言うまでもなく、充実した協同作業であればあるほど、クラブに一体感が生まれ、クラブ会員の「エンゲージメント」を育み、高めることにもなるでしょう。すなわち、クラブ奉仕の正しい理解と実践は、

- **「Grow Rotarians」と「Enjoy Rotary」に満ちたクラブ**（→ P56 参照）
- **「ロータリーの魅力と価値」に溢れたクラブ**（→ P22 参照）

をもたらすのです。そんな素晴らしいクラブなら、退会を考える会員はいないでしょう。（→ P30. 56 参照）

## 参考７：ＤＥＩと Toleration

ＤＥＩ（Diversity, Equity, Inclusion：多様性、公平性、包摂性）は、共生社会や戦略的な組織運営という観点から、最近よく使われる言葉です。一般的には、「多様な人材が公平に扱われ、そうした状態が十分に活かされ、かつ機能する組織運営や社会体制」を指しています。

ロータリーにおいても、クラブ運営にＤＥＩを採り入れながら、会員のニーズや期待に応えるクラブ戦略や会員増強計画のもと、柔軟で持続可能なクラブ作りをすることが推奨されています。実際、My Rotary の「奉仕部門」にあるクラブ奉仕の説明にも、ＤＥＩに関連して

**「会員同士の関係を育み、積極的な会員増強計画を実行して、活気あるクラブづくりを行うこと」**

と記されています。つまり、ＤＥＩはクラブ活性化の効果的な手法と考えればよいでしょう。

忘れてならないのは、「クラブ奉仕は、クラブ会員とクラブ・リーダーの協同作業である」ということです。この協同作業が上手く機能するように、ＤＥＩに満ちた組織を目指すのです。

ＤＥＩに満ちた組織であるためには、構成員各自に「Toleration（寛容、尊重、受容、我慢）」の精神が必要です。ロータリーでも、会員の誰もが「Toleration」の精神を発揮すれば、ＤＥＩを重視したクラブの活性化は容易でしょう。なにより、「Toleration」は人づきあいの基本です。クラブでは、一人一人のロータリアンが大切にされ、“排除の論理”などがあってはならないのです。それは、「クラブの文化」でなくてはなりません。

そういう意味では、ロータリーの創始者 Paul Percy Harris が『The National Rotarian』創刊号（1911 年）に寄稿した“Rational Rotarianism”の中で、

**「ロータリーの発展のためには、Toleration が最も大切である」**

と述べているのは、実に興味深いことです。100 年以上たった今でも、珠玉の言葉と言ってよいでしょう。

言い換えれば、ＤＥＩは新しいことでもないし、難しいことでもないのです。今も昔も、“親睦、高潔、寛容、ロータリーの志”に満ちたロータリアンであることが求められているのです。

## 【2】「職業奉仕」と Guy Gundaker ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

### 1）目標設定計画で定められた「職業奉仕」（→ P18 参照）

職業奉仕（Vocational Service）という名称が使われるようになったのは、クラブ奉仕同様、1927 年、ベルギーのオステンド国際大会で『目標設定計画（The Aims and Objects Plan）』が採択された時からです。

**「職業奉仕」の最初の定義**

1931 年、ＲＩが『目標設定計画』の解説書として正式に発行した『The Aims and Objects Plan（Pamphlet No.３）』には、職業奉仕の説明として、次のように明記されています。

**職業奉仕 ＝ ロータリアン各自の職業上の奉仕**（Service in one's occupation）

**“職業奉仕とは、自己の職業分類に属する専門職務、商取引、業界団体において、ロータリアン個人が行うべき「奉仕の理念の実践」である。”**

（by vocational service is meant the active expression of the ideal of Service by the individual Rotarian in and through the profession, trade, or other group covered by his classification.）

上記の内容は、以下に記した“Guy Gundaker のロータリー観”と一致するものです。（→ P39-40 参照）

**職業人としてのロータリアンの務め**
**＝ ロータリーが説く「職業上の高い倫理基準」と「奉仕の諸原則」を学び、**
**事業において実践するとともに、それらを業界にも広めること（事業、業界、社会の発展）**

さらに、『The Aims and Objects Plan（Pamphlet No.３）』には、

**“職業奉仕は、（1922 年のロスアンゼルス大会で採択された、当時の）『ロータリーの目的』における６項目の全てに深く関わる内容であり、ロータリーのプログラムの主要部分である。”**

（The six objects of Rotary relate so largely to Vocational Service as to make it appear that Vocational Service is the major part of the program of Rotary.）

と明記され、ロータリーにおける職業奉仕の重要性が強調されました。

それだけに、

**＊ロータリーの根幹は、職業奉仕である**
**＊職業奉仕の学びと実践 ＝ ロータリー精神（ロータリアンの在るべき姿）を身につけること**

という考えが、その後のロータリーの歴史の中で（20 世紀後半まで）定着していったのです。（→ P39 参照）
当時のロータリアンは誰もが自己の事業に１日の大半を費やす職業人でしたから、当然でしょう。

しかし、21 世紀になると、職業奉仕は「奉仕の理念」の実践の１つとして認識されるようになり、現在は、

**＊ロータリーの根幹は、奉仕の理念（the ideal of service）である**

という考えが一般的です。言い換えれば、「奉仕という生き方」そのものが重要視されるようになり、Guy Gundaker の「ロータリーの理想」に主眼が置かれるようになったということです。（→ P45-46 参照）

### ● 20 世紀後半までの「職業奉仕の具体的実践内容」

1931 年の『The Aims and Objects Plan（Pamphlet No.３）』は、職業奉仕の具体的な実践として、

**職務や商取引上の倫理高揚、顧客や取引業者の配慮、従業員の幸福、事業の繁栄、業界と社会の発展**

に繋がる活動を強く求めています。これらは、20 世紀後半まで重視されていたものばかりですが、もちろん、現代でも疎かにしてはなりません。言い換えれば、今も昔も、職業人であるロータリアンは、職業奉仕を誠実に実践する使命があるということです。

それだけに、職業奉仕（Vocational Service）という名称には「occupation」ではなく、天職という意味合いを含む「vocation」という単語が使われたことに、共感や納得する人も少なくないでしょう。

## ● 20 世紀後半までの「クラブの職業奉仕委員会の任務と具体的活動」

### ① クラブの「職業奉仕委員会」の任務

“任務”については、1931 年当時の『推奨ロータリークラブ細則（第８条の３）』に、

**「本クラブ会員がその職業関係における諸責務を遂行し、各会員それぞれの職業における慣行の一般水準を引き上げる上に役立つ指導と援助を与えるような方策を考案し、これを 実施する」**

と記されています。この内容は 2006 年の『推奨ロータリークラブ細則』まで変更はありません。

### ② クラブの「職業奉仕委員会」の具体的活動（プログラム）

“具体的活動”については、1931 年の『The Aims and Objects Plan（Pamphlet No.３）』に

**「職業奉仕に関する諸問題をクラブで話し合い、職業奉仕の研究、発展、実践を奨励する」**

と記されています。さらに、こうしたプログラムを通じて、クラブの職業奉仕委員会は、会員に

**「自己の成長、事業の成功、他者からの尊敬、自尊心、社会に貢献しているという満足感」**

などが得られるようにすることも強調されています。どれも、“Guy Gundaker のロータリー観”に通じるものばかりですね。

しかし、次の項目で説明するように、1987 年、それまでの職業奉仕の内容に追加がされたのです。

## 2）従来の職業奉仕に追加された「職業を活かした社会貢献」

2004 年 11 月の RI 理事会で、ロータリークラブの強化を目的とした CLP（Club Leadership Plan）が決定されました。さらに、CLP の本格的導入に伴い、長年に亘って『推奨ロータリークラブ細則』にあった職業奉仕をはじめとした「委員会の“任務”」の記載が、2007 年からなくなりました。
そして、その 2007 年の『標準ロータリークラブ定款』に、四大奉仕部門が初めて明文化されたのです。

**● 標準ロータリークラブ定款における「職業奉仕」**

**＊ 2007 年　標準ロータリークラブ定款　第５条　四大奉仕部門**

２．奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うことが含まれる。

**＊ 2010 年　標準ロータリークラブ定款　第５条　五大奉仕部門**

２．（内容は2007年の文章と同じ）

**＊ 2016 年　標準ロータリークラブ定款　第６条　五大奉仕部門**

２．奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。

注目して欲しいのは、2016 年の『標準ロータリークラブ定款（第６条の２）』の職業奉仕に関する記載です。そこには新たに、「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えること」が追加されているのです。

しかし、この追加表現は、唐突に出てきたわけではありません。実は、既に 1987 年に出された『職業奉仕に関する声明（Statement on Vocational Service）の３』にも、同様な記載があるのです。

● 職業奉仕に関する声明（1987 年）

職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法である。 職業奉仕の理想に本来込められているものは次のものである。

1．あらゆる職業において最も高度の道徳的水準を守り、推進すること。その中には雇主、従業員、同僚への誠実、忠実さ、また、この人達や同業者、一般の人々、職業上の知己すべてへの公正な取り扱いも含まれる；

2，自己の職業またはロータリアンの携わる職業のみならず、あらゆる有用な職業の社会に対する価値を認めること；

3．自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること。 （以下省略）

この声明は、1987 年以前の職業奉仕の内容（上記の１と２）に、「３．自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること」が追加された形式になっています。しかも、この追加項目は、その後も

- 1989 年『ロータリアンの職業宣言』
- 2011 年『ロータリーの行動規範』（その後、2014 年に改定）
- 2014 年『ロータリアンの行動規範』（その後、2016 年、2019 年、2023 年に改定）

に職業奉仕活動の１つとして明記され、それが 2016 年の『標準ロータリークラブ定款（第６条の２）』にも追加されたのです。言い換えれば、ＲＩは 1987 年以降、職業奉仕活動の１つとして、

**「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てる奉仕」（職業を活かした社会貢献）**

を強く推進してきたということです。

さらに、クラブの職業奉仕委員会の“具体的活動（プログラム）”として、

**「職業上の手腕を活かした社会貢献に相応しいプロジェクト事業を開発して実施すること」**

が新たに加わりました。（→ 2016 年『標準ロータリークラブ定款（第６条の２）』：P51 参照）

● 「職業を活かした社会貢献」が職業奉仕活動に追加されたために起きた波紋

次の２つの奉仕活動を考えてみましょう

**① ロータリークラブの事業として、クラブ会員の企業経営者らが中学校で職業講話をする。**

**② ロータリアンの建築業者が木製の長椅子を製作し、公園や高齢者施設に寄贈する。**

恐らくベテランのロータリアンは、「①は青少年奉仕、②は社会奉仕」と考えるのが妥当であると言うでしょう。ところが、現代のロータリーでは「①②ともに職業奉仕」ということになるのです。なぜなら、上記の①②は職業上の手腕（知識や技術）を社会のニーズに役立てる活動であり、まさに「ロータリアンの職業を活かした社会貢献」に相当するからです。

ベテランのロータリアンは当惑するかも知れませんが、次のことを考えて欲しいのです。

- 上記の①②は、職業人であるロータリアンだからこそ、上手にできる奉仕活動ではありませんか？
- 大切なのは奉仕の色分けや区別ではなく、奉仕の実践そのものではありませんか？（→ P18参照）

誤解しないで欲しいのは、

“職業奉仕の定義に「職業を活かした社会貢献」が追加されたからといって、従来の職業奉仕の精神や意義が変質したわけでもないし、否定されたわけでもない。”

ということです。むしろ、職業人であるロータリアンであればこそ、より充実した、そして価値のある「職業を活かした社会貢献」ができるのですから、

“新たに追加された「職業を活かした社会貢献」は、「事業経営者としてのロータリアンの務め」や「業界人としてのロータリアンの務め」と同様、職業人としてのロータリアンなら、当然の奉仕（務め）であることに変わりはない。（**職業人としてのロータリアンの務め**）”

というように、理解すればよいのではないでしょうか。

**My Rotary では、「職業奉仕」はどのように説明されてきたか？**

My Rotary の「奉仕部門」には、職業奉仕についての説明が記されています。以前は

**“職業奉仕とは、ロータリアンが「各々の職業を通じて他の人々に奉仕すること」、そして「高い道徳的水準を保つこと」を奨励するものである。”**

（Vocational Service encourages Rotarians to serve others through their professions and to practice high ethical standards.）

と記され、まさに「自分の職業に関連したあらゆる分野において、奉仕の理念を実践すること」であり、要するに「職業人としてのロータリアンの務め」でした。

現在は、上記に「職業を活かした社会貢献」を追加した内容になっています。すなわち

**“職業奉仕は、すべてのロータリアンが倫理と高潔さをもって仕事にあたり、職業の知識やスキルを社会のニーズ解決のために進んで役立てることです。”**

（Vocational Service calls on every Rotarian to work with integrity and contribute their expertise to the problems and needs of society.）

この内容にしても、やはり、「職業人としてのロータリアンの務め」と言ってよいでしょう。

## ● 21 世紀の「クラブの職業奉仕委員会の任務と具体的活動」

### ① クラブの「職業奉仕委員会」の任務

2007年の『推奨ロータリークラブ細則』以降、職業奉仕委員会の“任務”に関する記載はありません。記載がなくなった理由は分かりませんが、1931 年～2004 年の『推奨ロータリークラブ細則』に記載されていた「職業奉仕委員会の任務」と同じと考えてよいでしょう。（→ P51 参照）

### ② クラブの「職業奉仕委員会」の具体的活動（プログラム）

これについては、2016 年の『標準ロータリークラブ定款』で

**「職業上の手腕を活かした社会貢献に相応しいプロジェクト事業を開発して実施すること」**

が、従来の“具体的活動（プログラム）”に追加されたという理解でよいでしょう。（→ P52 参照）

現在、世界的には、この追加内容がクラブの職業奉仕委員会の主たる“具体的活動”になっています。

**20 世紀も 21 世紀も、「職業奉仕 ＝ 職業人としてのロータリアンの務め」【まとめ】**

**● 20 世紀（正確には 1927 年～1987 年）の「職業奉仕」**

職業奉仕 ＝「事業経営者としてのロータリアンの務め」
＋「業界人としてのロータリアンの務め」
＝ 自分の職業に関連したあらゆる分野において、奉仕の理念を実践すること
＝ 職業人としてのロータリアンの務め

『職業奉仕に関する声明』が出された 1987 年以降は、上記の職業奉仕の内容に、

**職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てる奉仕（職業を活かした社会貢献）**

が追加されました。この考え方が定着してきた 21 世紀の職業奉仕をまとめると、以下の通りです。

**● 21 世紀（正確には、1987 年～現在）の「職業奉仕」**

職業奉仕 ＝「事業経営者としてのロータリアンの務め」
＋「業界人としてのロータリアンの務め」＋「職業を活かした社会貢献」
＝ 自分の職業に関連したあらゆる分野において、奉仕の理念を実践すること
＝ 職業人としてのロータリアンの務め

留意して欲しいのは、「職業を活かした社会貢献」が新たに追加されたものの、職業奉仕は、「職業人としてのロータリアンの務め」であることに変わりはないということです。

## 参考８：職業奉仕の森（職業人としてのロータリアンの務め）

「職業奉仕は難しい」という言葉をよく耳にします。理由は色々あるとは思いますが、大きな理由の一つは、ロータリーの大先輩達による職業奉仕の説明が、人によってかなり異なるからではないでしょうか？

例えば、職業奉仕は「職業倫理そのものだ」と主張する人もいれば、「職業を通じて社会に貢献することだ」、「Arthur Frederick Sheldon の考えそのものだ」、「天職（Vocation）として高潔な仕事をすることだ」などを主張する人もいます。さらに、四つのテスト、道徳律（職業倫理訓）、大連宣言などを説く人もいれば、現在の職業奉仕の公式定義である『標準ロータリークラブ定款（第６条の２）』を語る人もいます。

これでは、説明を聞いている人 が混乱するのは当然です。そうしたロータリーの大先輩達に共通する特徴は、「職業奉仕は一本の大木」であるかのような説明ではないでしょうか。しかし、私としては

**“職業奉仕は一本の大木ではない。むしろ、職業奉仕は森である。”**

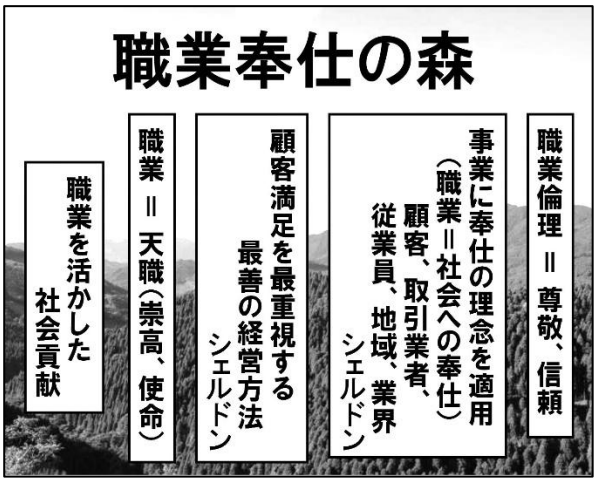
と言いたいのです。

森は、高い所、低い所、陽のあたる所、陽があたりにくい所など、各々の場所で生えている木々は違いますし、また互いに影響し合って生えています。しかし、それら全体で森なのです。ですから、例えば高い所に生えている木々だけを説明しても、その森の全てを語ったことにはなりません。それと同様に、

“職業奉仕に対する考え方は、歴史上、間違いなく幾つもある。すなわち、
職業奉仕という森には、異なる様々な木々が生い茂り、互いに影響し合って育っている。
だから、それらの木々全部を対象にして、はじめて職業奉仕が理解できるようになる。”

と思うのです。

では、「職業奉仕の森」にはどのような木々が生い茂っているのでしょう？ 私は、以下に示したように、職業奉仕の森は５つの木々群（そのうちの２つは ＡＦ Sheldon の奉仕理念）からできていると思います。もちろん、最後に（1987 年以降）生い茂ってきたのが、「職業を活かした社会貢献」の木々群です。




- **職業倫理 ＝ 尊敬、信頼**
  - **＊職業倫理の高揚が尊敬と信頼を生み、事業は発展する**
- **ＡＦ Sheldon の奉仕理念**
  - **＊事業に奉仕の理念を適用（職業 ＝ 社会への奉仕）**
    顧客、取引業者、従業員、地域、業界への貢献
  - **＊顧客満足を最重視する最善の経営方法**
    顧客のニーズを最高に良く汲み取り、それを最高の形で満たすことにより、事業は発展する
- **職業 ＝ 天職（尊重すべき高潔で崇高な使命）**
- **職業を活かした社会貢献**
  - **＊自己の職業上の知識や技術を活かした社会貢献**

例えば、1931 年の『The Aims and Objects Plan（Pamphlet No.３）』に記された「職務や商取引上の倫理高揚、顧客や取引業者への配慮、従業員の幸福、事業の繁栄、業界と社会の発展」などの内容も、また、現在の職業奉仕の公式定義である『標準ロータリークラブ定款（第６条の２）』(2016 年) の内容も、上記の木々群のいずれかに相当すると言ってよいでしょう。

もちろん、この職業奉仕の森に名前をつけるとすれば、「職業人としてのロータリアンの務め」です。

**職業奉仕 ＝「事業経営者としてのロータリアンの務め」＋「業界人としてのロータリアンの務め」**
**＋「職業を活かした社会貢献」**
**＝ 自分の職業に関連したあらゆる分野において、奉仕の理念を実践すること**
**＝ 職業人としてのロータリアンの務め ＝ 職業奉仕の森**（→ P53 参照）

## 【3】「会員増強」と Guy Gundaker ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

**● 21 世紀に入ってから、入会後数年で退会する会員が多い世界のロータリー**

20 世紀後半、世界のロータリー会員数は右肩上がりで増え続けました。ところが、21 世紀に入る頃から今日に至るまで、会員数はずっと 120 万人程度で推移しています。しかし、実際には 21 世紀に入ってからの 20 年余りで、ロータリーには数百万人が入会し、同じく数百万人が退会しているのです。毎年の退会者の内訳は、入会２年以内の会員が約 30%、入会５年以内の会員が約 70%です。

例えば 2019 年７月～2020 年６月末までの１年間で、全世界のロータリー入会者は約 14 万４千人、退会者は約 17 万４千人でした。その退会者のうち入会２年以内の会員は約５万人（退会者の約 30%）で、入会５年以内の会員が約 11 万８千人（退会者の約 70%）だったのです。

要するに、ロータリーに入会しても、数年以内に退会する会員がとても多いのです。恐らく、ロータリーに魅力や価値を見出せず、期待が失望に変わって退会していく会員も少なくないのでしょう。こうした現実は、ロータリークラブの奉仕活動が足らないからでしょうか？　それとも、ロータリーの公共イメージが不十分だからでしょうか？　私は、そうではないと思います。

現在のロータリークラブ入会資格は、簡潔に言えば、

**「職業人や社会人のリーダーで、周囲からの評判も良く、奉仕する意欲がある成人」**（→ P6参照）

です。この入会資格に加えて、最近のＲＩが提唱している

**「多様性で元気なクラブを！」**（→ P27 参照）

というスローガンも考慮する必要があります。具体的には、

「地域社会の多様な人たちが入会することで、クラブに新鮮な視点とアイデアがもたらされ、クラブの存在感が高まっていく」

という内容です。すなわち、様々な背景を持つ人たちにロータリーを体験してもらうことを、ＲＩは推奨しているのです。もちろん、私も賛成です。

では、このスローガンに相応しい、そして上記の入会資格を満たす人たちが、入会後数年以内に退会していかないようにするにはどうすればよいでしょう。要するに、入会後も会員であり続けるための条件です。

### 1）ロータリークラブへの入会勧誘の際に留意すべきこと

ロータリークラブへの入会勧誘で最も大切なのは、地域社会の多様な会員候補者が、

**「入会後、ロータリーの魅力と価値に共感し、ロータリアンとしての熱意を持ち続ける人物」**

であるかどうかを見極めることでしょう。もちろん、日頃の言動や交友関係、性格や好み、価値観など、会員候補者をよく知るロータリアンからの意見を十分に聞き、総合的に判断しなければなりません。いずれにしても、ロータリアンに相応しい高潔な人物を勧誘することです。（→ P27 参照）

但し、その際に留意すべきことがあります。ロータリーは“親睦、学び、成長の場”ですから、

**「ロータリーに入会後、国際ロータリーが推奨する奉仕プロジェクトに寄付や参加をしていれば、それだけで素晴らしい真のロータリアンになれる」**

というような誤解を招く勧誘だけは、決してしてはならないということです。

なぜなら、せっかくロータリーに入会しても、上記のような誤解を招く勧誘であったことに気づけば、遅かれ早かれ退会していくからです。しかも、ロータリーに魅力や価値を感じることができず、失望して退会していった場合、ロータリーを決して良くは言ってくれません。結局、ロータリーは公共イメージが低下し、弱体化を招くことにも繋がります。なにより、既存会員の士気や意欲を落とすことにもなるのです。

## 2）ロータリークラブが普段から留意すべきこと

私が所属する寒河江ＲＣや地区内外の多数の友人ロータリアンを考えてみると、ロータリークラブで実際に10年以上に亘って会員であり続けている有能なロータリアンの共通点は、次の４つです。

**① 人格が高潔で、社交性がある人物**
**② 事業や業界の向上、地域や社会の発展に意欲的に貢献し、それらに喜びと誇りを感じている人物**
**③ ロータリアンとして成長するという自覚を持ち、その修養に励んでいる人物（Grow Rotarians）**
**④ ロータリーの時間や世界を楽しんでいる人物（Enjoy Rotary）**

上記の①②は、現在のロータリークラブ入会資格（← P6参照）と共通しています。したがって、③の「Grow Rotarians」および④の「Enjoy Rotary」の両方に魅力や価値を感じるような人物こそ、ロータリーを退会することなく、“素晴らしい真のロータリアン”に成長していくのではないでしょうか。

しかし、せっかく上記①～④を満たす人物がロータリークラブに入会しても、肝腎のクラブ自体に魅力や価値がなければ、間違いなく退会していくでしょう。それだけに、クラブ会長の覚悟と情熱とリーダーシップのもと、充実したクラブ奉仕が行われ、魅力的で価値ある例会が開催されていることが絶対に必要です。（→ P13, 22, 29, 37, 47-49 参照）

また、様々な背景を持つ会員同士の親睦を確かなものにし、活気あるクラブを目指すためには、ＤＥＩ（Diversity, Equity, Inclusion：多様性、公平性、包摂性）も効果的な手法です。そのためには、ロータリーの創始者 Paul Percy Harris が 100 年以上前に強調し、これまでロータリーが大切にしてきた Toleration（寛容、尊重、受容、我慢）の精神が、クラブの文化でなくてはなりません。（→ P49 参照）

さらに、クラブ会員の誰もが

**「ロータリーとは何か？　ロータリーの魅力や価値とは何か？　なぜ会員増強が必要か？」**

について理解し、自信を持って語れるクラブであることも重要です。

だからこそ、例会での会長挨拶、会員スピーチ、クラブ・フォーラムが大切なのです。実際、そういうクラブであれば、親睦と学びに満ちた交流が深まるし、“素晴らしい真のロータリアン”が育ちます。もちろん、多様な分野から勧誘された「仲間（新入会員）」を温かく迎えるでしょう。要するに、クラブの一体感と居心地の良さも大切なのです。（→ P43-44 参照）

そういう意味では、例会欠席が多い会員やロータリーを十分に理解できていない入会後数年以内の会員に対して、会長（または会長エレクト）は、適宜、懇談の場を設けることも必要です。（→ P30 参照）

**会員増強【まとめ】**

クラブ運営を担う会長の覚悟と情熱とリーダーシップのもと、

＊多様な分野から、ロータリアンに相応しい高潔な人物を勧誘すること。
＊充実したクラブ奉仕が行われ、魅力的で価値ある例会が開催されていること。
- クラブ会員が、例会出席、自分磨き、仲間磨き、クラブ磨きに励み、親睦と高潔と寛容に満ちた積極的な行動をしていること。（Grow Rotarians）
- 親睦、学び、成長、奉仕を主体とした魅力的で価値あるクラブ運営が行われ、「来てよかった」と会員の誰もが思う例会が常に開催されていること。（Enjoy Rotary）
- クラブにＤＥＩ（Diversity, Equity, Inclusion：多様性、公平性、包摂性）を大切にする Toleration（寛容、尊重、受容、我慢）の文化があること。

＊クラブ会員の誰もが、ロータリーの魅力や価値、会員増強の必要性を語れること。
＊クラブに一体感と居心地の良さが十分にあること。
＊例会欠席が多い会員や入会後数年以内の会員に対しては、適宜、懇談の場を設けること。

## 【4】「現代のロータリー」と Guy Gundaker ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

さて、ここまで本解説書を読んでくださった方々にお尋ねします。

**「今から 100 年以上前の『A Talking Knowledge of Rotary』に記された**
**“Guy Gundaker のロータリー観”は、果たして時代遅れで役に立たない内容だったでしょうか ？」**

私はむしろ、ロータリーに脈々と受け継がれてきた、今でも燦然と輝く価値ある内容ばかりだと思います。

例えば、前述したように、

● 我々ロータリアンが実現達成を目指す『ロータリーの目的』は、
“Guy Gundaker のロータリー観”と共通した内容と言ってよいでしょう。（← P45-46 参照）

● Guy Gundaker が述べた「ロータリークラブの責務」と「ロータリアンの義務」の内容は、
現在のクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕の骨格であると言ってよいでしょう。（← P25-42 参照）

● 現代のロータリーで強調される
「中核的価値観：親睦、高潔性、多様性、奉仕、 リーダーシップ」
にしても、どれも既に Guy Gundaker が強調していたことです。

● ロータリーのビジョン声明
“私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の 中で、持続可能な良い
変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。”
は、「世界の発展、地域の発展、自己の向上、友愛」の４つに要約できますが、これらにしても
“Guy Gundaker のロータリー観”と何ら矛盾するところはありません。

● 1949 年以降、国際協議会の会場入口に掲げられてきたスローガン
「ENTER TO LEARN　GO FORTH TO SERVE」
（入りて学び、出でて奉仕せよ）」
は、2014 年から

「JOIN LEADERS　EXCHANGE IDEAS　TAKE ACTION」
（リーダーたちが集い、アイデアを出し合い、行動しよう）
に変わっていますが、どちらも“Guy Gundaker のロータリー観”と一致する内容です。

要するに、
**現代のロータリーでも、“Guy Gundaker のロータリー観”の価値は高く評価されるべきである**
ということです。

なお、“Guy Gundaker のロータリー観”であっても、現在のロータリーの組織規定やスローガンには明確に言及されていないものとして、

① ロータリークラブは、魅力的で価値ある例会を開催する責務がある。
② ロータリアンは、ロータリーから各々の業界に送られた代表者（大使）である。
③ ロータリーの全ての奉仕は、ロータリークラブとロータリアンの務め（使命）である。
④ ロータリアンの利益とは、会員自身の成長、そして豊かな人生がもたらされることである。
⑤ ロータリーの究極の目的とは、“素晴らしい真のロータリアン”を育て、支援し、増やすことである。

の５つを挙げることができるでしょう。

しかし、私個人としては、どれも 21 世紀のロータリーにおいても大切にしていくべき考え方だと思っています。特に、①④⑤は大いに強調するべき内容ではないでしょうか。

一方、最近のＲＩが重要視しているものは、

**１．公共イメージの向上**
**２．ポリオ根絶**
**３．ロータリー財団の奉仕プロジェクト**
**４．会員増強とクラブ拡大**
**５．世界平和**

の５つと言ってよいでしょう。まさに、ＲＩは

**「Grow Rotary」**

を目指しているのです。

では、ロータリーが上記の５項目を実現達成していくためには、どうすればよいでしょう？
私自身は、クラブ会員の「エンゲージメント」を育てることが何よりも大切だと思います。（→ P49 参照）
そのためには、クラブ奉仕の正しい理解と実践が必要です。その上で、

- **「Grow Rotarians」と「Enjoy Rotary」に満ちたクラブ**（→ P56 参照）
- **「ロータリーの魅力と価値」に溢れたクラブ**（→ P22 参照）

の２つを、ロータリークラブの骨格とすることです。なぜなら、この２つの骨格が強固で確実であれば、クラブ会員の「エンゲージメント」は高まり、必ず「Grow Rotary」に繋がるからです。

ロータリーの変革が叫ばれる今、食事を伴わない例会、オンライン例会、奉仕中心のクラブ、法人クラブなど、多様なクラブ運営が可能となりました。もちろん望ましいことですが、そうしたクラブあっても、上記の２つの骨格が脆弱なら、会員のモチベーションはやがて衰退し、「Grow Rotary」には繋がらないでしょう。

なお、上記２つの骨格に必要な具体的方策については、以下の内容を参照してください。

- ●ロータリークラブの責務【まとめ】（→ P36 参照）
- ●ロータリアンの義務【まとめ】（→ P42 参照）
- ●クラブの一体感と居心地の良さ【まとめ】（→ P44 参照）
- ●会員増強【まとめ】（→ P56 参照）

これらの内容を十分に満たすロータリークラブなら、

**「ロータリークラブ入会後も退会せず、“素晴らしい真のロータリアン”に成長する会員」**（→ P49, 56 参照）

が増えていくでしょう。Guy Gundaker の言葉通り、“素晴らしい真のロータリアン”が増えれば、世の中は良くなっていくはずです。そうすれば、ＲＩが重要視する上記「Grow Rotary」の５項目も、自然と実現達成に近づいていくのではないでしょうか。

私たちロータリアンは、そのようなロータリークラブとなるように努力すべきであり、そのようなロータリークラブを奨励することにこそ、ＲＩは力を注ぐべきだと思います。

以上をまとめると、

**21 世紀の「Grow Rotary」のためにも、“Guy Gundaker のロータリー観”は大切である。**
**そのためのキーワードは、**

- **「Grow Rotarians」と「Enjoy Rotary」**
- **「ロータリーの魅力と価値」**

まさに、古くて新しい“Guy Gundaker のロータリー観”ですね。

**私は、Guy Gundaker が大好きです。**
**そして、ロータリーが大好きです。**

# 7．What is Rotary？

ここでは、ロータリーの定義について考えていきます。個人的には、先ず、以下の２つの歴史的文章を挙げておきたいと思います。

**● ロータリーの定義（1）**

① ロータリーの根本は、利己と利他の心を上手く調和させる「超我の奉仕」という人生哲学である。それは、実生活上、実に道理にかなった「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉を実践の原理・原則とした人生哲学である。　（1923年：決議23-34 の１）＜一部改編／要約＞）

② ロータリーは、人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した、事業および専門職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体である。

（1976年ＲＩ理事会決定）

私自身は、上記の２つを、

**① は、ロータリー情報としての「会員向けの説明」**

**② は、ロータリー広報としての「一般人向けの説明」**

というように使い分けながら話してきました。

しかし、“Guy Gundakerのロータリー観”の素晴らしさを知った皆さんにとっては、上記の①②では、ロータリーの定義としては物足りないのではないでしょうか。なぜなら、Guy Gundaker が重要視していた『ロータリーの基盤（The Base of Rotary）』である「親睦と学び」が記されていないからです。（→ P9参照）

ちなみに、Guy Gundaker が考える「ロータリーの姿」は、以下のような内容です。私自身は、これこそが「ロータリーの本質（不変の価値）」であると考えています。

**● Guy Gundaker が考える「ロータリーの姿」（＝ ロータリーの本質）**

ロータリーとは、

ロータリークラブにおいては**「親睦と学びの場」**であり、

ロータリアンにおいては**「人間性の向上」**をもたらすものであり、

仕事においては**「事業の発展向上」**に繋がるものであり、

世間においては**「世の中を良くしていく向上運動」**であり、

究極の目的は**「素晴らしい真のロータリアン」**を育て、支援し、増やすことである。

言うまでもなく、現代のロータリーは、Guy Gundaker の時代よりも多様な側面を持っています。それだけに Guy Gundaker が生きていれば、彼は現代のロータリーを次のように説明するのではないでしょうか。

**● ロータリーの定義（2）**

ロータリーは、事業、専門職務、地域社会の多様なリーダーらによって構成され、高潔、寛容、親睦、学び、個人の資質向上に努め、クラブ、事業、業界の向上発展に精進し、家庭、仲間、職場、地域、世界の人々の幸福に寄与しながら、「奉仕の心と実践」に満ちた“素晴らしい真のロータリアン”を育て、支援し、増やしていく世界的な団体である。

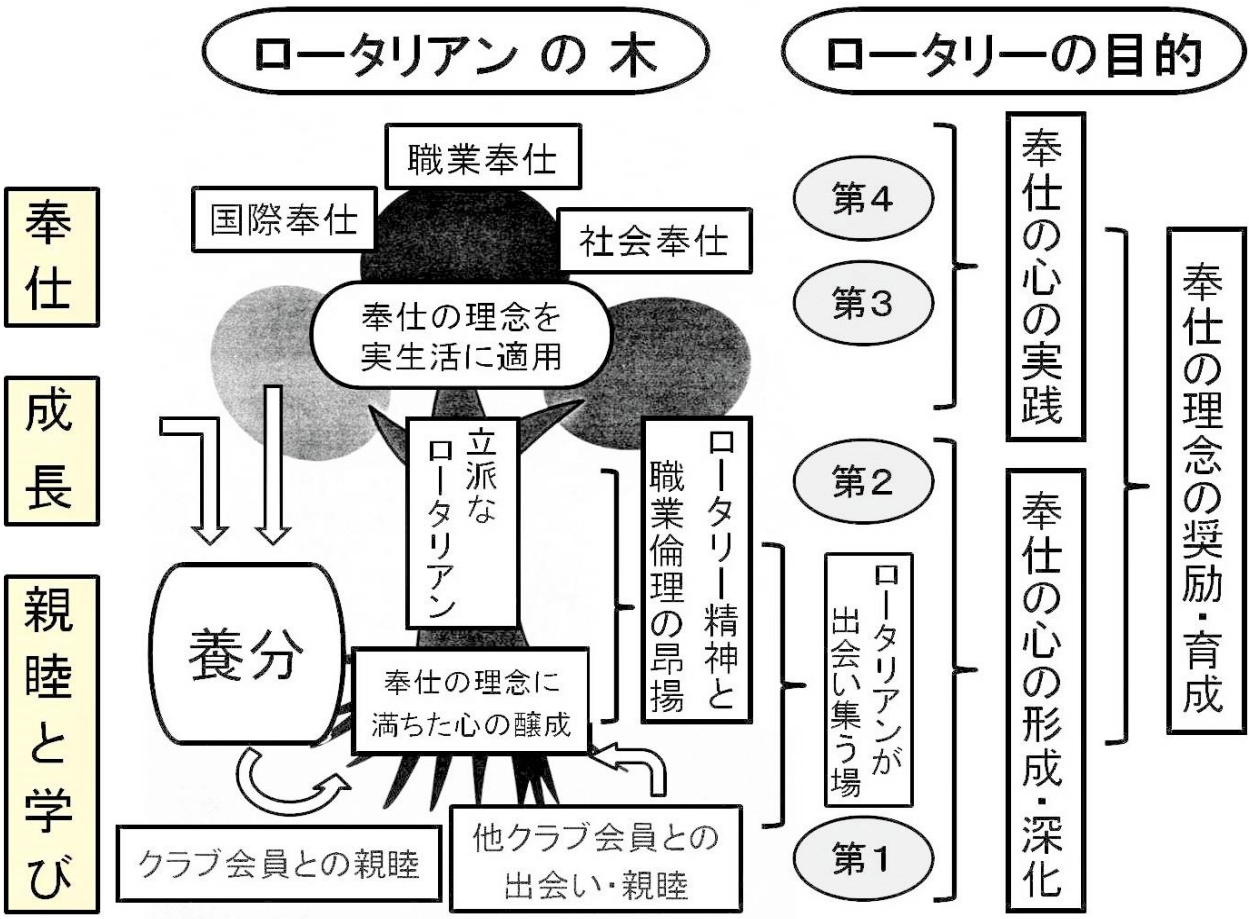
（Guy Gundaker のロータリー観を元に、最近のＲＩの方針も加味して私が作成した文書）

個人的には上記で完璧だと思っていますが、文が長過ぎて覚えてもらえないでしょう。そこで、
次のような「最も簡潔なロータリーの定義」を皆様に提案します。もちろん、私自身が「What is Rotary ?」と質問されたら、この「最も簡潔なロータリーの定義」を回答します。

**●（最も簡潔な）ロータリーの定義（3）**

ロータリーは、選ばれた多様なリーダーが集い、
① 親睦と学びを基盤に、 【親睦と学び】
② 立派なロータリアンを育てながら、 【成長】
③ 価値ある奉仕を通じて、 【奉仕】
社会に貢献する世界的な団体である。

以下に、上記の内容を「ロータリーの目的」と対比しながら「ロータリアンの木」として図式化します。
これは、“Guy Gundaker の ロータリー観”の 図式化でもあります。




**＊20 世紀初めから 100 年以上に亘ってロータリーが発展（Grow Rotary）してきた最大の理由は、**
**「Grow Rotarians」と「Enjoy Rotary」によって生み出される「ロータリーの魅力と価値」である。**
**＊クラブ会員は、素晴らしい真のロータリアンを目指そう！（Grow Rotarian）**
**＊クラブ会長は、「今日も来てよかったロータリー」を準備しよう！（Enjoy Rotary）**
素晴らしい真のロータリアン”を育て、支援し、増やしていけば、ロータリーは発展し、
世の中は良くなるのです。
21 世紀を生きる我々ロータリアンも、これらを忘れることなく、継承していかなくてはなりません。

最後に、本解説書で説明してきた「What is Rotary ?」について、項目毎にまとめておきます。

# ロータリー

ロータリーは、選ばれた多様なリーダーが集い、
① 親睦と学びを基盤に、 【親睦と学び】
② 立派なロータリアンを育てながら、 【成長】
③ 価値ある奉仕を通じて、 【奉仕】
社会に貢献する世界的な団体である。

## 目的

- 奉仕の心の醸成と実践に邁進する“素晴らしい真のロータリアン”を育て、支援し、増やすこと
- 自分自身、家庭、クラブ、事業、業界、地域、そして社会全体の向上発展

## 特典（ロータリーの魅力と価値：今日も来てよかったロータリー）

- 素晴らしい人との出会い
- 純粋で心豊かな親睦（信頼と敬愛と志に満ちた仲間同士の学びと交流）
- 職業上の価値ある啓発と発展
- 奉仕の心の醸成と高揚、奉仕の実践、社会の発展
- 感動、成功、飛躍、称賛の機会
- 安心、安息、自己肯定感の場（クラブの一体感と居心地の良さ）
- 人間性の向上（修養、成長、誇り）

## 義務

- クラブ会員としてのロータリアンの務め
  ＊一般会員：例会出席、自分磨き、仲間磨き、クラブ磨き（親睦、学び、成長、奉仕）
  ＊クラブ・リーダー：魅力的で価値あるクラブ運営（会員の誰もが“今日も来てよかった”）
- 職業人としてのロータリアンの務め
- 地域住民としてのロータリアンの務め
- 求められれば応じ、役割を果たすべし（ロータリアンは、“イエス、はい、喜んで”）
- 素晴らしい真のロータリアンたるべし（高潔、寛容、親睦、学び、成長、奉仕）

## ロータリアンのモットー

- Grow Rotarians !
- Enjoy Rotary !
- Grow Rotary !

～『A Talking Knowledge of Rotary』の原著巻末に掲載されている
「ロータリークラブ」の核心内容を、私の言葉で現代流に言い換えたもの～

# 附 記

（第 2800 地区ホームページ日本語ＰＤＦ版のみ掲載）

附記１；ロータリーのクラブ運営（心得と役割）

① 役員と理事
② 委員会
③ クラブ会長
④ クラブ幹事

附記２：ロータリーのクラブ運営（寒河江ＲＣでの実践）

**クラブの会長と幹事の心得**

やってみせ　言って聞かせて　させてみせ　褒めてやらねば人は動かじ。
話し合い　耳を傾け　承認し　任せてやらねば人は育たず。
やっている　姿を感謝で見守って　信頼せねば　人は実らず。

**～山本五十六の言葉～**

# 附記１ ロータリーのクラブ運営（心得と役割）

ロータリアンからしばしば質問されることの一つに、

**“ロータリーでは、なぜ「役員（officer）」と「理事（director）」の区別があるのですか？”**

というのがあります。

こういう質問があるのは、日本のロータリークラブでは、役員が集まってクラブ運営について検討する「役員会（役員ミーティング）」が軽視されているからではないでしょうか。

確かに、ロータリー章典、国際ロータリー定款細則、標準クラブ定款、推奨クラブ細則のどれを読んでも、「理事会」についての記載はありますが、「役員会」については記載がありません。しかし、Guy Gundaker の主張する「魅力的で価値あるクラブ運営」を実現するには、役員が集まって検討するための「役員会（役員ミーティング）」は必要なのです。

ここでは、『A Talking Knowledge of Rotary』には書かれていませんが、「魅力的で価値あるクラブ運営」を実現するために必要な知識と方法について、私見を交えながら述べさせていただきます。

## ① 役員と理事 〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ロータリークラブにおける「役員」とは、クラブ運営の指導的役割を担うクラブ・リーダーです。一方、「理事」はクラブ運営について話し合い、その議決（多数決）に参加する人のことです。いずれも、クラブ細則で定められた選挙によって選ばれます。

理事会は「理事会メンバーとして規定された役員」と「（役員ではない）理事」によって構成され、その両者ともに理事会の議決に参加します。「理事会メンバーとして規定された役員」は理事ではありませんが、理事会に参加する以上、理事の任務も兼ねているということです。

理事会の構成には「会長、直前会長、会長エレクト、幹事、会計」の最低５人の役員が必要で、これが本来の「理事会メンバーとして規定された役員」です。

クラブ役員には、この５人以外に会場監督（ＳＡＡ）も必要で、細則で定めれば理事会メンバーとすることもできます。また、細則で副会長を役員とすることもできますが、その場合は自動的に理事会メンバーとなります。なお、副会長を（役員ではない）理事にすることも可能ですし、副会長という役職を設けないことも可能です。

会員数が多いクラブでは、クラブ細則で「副会長は役員」、「会場監督は理事会メンバー」と定めていることが一般的のようです。その場合、「会長、直前会長、会長エレクト、幹事、会計」および「副会長、会場監督」の合計７人が「理事会メンバーとして規定された役員」になります。

（役員ではない）理事の人数は細則で定めますが、理事を置かないことも可能です。会員数の少ないクラブでは、「理事会メンバーとして規定された役員（最低５名）」だけで理事会を構成してもよいのです。

なお、理事はクラブ管理運営委員長、公共イメージ委員長、財団委員長、奉仕プロジェクト委員長などの役職を兼務する場合が多いようです。もちろん、役職を兼務しなくても構いません。

いずれにしても、役員はクラブ運営の指導的役割を担うクラブ・リーダーです。それだけに、理事会とは別に、役員だけが集まって検討し合う「役員会」（役員ミーティング）も必要となるのです。役員会には会長と幹事の参加は必須で、他の役員（特に直前会長と会長エレクト）も毎回参加すべきでしょう。

「役員会」は、クラブの執行機関です。したがって、「理事会」に諮る議案（各委員会の活動計画、予算、決算、新たな提案など）を事前に検討することが大きな役割です。

そして、それらの議案を役員会でまとめ、必要な資料と一緒に理事会へ提出するのが幹事の仕事です。言い換えれば、役員会の中心的役割を担うのは（会長ではなく）幹事なのです。日本のロータリーでは、こうしたプロセスが軽視されているような気がします。

一方、理事会はクラブの決議機関（意思決定機関）で、クラブ運営に関する全ての管理責任を担います。だからこそ、「理事会メンバーとして規定された役員」がいて、議決にも参加するのです。なお、理事会の決議は多数決なので、理事会の議長である会長といえども、決議に拘束されます。

理事会は、役員会から提出された議案を検討した上で、決議（承認・不承認・各種決定）を行います。理事は、各々が担当する委員会によって審議に臨む心構えや立場は異なりますが、理事会では活発に議論をしてください。そうした心がけや切磋琢磨が、ロータリーに対する見識を深め合うことに繋がるからです。

年度開始前（特にＰＥＬＳ終了直後）の役員会と理事会は、例会プログラムの「年間スケジュール」を計画する上で極めて重要です。クラブ会長は、前例踏襲ではない、自分の年度に相応しい「親睦、学び、成長、奉仕を主体とした例会」を目指しましょう。（→ P26,29-36 参照）

例会プログラムを実施するにあたっては、当該例会の前々月および前月の役員会と理事会も大切です。プログラムの詳細な準備（予算、役割分担など）について審議し、決定しなくてはなりません。（→ P26 参照）

また、役員会や理事会では、クラブの問題点や改善策について話し合うことも忘れないでください。特に、例会に欠席者が多くなってきたら、その理由を検討することは必要です。（→ P28,30 参照）

「魅力的で価値あるクラブ運営」ができるかどうかは、会長や幹事をはじめとした理事会メンバーの覚悟、情熱、リーダーシップ、そして、ロータリーに対する認識の深さにかかっていると言ってもよいでしょう。

## ② 委員会 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

委員会は、会長の諮問機関であると同時に事業の実施主体です。会長の諮問により、クラブの目標と指針に沿った事業計画を策定し、予算を立て、その上で実施します。もちろん、会長の意向に基づく内容であるべきですが、それらの承認や決定には理事会の議決が必要です。

委員会の活動は、委員間の意志の疎通を図り、交友を深め合うという点でも重要です。少人数の会合の中、ロータリー情報や互いの意見が盛んに交わされることで親睦が深まり、信頼や敬愛の念も高まっていくのです。

それだけに、会合は会員宅での開催（炉辺会）が推奨されます。そうすれば、親睦の度合いも一層深まり、ロータリアンの家族にロータリーを理解してもらう最高のチャンスともなるからです。この点は、欧米のロータリーを大いに見習うべきでしょう。

また、入会数年の会員に委員長を任せ、副委員長に面倒見の良いベテラン会員をあてるなど、リーダー育成にも配慮しましょう。それらを主導するのが会長であり、陰で支えるのが幹事です。

「楽しくなければ、ロータリーではない」とよく言いますが、楽しいだけではなく、楽しさの中で互いに学び合うという心が大切です。なぜなら、それこそが「ロータリーの親睦」だからです。（← P9 参照）

## ③ クラブ会長 〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

会長は、クラブにおいても、また地域社会に対しても、クラブを代表する象徴的な存在であり、「ロータリーの奉仕理念」の提唱を常に心掛け、その実践にあたっては率先して先頭を担う立場です。

クラブ活動にあたっては、会長は幹事とともに、「クラブの活動目的（ロータリーの目的の推進・達成）」を常に自覚しつつ、システム化されたクラブ組織を適切に運営することが重要です。

それだけに、例会、役員会、理事会、委員会などの準備と運営、事業の計画と進め方などについて、会長は明確な方針と戦略を持っていなくてはなりません。その上で、深謀遠慮と反省を常に繰り返しながら、より良きものにしていく努力が必要です。言うまでもなく、これらの会合では、会長は強力なリーダーシップを発揮する責任があることを忘れてはなりません。（→ P25-26 参照）

もちろん、クラブ協議会、炉辺会、クラブ・フォーラムをはじめ、ロータリーの伝統的な行事や習慣についても、幹事とともに書物を通して、そして諸先輩との交流を通して、理解・精通に心がけてください。

最近、例会の形骸化という言葉をしばしば耳にしますが、それはクラブの低迷を意味します。それだけに、会長にとって最も大きな仕事は、会員の誰もが「今日も来てよかった」と思ってくれる例会であることを、特に強調しておきたいと思います。

クラブの会員は、誰もが仕事で忙しい中、仕事をやりくりして例会に出席します。それは、食事のためではなく、例会に身を置きたいと思う『何か』があるからです。だからこそ会長には、その『何か』について、きちんと提供しているという認識と自負を持って欲しいのです。

その『何か』とは、クラブの一体感と居心地の良さ、そして充実した親睦や学びの時間でしょう。言い換えれば、魅力的で価値ある例会です。具体的には、好ましい「例会の雰囲気、会員同士の交流、例会プログラム」であり、心が洗われる「会長挨拶（会長スピーチ）」です。（← P43-44 参照）

「会長挨拶（会長スピーチ）」は、会長が唯一の実行者で、かつ唯一の責任者です。しかも、会員の士気を高めるためにも、会長に対する信頼と敬愛の念を会員の心に醸成していくためにも、そしてクラブの活性化をもたらすためにも、会長にとって“最大の武器”と言ってよいでしょう。

それだけに、「伝えた（話した）」ではなく、「伝わった（理解させ、感動させた）」という結果が重要です。内容のテーマや組み立て、話すスピード（１分 300 字を推奨）、抑揚、間、表情、ジェスチャーなどにも気を配り、毎回、心が洗われる「会長挨拶（会長スピーチ）」をお願いします。（← P31 参照）

例会の帰り際、「今日の会長スピーチ、よかったよ」と言ってくれる者が多ければ、会員の誰もが「今日も来てよかった」と思った例会のはず。もちろん、クラブの低迷など有り得ません。

会長の責任は、とても大きいのです。Gundaker は、

**「クラブ会員の成長を通してロータリーの目的を実現すること、そして**
**クラブレベルを国際的水準に保つことは、クラブ会長の双肩にかかっている」**

と強調していることを忘れないでください。（← P25 参照）

ロータリーのクラブ会長を会員からの大絶賛で終えることができれば、人生最高の“自分磨きの１年”だったと言えるのではないでしょうか。

## ④ クラブ幹事 〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

幹事はクラブ運営における執行面の代表役員（中心的役割を担う役員）です。役員会や理事会、例会、その他の諸活動が「ロータリーの目的」、「クラブ定款細則」など、ロータリーのルールに沿って正しく行われているかどうかを見定め、かつ適切な指導と運営に心がける最高責任者という立場です。

幹事は、理事会で事業の実施が決議されたからと言って、事業の実施を担当委員会に丸投げしてはいけません。それらの事業計画を検討・実施する担当委員会の活動状況を把握するとともに、その活動内容を理事会に報告する（または、指導・監督した上で報告させる）ことも幹事の役割・責任です。

各委員会の事業の収支予算案や決算書の作成・提出についても、幹事は事前確認して指導するべきです。また、（現時点では、役員を選挙するための「年次総会」で）現年度の中間財務報告、および前年度の収支財務報告も必要なので、この点にも留意してください。

例会では、幹事はＳＡＡや親睦委員と協力して、会員や来訪者への対応、食事の準備にも気を配ることが必要です。例会開始前の会場では、新入会員や来訪者も含めて、会員同士の懇談が交わされるなど、ゆったりとした和やかな雰囲気作りを心がけましょう。

また、例会の進行、例会プログラム、会長スピーチなどが不評な場合には、そうした会員からの不満の声を会長に意見・具申することも、幹事の重要な仕事です。

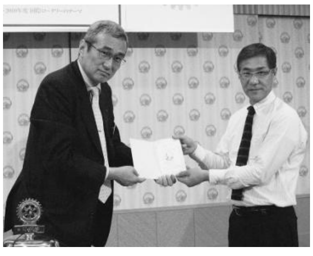
さらに、例会出欠や会報発行の管理、会費の督促、欠席が多い会員やルールを守らない会員への指導、活動の鈍い委員会への奮励喚起など、幹事は汚れ役、嫌われ役をこなさなくてはなりません。

以上のことを熟知した上で、幹事は役員会での責務、理事会の準備、理事や各委員長、会員への指導や気配りなどをこなしてゆくことが大切です。

幹事は、クラブ内、地区、ＲＩなどに対する事務的な処理をするのが仕事の大部分と思われがちですが、それらは幹事という立場上、当然付随する仕事の一部に過ぎません。大切な仕事は、あくまで丁寧で確実なクラブ運営です。

最近、クラブの運営や諸活動を前例踏襲で安易にすまそうとする傾向がある中で、リーダーとしての指導性が希薄になり、自らの管理能力や気配り能力を高めることに消極的な役員や理事が少なくないという話を耳にします。

そういう現況だからこそ、幹事のクラブ運営に取り組む真摯で誠実な姿勢、そして確実で献身的な仕事ぶりが重要なのではないでしょうか。普段から全ての会員に対して、高潔で公平公正、気配りと思いやりのある対応を心がける幹事の姿は、後輩の育成、クラブの伝統にも繋がります。だからこそ、幹事はクラブの要（かなめ）なのです。



古い言葉ですが、『好漢（頼もしく、感じのよい人）』と呼ばれるような人物こそ、幹事が目指して欲しい姿です。“役や立場が人を作る”という言葉がありますが、「幹事が終わったら、『好漢』に相応しい人になっていた」ということなら、最高の評価を受けたも同然でしょう。

私の会長年度のクラブ幹事（＝ 私のガバナー年度の地区幹事）は、まさにそういう人でした。

# 附記２ ロータリーのクラブ運営（寒河江ＲＣでの実践）

ここでは、私自身が寒河江ＲＣの会長時代（2009～2010 年）、Guy Gundaker が提示した
＜ロータリークラブの構成と目的＞ の内容を踏まえながら、

**「寒河江ＲＣのクラブ運営において心がけたこと、実践したこと」**

の幾つかを、具体的に述べさせていただきます。皆様の参考になれば幸いです。

＜ロータリークラブの構成と目的＞

ロータリークラブは、異なった事業または専門職務から選ばれた者を以て構成され、次に掲げる目的を達成するために組織されたものである。

第１．会員一人一人の向上
第２．会員の事業の向上（現実と理想の双方において向上）
第３．会員の同業者・業界全体の向上
第４．会員の家庭、町、州、国、ならびに社会全体の向上

先ず、盆と正月、そして祝日が例会日にあたっていた場合を除き、毎週、例会を開催しました。
年度当初のクラブ・アッセンブリでは、歴代の会長から「予算は大丈夫なのか？」と心配されましたが、

**「寒河江ＲＣに入会して２０年、私は会員一人一人の素晴らしさを３０分でも１時間でも語る自信がある。私は毎週、その素晴らしい皆さんに会いたい！ ロータリーの魅力と価値を満喫するには、毎週の充実した例会が何よりも大切です。それを、特に新入会員に実感してもらわなければなりません。」**

と訴え、クラブ会長としての覚悟と心意気を分かってもらいました。もちろん、理事会指定休会もありません。
食事代の捻出など、クラブ幹事には苦労をかけましたが、彼の工夫と配慮には頭が下がります。

例会運営という点では、クラブ会長として最も大切にしていたのは、

**「会員一人一人の向上」こそが、会員増加に繋がる**

という思いであり、それだけに

**「例会運営、会長挨拶、例会プログラム、委員会活動」の４つの充実こそがクラブ活性化と会員増強の極意であり、クラブ会長の最大の責務である**

と、肝に銘じておりました。

そのためにも、

**「会員同士が事業経営上の経験を交換し合い、見識が広がる」例会** （→ P13 参照）

を目指し、クラブ運営の重点目標として「会員スピーチの充実」を掲げたのです。具体的には、「我が半生と仕事、ロータリーを語る」というテーマで、毎回２名ずつ（１人 15 分間）の会員スピーチ例会を年間９回行いました。そして、各々の会員から、自らの生い立ち、事業経営上の体験（失敗談や成功談）、職業観、人生観、ロータリー観などを語ってもらいながら、会員間の敬愛の念とロータリー精神の高揚に努めました。

これ以外にも、ロータリーに精通したベテランの会員から、毎月の「ロータリーの友」や「ガバナー月信」の解説、五大奉仕のクラブ・フォーラム例会や特別月間例会で基調講演をしていただくなど、会員が例会場の壇上でスピーチする機会を例年以上に増やしました。実際、私の会長年度の例会では、クラブ会員 50 名のほぼ全員が、壇上でのスピーチを経験したのです。

一方、ゲスト・スピーチ例会は年間 14 回です。そのスピーチの内容は、行政、教育、金融、芸術、マスコミ、ロータリーなど多岐にわたりましたが、ゲストの人選には十分に気を配りながら、

**「会員の思考の幅を広げ、向上心を喚起させる」例会**（→ P13 参照）

を心がけました。

また、夜の例会は年間 11 回で、うち5回はクラブ・フォーラム、2回は家族例会です。もちろん、どれも懇親会をセットして、ロータリー談義に花を咲かせ、ロータリーの志を高め合う例会を心がけました。

さて、上述したように、クラブ会長の最大の責務は「例会運営、会長挨拶、例会プログラム、委員会活動」の4つの充実ですが、この4つの中で会長の専権事項と言えるのは、

**「会長挨拶（会長スピーチ）」**

だけです。これだけは会長にしかできませんし、会長が唯一の実行者であり、唯一の責任者です。

だからこそ、私は毎回の会長挨拶に「命をかける」思いと準備で取り組み、毎週、ロータリアンの矜持と喜びについて語り続けました。それだけに、私が最も嬉しかったことは、例会終了後の「今日の会長挨拶は、良かったね」や「心が洗われた思いだよ」など、会員からの称賛の感想です。

会長挨拶は、時間がたてば忘れられてしまいます。しかし、上記のような感想があったということは、少なくともその時は、

**「思考の広がりと向上心の喚起」や「奉仕の心の涵養」**（→ P13 参照）

に繋がったはずです。それを毎週続けたのですから、十分な成果が上がった1年間だったように思います。なお、その年度の小生の会長スピーチは 2800 地区のホームページに掲載してありますので、興味のある方はご覧ください。（← **国際ロータリー第 2800 地区ＨＰ　ロータリーを学ぶ「資料６．会長スピーチの心得」参照**）

また、

**クラブ会員の「自己発展」や「指導者としての成長」**（→ P13 参照）

については、入会数年以内の若い会員育成を主眼としたクラブ運営に力を入れました。なぜなら、それが若い会員の“質の強化”と“退会防止”、そして若い世代の“会員増加”にも繋がると信じていたからです。

その1つの方策として、理事会メンバーの「老・壮・青」のバランスに気を配りながら、私は敢えて入会3～4年目の若い会員5人を理事に抜擢し、各々に五大奉仕の委員長を兼務してもらいました。もちろん、力量を見抜いた上での人選です。さらに、彼らの担当委員会の副委員長は、誠実で面倒見が良く、ロータリーの造詣も深いベテラン会員にやっていただきました。その上で、その副委員長と理事・役員の全員が1年間がっちりスクラムを組みながら、若い理事たちに思う存分の大活躍をしてもらったのです。

もちろん、経験不足から多少の失敗もありましたが、それも貴重な財産です。委員会活動にしても、若い感覚と押しの強さで、例年以上の盛り上がりと成果を得ることができました。

ちなみに、何より役に立ったのは、「クラブの会長と幹事の心得」として本節冒頭に掲げた“山本五十六の言葉”でした。

実は、当時の寒河江ＲＣは入会5～6年目で初めての理事を経験するのが慣例で、当初は早過ぎる就任に批判的な意見もありました。しかし、周囲からの助言や援助のおかげで、彼らの例会での報告や説明、計画や準備の確かさなどが次第に評価されるようになり、やがて批判の言葉を耳にすることはなくなりました。それは、彼らが地道にロータリーを学び、理解し、実践に繋げていった証拠でもあります。

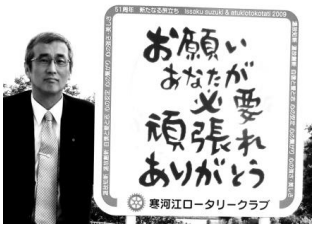
五大奉仕の委員長を担った彼ら理事５人の活動内容についても、少し触れておきます。もちろん、どれもクラブ会員の汗と知恵を伴う、奉仕の喜びと使命感に満ちた事業ばかりです。思い返しても、１年間でよくこれだけの事業をやったもんだと、自分と幹事、そして若い理事たちを改めて褒めてやりたいと思います。

● 青少年奉仕委員会

「心の強さと美しさ」をテーマに、市内小中学生の文集作りと表彰、観劇招待、市民討論会などをセットした青少年奉仕事業。青少年奉仕フォーラムの開催。

● 職業奉仕委員会

高校生の表現力ワークショップ、就職面接指導、職業講話、職場訪問などセットした職業奉仕事業。職業奉仕フォーラムの開催。




● 国際奉委員会

台湾斗南 RC との友情交換（小中学生の短期留学、相互訪問）を主体とした国際奉仕事業。国際奉仕フォーラムの開催。

● 社会奉仕委員会

市内公園２カ所の植栽、植樹、清掃、整備に関わる社会奉仕事業。社会奉仕フォーラムの開催。

● クラブ奉仕委員会

例会プログラムの計画と実施、例会場の設営と雰囲気づくり、ゲストや新入会員への声がけや対応、懇親会の準備と主催、ロータリー・ソング合唱、ロータリーの友の解説、ガバナー月信の解説、例会の出席記録や会報発行などのクラブ奉仕事業。クラブ奉仕フォーラムの開催。

こうして、入会3～4年目の若い理事５名は、１年間で大いに自信をつけ、大きく成長したのです。その後は、彼らは毎年のように理事や役員に引っ張りだこで、最近ではクラブ幹事や会長を任せられています。また、地区の委員長として活躍している人もいます。もちろん、彼らの友人・知人が次々と寒河江 RC に入会してきたことは、言うまでもないでしょう。

クラブ会長としての１年間、私の頭から離れなかった言葉は、Guy Gundaker の

**「ロータリーの究極の目的は、素晴らしい真のロータリアンを育て、支援し、増やすこと」**

でした。私としては、若い有望な人材を育てることの重要性を、特に強調しておきたいと思います。なぜなら、それが会員増強に繋がり、クラブの活性化や発展にも繋がったからです。

それこそ『A Talking Knowledge of Rotary』をクラブ会長心得として駆け抜けた、実に多忙で楽しい、そして有意義な１年でした。何より嬉しかったのは、若い会員からの「ロータリーに入ってよかった」の言葉と、ベテラン会員からの「素晴らしい年度だったね」という言葉です。

会長年度終了後の７月、テレビドラマ「Dr.コトー診療所」のロケ地、沖縄の与那国島で夫婦同伴の最終理事会を開催しました。もちろん旅費は本人持ちですが、大部分の理事夫妻が参加してくれました。そして、我々中高年夫婦らは、１年間の達成感と開放感の喜びで、日本最西端の夕日に向かってバイクで爆走したのです。あの時の夕日が、私には Guy Gundaker の笑顔に見えました。

# おわりに

『A Talking Knowledge of Rotary』の邦訳本が初めて編集発行されたのは 1971 年で、それは、私が最も敬愛するロータリアン、小堀憲助先生の労作です。小堀先生は、後年、むしろ“Guy Gundaker のロータリー観”そのものを体系的にまとめ、それがロータリーの歴史の中で「ロータリーの本質」とも言える内容であることを論じたいと述べています。なぜなら、それがロータリーを正しく理解する上で、またロータリーがますます発展していく上で、とても大切なことだと考えていたからです。それにしても、小堀先生の「稽古照今」という思いにかられた気高い志を、まさか私が引き継ぎ、曲がりなりにも形にしてしまうとは夢にも思っていませんでした。“小堀先生のロータリーに対する情熱が、私に乗り移ったから”としか、言いようがありません。

ロータリーは、多様な分野から選ばれたリーダー同士が、魅力的で価値あるクラブ運営（ロータリーの親睦と学びの場）を通じて、敬愛と信頼に満ちた友情を育み、ロータリーの志を同じくする仲間意識を深めていきながら、ロータリーの奉仕理念を学び合い、それを家庭、クラブ、事業、業界、地域や社会において実践し、自身の成長と誇り、社会全体の向上発展に繋げてきたのです。

これが“Guy Gundaker のロータリー観”の真髄（ロータリーの理想）であり、20 世紀の間、大切にされてきたロータリーの姿（本質）です。そして、こうした「ロータリー精神」に満ちた“素晴らしい真のロータリアン”を育て、支援し、増やしてきたからこそ、「Grow Rotary」は着実に進んできたのではないでしょうか。実際、世界のロータリー会員数は、第２次大戦後、20 世紀末まで右肩上がりで増え続けてきたのです。

ところが、21 世紀に入ってからは 120 万人程度で推移したままです。なぜなら、毎年 10 万人以上がロータリーに入会しているのに、その多くが入会数年以内に退会していくからです。それは、一体なぜでしょう？

**“21 世紀の今日、ロータリーの発展の中で少なからず変貌し、あるいは見失われつつある本来の「ロータリー精神」を再認識する必要がある。さもなければ、「Grow Rotary」の道を正しく進めなくなるのではないか。”**

Guy Gundaker と小堀先生が今も生きていれば、このような危惧を持たれるのではないでしょうか。

それだけに、新入会員に“Guy Gundaker のロータリー観”を正しく伝えながら、輝かしいロータリーの未来を託さなくてはなりません。その場合のキーワードは、もちろん**「Grow Rotarians」**と**「Enjoy Rotary」**です。

1946 年のアメリカ映画『素晴らしき哉、人生！』は、「一人の誠実な人生は、友と出合い、友情を育み、多くの人を不幸から救い、様々な人に幸せをもたらすものだ」という内容の作品です。この映画を、1947 年に他界したロータリーの創立者 Paul Percy Harris も見たとすれば、自分が歩んできた人生の素晴らしさを振り返り、さぞ感動したことでしょう。しかも、この作品はアメリカ映画協会の「感動の映画ベスト 100」において、『街の灯』、『奇跡の人』、『ロッキー』などをおさえ、なんと第１位に輝いているのです。時代が移り変わっても、普遍の価値は燦然と輝き続けるということです。

いつの時代でも変わらない、いや変えてはならないロータリーの普遍の価値は、“Guy Gundaker のロータリー観”です。それを失えば、ロータリーは単なる「奉仕団体の１つ」に過ぎなくなります。だからこそ、私が本解説書で皆様にお伝えしたかったことは、

**“見よ、あの素晴らしきロータリアンを！”**　～ Guy Gundaker ～

と、誰からも称賛されるであろう“素晴らしい真のロータリアン”の姿であり、生き方です。

最後に―。本解説書を編集発行するにあたり、写真を提供してくださった米国議会図書館、貴重なご助言をくださった国際ロータリー日本事務局、そして多大なご協力をいただいた先輩ロータリアンの安孫子貞夫氏、齋藤榮助氏、鈴木宏氏の三人に心より感謝申し上げます。今さら言うまでもなく、私がロータリーに入会していなければ Guy Gundaker を知ることもなかったし、この三人をはじめとした敬愛する数多くのロータリアンに出会うことすらなかったのです。もちろん、本解説書が世に出ることも、決してなかったはずです。

ロータリーの未来に幸あれ！　　2025 年４月３日　鈴木 一作

鈴 木 一 作（職業分類 眼科医） 1955 年 10 月 16 日生まれ

ロータリー歴

| | |
|---|---|
| 1994 | 寒河江ロータリークラブ 入会 |
| 2009～2010 | 寒河江ロータリークラブ 会長 |
| 2012～2015 | 国際ロータリー第 2800 地区 職業奉仕委員長 |
| 2015～2016 | 国際ロータリー第 2800 地区 ロータリー情報委員長 |
| 2017～2018 | 国際ロータリー第 2800 地区 ガバナー |
| 2019～2020 | 国際ロータリー第 2800 地区 研修リーダー |
| | 国際ロータリー研修リーダー |
| 2022～2024 | ロータリーの友 副委員長、理事 |
| 2023～2026 | 国際ロータリー第 2800 地区 規定審議会代表議員 |

職　歴

| | |
|---|---|
| 1988～1990 | 山形大学医学部眼科 助手 |
| 1990～1993 | 山形大学医学部眼科 講師 |
| 1993～ | 鈴木眼科 院長 |
| 2005～2021 | 山形大学医学部 非常勤講師 |

What is Rotary ？

～ Guy Gundaker から学ぶロータリー ～


2020 年 3 月 31 日　初版 発行
2025 年 4 月 12 日　増補改訂 13 版 発行



著　者　鈴 木　一 作（寒河江ロータリークラブ）
協　力　安孫子 貞 夫（寒河江ロータリークラブ）
　　齋 藤　榮 助（米沢中央ロータリークラブ）


＊本書は、2015 年 5 月 8 日以来、国際ロータリー第 2800 地区ホームページ「ロータリーを学ぶ」に改訂を続けながら掲載してきた内容をまとめたものである。
（http://www.rid2800.jp/）

Rotary District 2800


Courtesy of the Library of Congress, Prints & Photographs Division, photograph by Harris & Ewing

ROTARY, ROTARIAN, SERVICE ABOVE SELF, MASTERBRAND SIGNATURE and MARK OF EXCELLENCE are registered trademarks of Rotary International. Rotary International was not involved with the publication of this book and the views expressed in this book do not reflect the views and opinions of Rotary International.